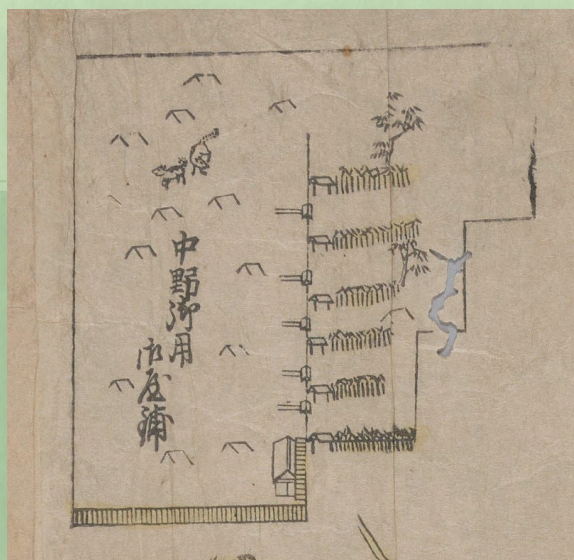


# 明治大学博物館

年報

2024



明治大学博物館

# 年 報

2024 年度



明治大学博物館

# 目 次

|                                                                                                      |    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| I 展示活動 .....                                                                                         | 3  |
| 1. 常設展示の刷新（考古部門） 2. その他の展覧会／コラム展示                                                                    |    |
| II 教育普及活動 .....                                                                                      | 9  |
| 1. 生涯学習講座 2. 博物館実習 3. 在学生対象事業 4. 社会連携・大学間連携<br>5. 博物館ボランティア活動 6. その他普及イベント 7. 明治大学博物館友の会活動           |    |
| III 広報活動と情報発信 .....                                                                                  | 17 |
| 1. オンライン発信 2. 印刷物 3. 報道機関等による取材 4. ミュージアムショップ                                                        |    |
| IV 研究活動 .....                                                                                        | 22 |
| 1. 調査・研究 2. 研究業績                                                                                     |    |
| V 博物館登録 .....                                                                                        | 26 |
| VI 収蔵資料 .....                                                                                        | 27 |
| 1. 資料収集 2. 資料整理 3. デジタルデータ化 4. 資料利用 5. 図書                                                            |    |
| VII 統計・一覧・資料 .....                                                                                   | 37 |
| 1. 入館データ 2. 組織・構成 3. 予算・決算 4. 施設概要・見取り図 5. 規程<br>6. 2024 年度博物館事業計画 7. 明治大学博物館のあゆみ                    |    |
| VIII 講義録 伝統的工芸品の経営とマーケティング Vol.16 「経営環境の変化に適応する—信楽焼窯元経<br>営の軌跡—」 「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト推進部会 ..... | 59 |
| IX 1957～65 年収集の館蔵観光土産文化資料について 戸部瑛理 .....                                                             | 66 |
| X 伝上野国綿貫古墳群出土の龍文金銅透彫製品 忽那敬三 .....                                                                    | 77 |



# I 展示活動

## 1. 常設展示の刷新（考古部門）

### (1) 概要

アカデミーコモンに博物館が開設されてから 2024 年 4 月で 20 年が経ち、また 2026 年 4 月には前回の展示替えから 10 年が経つことから、2023～2025 の 3 ヶ年度にかけて常設展示 3 部門（商品・考古・刑事）を刷新する。刷新にあたっては、提供する学術情報を最新のものに更新し、展示内容に持続可能な 17 の開発目標（SDGs）や建学の精神（権利自由、独立自治）に基づく人権・平和教育の観点を盛り込む方針とした。2024 年度は考古部門の新展示について 2025 年 3 月に列品作業をおこなった。

### (2) 展示コンセプト

- ・ 戦後の日本考古学史を書き変えた明治大学博物館所蔵資料の重要性をよりダイレクトに伝えるため、重要文化財を中心に代表的な資料を視覚的に認識しやすい形で明示した。
- ・ すべての文化財は国民共有の財産であり、埋蔵文化財の継承と活用の持続性を高めるには、アーカイブされた遺物や遺跡の情報が等しく活用・提供される必要がある。来館者にとって、展示がオンライン上の情報にアクセスするきっかけ（入口）となる役割を持たせた。
- ・ SDGs 目標 4（質の高い教育をみんなに）に基づき、視覚障がい者や小学生以下の来館者を念頭に置いた博物館教育のバリアフリー化の試みを行った。また、展示におけるコントラストや見学順、導線等、「見学しやすさ」の改善をはかった。

### (3) 具体的な変更点

#### ① 代表的資料の明示

##### ア 国指定重要文化財展示の特化

日本列島の人類史にとって重要であると評価されることで、特に次代への継承が重視されているのが重要文化財・都指定文化財等の指定物件である。常設展示している 5 件の重要文化財は、展示台を黒色とすることで、他の資料と明確に区別し、視覚的にコントラストをつけた。教科書にも掲載されるような重要資料を「代表的展示資料（これだけは見ていってほしいもの）」として、より認識可能な形とした。

##### イ 各コーナーの解説パネルの刷新

旧パネルは時代全体の概要や背景の説明を主としていたが、当館の展示資料・遺跡の重要性を強調するため、近年の研究動向・成果を踏まえつつ展示資料・遺跡名を本文中に積極的に記載する形に変更した。

国指定史跡や重要文化財等の情報も加えることで、遺物・遺跡の重要性を理解できるようにした。

#### ② オンライン情報へのアクセス

##### ア ONLINE ミュージアム 3 次元画像へのリンク

当館ホームページの ONLINE ミュージアム「じっくり見る」で 3 次元画像を公開している考古遺物の隣に QR コードパネルを設置し、来館者各自のスマートフォンでアクセス可能とした。



## イ 現地の史跡情報へのリンク

展示資料と整備された現地の史跡や展示施設をリンクさせるため、オンライン上で公開されている展示遺跡・施設の詳細情報や位置情報 33 件について、展示ケース前パネルのシートに QR コードを掲載し、来館者各自のスマートフォンでアクセス可能な形とした。

## (4) 理解の深化への方策

### ① 展示ツールの多元化

#### ア 立体模型による「触る」展示

岩宿遺跡打製石斧、亀ヶ岡遺跡遮光器土偶、出流原遺跡顔面付壺形土器、伝京都府三角縁神獣鏡（表と裏）の 4 点について 3 D 模型を製作し、展示ケース前パネルに設置することで、当館で初となる常設の「触る展示」とした。模型の隣には視覚障がい者向けに点字シールを付した短文の解説を設けた。

#### イ 銅鐸の音を「聞く」展示

復元品の舌（ぜつ、鐘を鳴らす棒状の部品）を使用し、収蔵品の四区袈裟襷文銅鐸を鳴らした音を収録した。銅鐸の展示ケースに設置した QR コードパネルを読み込むことで、来館者各自のスマートフォンで銅鐸の音を聞くことができる形とした。

#### ウ イラストによる解説

石庖丁、鉄斧、銅鐸、武器形青銅器は、小・中・高の教科書に登場する考古資料でありながら、展示された遺物を見ただけでは使用方法の理解が困難である。石川日出志教授監修のもと、専門のイラストレーターによる使用方法のイラストパネルを制作し、容易に理解できる形とした。

#### エ 動画による古墳壁画の展示

虎塚古墳の壁画は著名な遺跡でありながら、展示スペースの関係で写真のみの展示とせざるを得ず、十分情報を提示できない状態であったが、壁画と古墳の 3 D データ（ひたちなか市教育委員会提供）と、発掘直後の映像（NHK 撮影）を動画にまとめ、館内に新設するディスプレイで再生することで、より深い理解が可能な展示を実現した。

### ② 「理解しやすさ」の改善

#### ア パネル番号と時代別のカラーリング

古墳時代から逆回りで見学する来館者が多いことから、解説パネルには商品部門と同様に見学順の番号を通番で付した。また、時代ごとのエリアを印象付け、展示にコントラストを加えるため、各コーナーのタイトルパネルは時代ごとにテーマカラー（旧石器：赤、縄文：緑、弥生：黄、古墳：青）を設定した。

#### イ ケース内クロス・展示台クロスの張替え

劣化が目立っており見学の妨げになっていたが、主要部の張り替えを行い、解消した。

### ③ 研究動向を踏まえた内容の変更

解説テキストパネルの記述内容の修正、一部のグラフィック（図）パネルの刷新・修正、弥生時代の年代表記の修正等をおこなった。

### ④ 新規の展示資料

旧石器時代：佐賀県鈴桶遺跡出土石器（後期旧石器・縄文後期：先駆的な石材原産地研究の評価）、長野県

広原遺跡群出土石器（後期旧石器前半：近年の明大黒耀石研究センター研究成果の反映）、弥生時代：神奈川県赤坂遺跡鉄斧（教科書でも取り上げられる弥生時代の鉄器化を示す）、古墳時代：茨城県三昧塚古墳復元冠（2022 年度制作。関東の古墳文化ならびに三昧塚古墳の重要性を示す）

## (5) ケース改修・パネルの刷新

劣化した展示ケース内クロス・埴輪ステージ中段の張り替え（9カ所）、展示台クロスの張り替え（白 104 点、黒 33 点）、同新作（5 点）、解説パネル及びグラフィックパネル（一部）の更新、キャプションの新作および更新を行った。



国指定重要文化財展示の特化



立体模型による「触る」展示

### 銅鐸の音を聴いてみよう

展示している四区袈裟袴文銅鐸の内面を、青銅製の舌でやさしく叩いて鳴らした音です。





お手持ちのスマートフォンで QR コードを読み込んでリンク先にアクセスしてください。

※音が出ますので、再生時は他の見学者のご迷惑にならないよう十分ご注意ください。

銅鐸の音を「聞く」展示

## 2. 常設展示の刷新に係わる教材開発

商学部「商品学」（上原義子兼任講師）の授業内で商品部門常設展を見学・レポートするにあたって利用する想定の下、展示見学の視点や補足情報を記したシートを商品部門で作成した。

## 3. その他の展覧会／コラム展示

### (1) 主催・共催展覧会

#### ① 新収蔵・収蔵資料展 2024

会期 11月11日～12月14日

入場者数 3,676名

主催 明治大学博物館

2022・2023年度の購入資史料・関連収蔵資料の公開を主な目的として考古部門からは「女子埴輪頭部」（伝茨城県出土）、刑事部門からは錦絵「山門豪傑双録」などを展示した。また、商品部門はテーマ展「記録写真にある資料」を行った。

#### ② 発掘と発見の考古学—明大考古学 75 年—

会期 2025年1月11日～3月15日

入場者数 6,142名

主催 明治大学博物館

共催 文学部史学地理学科考古学専攻

群馬県岩宿遺跡や神奈川県夏島貝塚などの国指定重要文化財 5 件を中心とした考古資料の数々から、戦後の日本考古学研究を牽引した本学の調査と研究の歩みを振り返った。

※考古部門の常設展示室改修に伴い、主要資料を移設して展示した。

#### ③ 進化する信楽焼の『伝統』

会期 2025年3月26日～5月20日

入場者数 441名（2025年3月31日時点）

主催 明治大学博物館

2019～2024年にかけて実施した信楽焼（滋賀県）調査の成果を紹介。実用品生産の有力産地として常に時代のニーズに沿って進化を続けてきた来歴を反映したバラエティ豊かな現代の信楽焼商品の特性と近年のトレンドを分析している。

#### ④ 明治大学商品陳列館企画展の軌跡

会期 3月26日～5月20日

入場者数 441名（2025年3月31日時点）

※③と同時開催

主催 明治大学博物館

大学紛争鎮静の後、再興に際して伝統的工芸品を主要な収集・展示資料とした旧商品陳列館は、1990年代後半に地域別・種目別に系統立った伝統的工芸品コレクションの充実を目指して収集活動に注力した。その成果を反映して開催された企画展を回顧している。

### (2) その他の展覧会

#### ① 連続テレビ小説「虎に翼」展

会期 3月25日～10月28日

入場者数 74,565名

主催 NHK 財団

会場 特別展示室Ⅰ 入場無料

2024年春から連続テレビ小説「虎に翼」が放送された。主人公は、日本初的女性弁護士で後に裁判官となった一人の女性。彼女とその仲間たちは困難な時代に道なき道を切り開き、迷える子どもや追いつめられた女性たちを救っていく——情熱あふれる法曹たちの物語を極上のリーガルエンターテインメントである。本展示では、「番組紹介パネル」や番組小道具、劇中衣装、出演者全身パネル、セット再現などを通して、連続テレビ小説「虎に翼」の世界を紹介した。

#### ② 女性法曹養成機関のパイオニア—明治大学法学部と女子部—

会期 3月25日～10月28日

入場者数 74,565名 ※①と同時カウント

主催 明治大学史資料センター

会場 特別展示室Ⅱ 入場無料

大学史資料センター（所長・村上一博法学部教授）では、日本初的女性弁護士を輩出した明治大学法学部および専門部女子部（1929年設置）と、その卒業生について紹介する展覧会を開催



した。明治大学は、いち早く法学を志す女性に門戸を開くため、1929（昭和4）年4月に専門部の一部門として女子部を設置し、1931（昭和6）年には女子部の卒業生に対して明治大学が設置する学部への入学を認めた。その結果、女子部と法学部で学んだ女子学生のなかから、三淵嘉子、中田正子、久米愛という3名の日本初の女性弁護士が誕生し、その後もしばらくは、女性弁護士の多くが明治大学女子部と法学部で学んだ者たちで占められた。本展覧会では、日本における女性法曹養成のさきがけとなった明治大学法学部および女子部、またその卒業生の活躍について詳しく紹介した。

### (3) コレクション展

#### ① 商品部門

##### ア 遠くへ行くこと 1959年～67年のおみやげをめぐって

会期 2023年11月29日～2024年1月20日、  
3月2日～4月30日 83日間

高度経済成長期の人々の移住や旅行の動きに注目し、1959年～67年の置物や人形を計30点展示。

##### イ 郷土かるた いろは

会期 5月8日～6月29日 46日間  
群馬県の「上毛かるた」をはじめ全国に千数百種も存在するといわれる郷土かるたの内、当館が所蔵する地域に根差したかるたを展示した。

##### ウ 紺 紵

会期 7月2日～8月26日 39日間  
日常衣料生地として隆盛した日本の紺紵について、1961～64年に収集した伊予紵の着尺地と、インテリア雑貨の素材などへ市場を開拓する現在の状況を紹介。

##### エ 九州の陶磁器

会期 8月30日～10月15日 37日間  
唐津焼、薩摩焼、有田焼の資料を展示し、中

国や朝鮮半島など近隣国のスタイルを先んじて導入した九州地方の多様な陶磁器文化を紹介した。

##### オ ロクロの造形

会期 10月17日～12月24日 57日間  
華やかな表面加飾の裏に隠れた超絶技法。寸分違わぬ形状をいくつも作る高度に熟練した職人業であるロクロ挽きに焦点を当てた。

##### カ 釉薬 いろいろ

会期 2025年1月8日～3月3日 43日間  
表面を覆うガラス質の被膜を生じ、陶磁器の強度や防汚性を高めるとともに、ツヤや色を生み出し装飾的な役割を果たす「釉薬」の多彩な色を紹介した。

##### キ 1970万博前夜の舶来品

会期 2025年3月5日～5月31日 72日間  
1961～1966年に百貨店が販売していた輸入雑貨は1ドル360円の固定相場だった当時、庶民にとって高嶺の花だった。現在との価値感の違いに着目した。

#### ② 刑事部門

##### ア 中世の土地事情－明治大学博物館所蔵長福寺文書を手がかりに－

会期 前期3月23日～4月20日、後期4月23日～6月22日 75日間

主催 文学研究科日本史学専修中世史ゼミ・  
刑事部門

文学研究科日本史学専修中世史ゼミの学生が、展示品選び、テーマ設定、キャプション原稿などをすべて担当。当館が所蔵する長福寺文書を通じて、中世の土地に関する契約を紹介した。

##### イ 慶安事件と捕者道具

会期 6月27日～10月19日 87日間  
慶安事件は慶安4年（1651）におきた由井正雪、丸橋忠弥らによる牢人の幕府転覆計画で、事前に幕府に知られ未遂に終わった。この展示では、幕府が大名に出した由比正雪の人相

書や、丸橋忠弥を題材とした歌舞伎の芝居絵、芝居絵に描かれた捕縛の道具（十手、なえし）などを展示した。

#### ウ 延岡藩の献上品

会期 10月26日～2025年3月8日 98日間  
江戸時代には様々な地域の産物が幕府へ献上されており、日向国延岡藩（現・延岡市）からは干小鯛、塩狗脊（しおおかぐま）、塩鮎の3品を献上していた。本展示では、延享4年（1747）に延岡藩の藩主となり、幕末まで延岡を治めた内藤家の残した記録から、これらの献上品について紹介した。

#### エ お江戸の契約書～近世町人社会の請人と請状～

会期 2025年3月25日～6月23日 75日間  
主催 明治大学文学部史学地理学科日本史学専攻日本近世史ゼミ・刑事部門  
江戸時代の古文書の中から、雇用をめぐる契約書である請状と引取一札を取り上げ、当時の人々の契約の様子や働き方を紹介した。  
展示は明治大学文学部史学地理学科日本史学専攻日本近世史ゼミに所属する学生が担当した。

### ③ 考古部門

#### ア 明大コレクション 56:装飾付大刀の刀装具

会期 1月13日～4月13日 75日間  
伝宮崎県百塚原単鳳環頭・同大刀鞘などを例に、装飾付大刀の装具から大刀の系譜と盛衰や古墳時代における大刀の社会的な役割について紹介した。

#### イ 明大コレクション 57:中国鏡

会期 4月22日～6月22日 51日間  
明大コレクション1の中国鏡を再度展示した。

#### ウ 明大コレクション 58:貝塚の骨から見る縄文時代の暮らし

会期 7月2日～9月13日 53日間  
主に千葉県内の貝塚から出土した人骨や、動物等の骨・角から作られた製品（骨角器）か

ら当時の食生活や動物利用を紹介した。

#### エ 明大コレクション 59:さまざまな人物埴輪

会期 9月30日～12月14日 64日間  
東京国立博物館の「はにわ」展開催にあわせ、当館所蔵の代表的な人物埴輪を紹介した。特に挂甲武人で注目された彩色がある資料について解説を加えた。

#### オ 明大コレクション 60:佐賀県桜馬場遺跡の甕棺

会期 2025年3月26日～7月5日 80日間  
弥生時代中・後期の甕棺墓群である桜馬場遺跡の甕棺の中から、杉原荘介氏調査時に出土した第2号甕棺と副葬品であるガラス製管玉に加え、関連する有鈎銅釧（レプリカ）を展示した。

## II 教育普及活動

### 1. 生涯学習講座

#### (1) リバティアカデミー博物館入門講座

##### ① 今日から始める古文書講座

|                                             |                                                                      |        |    |
|---------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|--------|----|
| 日 時<br>定 員                                  | 10月17日、11月14日、12月12日、<br>2025年1月16日 木曜日<br>14:00～15:30〈全4回〉 定員 対面15名 |        |    |
| 講 師                                         | 日比佳代子（刑事部門学芸員）                                                       |        |    |
| 受講料                                         | ¥8,800                                                               | 受講登録者数 | 6名 |
| 辞書の使い方、字を見分けるポイントなど、古文書解説の基礎的な知識を学ぶ受講者参加型講座 |                                                                      |        |    |

#### (2) リバティアカデミー博物館公開講座

##### ① 明治大学博物館考古学ゼミナール

##### ア 第72回 資源環境と人類適応の諸相：石材資源と植物資源を中心に（ハイブリッド）

【企画】島田和高

|                                                                                                                                                          |                                                                              |        |                   |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|--------|-------------------|
| 日 時<br>定 員                                                                                                                                               | 5月31日～6月28日 毎週金曜日<br>15:00～16:30〈全5回〉 定員 対面60名、<br>オンライン100名                 |        |                   |
| 講 師                                                                                                                                                      | ①島田和高(明治大学博物館)、②池谷信之(明治大学黒耀石研究センター：COLS)、③栗島義明(COLS)、④能城修一(COLS)、⑤遠藤英子(COLS) |        |                   |
| 受講料                                                                                                                                                      | ¥11,000                                                                      | 受講登録者数 | 42名(対面24、オンライン18) |
| 人類－資源環境系研究を実施している明治大学黒耀石研究センターの研究結果から、日本の旧石器／縄文時代の石材資源と植物資源の利用を中心に先史人類による資源開発と環境適応の諸相についてわかりやすく紹介した。                                                     |                                                                              |        |                   |
| ①黒曜石産地の狩猟採集民－最終氷期の環境と人間行動－（島田）<br>②黒曜石需給からみた縄文時代の集団関係(池谷)<br>③ヒスイに魅せられた縄文人－装身具素材の開発とその流通－（栗島）<br>④縄文時代の森林環境への適応と植物資源利用（能城）<br>⑤東アジアで栽培化された雑穀のユーラシア横断（遠藤） |                                                                              |        |                   |

##### イ 第73回 石川日出志 弥生時代を語る

（ハイブリッド）

【企画】忽那敬三

【企画協力】文学部史学地理学科考古学専攻

|                                                                                                  |                                                                            |        |                   |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|--------|-------------------|
| 日 時<br>定 員                                                                                       | 10月11、25日、11月8、22日、<br>12月6日 金曜日<br>16:00～17:30〈全5回〉 定員 対面60名、<br>オンライン90名 |        |                   |
| 講 師                                                                                              | 石川日出志（文学部教授）                                                               |        |                   |
| 受講料                                                                                              | ¥11,000                                                                    | 受講登録者数 | 52名(対面27、オンライン25) |
| 2025年3月に定年退職された講師の原点である縄文時代から弥生時代にかけての土器研究から近年の璽印考古学まで、1974年の明大入学から現在に至るまでの考古学専攻と自身の研究の歩みを振り返った。 |                                                                            |        |                   |
| ①わが考古学を顧みる ②土器屋－縄文から弥生へ ③再埋葬の世界を追う ④考古学は近現代史 ⑤「漢委奴國王」金印の探求                                       |                                                                            |        |                   |

#### (3) 商学研究科と共催の公開特別講義

##### ①経営環境の変化に適応する－信楽焼窯元経営の

軌跡－商学部・商学研究科連携 伝統的工芸品の経営とマーケティング Vol.16

|                                                                                                                                                                                                                                           |                                         |      |      |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|------|------|
| 日 時<br>会 場                                                                                                                                                                                                                                | 12月5日 木曜日 9:00～10:40<br>リバティタワー リバティホール |      |      |
| 講 師                                                                                                                                                                                                                                       | 西尾照幸（株式会社卯山製陶代表取締役）                     |      |      |
| パネリス<br>ト                                                                                                                                                                                                                                 | 菊池一夫（商学部教授）上原義子（商学部兼任講師・高千穂大学商学部准教授）    |      |      |
| 進 行                                                                                                                                                                                                                                       | 外山徹（商品部門学芸員）                            |      |      |
| 参加費                                                                                                                                                                                                                                       | 無料                                      | 受講者数 | 180名 |
| 商学研究科「商品学特論B」「商業経営論特論B」、商学部「商品学B」「商業経営論B」の拡大版として実施。1990年代初頭のバブル景気崩壊以降、我が国の経済は低迷し、在来産業は衰退・再編を余儀なくされる状況に直面した。信楽焼（滋賀県）は近代化の過程において常に変化し続ける時代の要請に応じてきた実績を持つが、劇的な社会変容をともなった平成から令和にかけての時代をどのように乗り切ってきたのか。この間の取り組みを検証し、将来へ向けてどのような展望が見出せるか議論を深めた。 |                                         |      |      |

## 2. 博物館実習

### (1) 館務実習

#### ①商品部門

参加者数 明治大学 7 名

《実習内容》

館内施設・設備見学、ワークシート作成実習、収蔵資料整理(台帳カード作成、保存容器組立と資料収納)、資料原簿のデジタル化

#### ②刑事部門

参加者数 明治大学 6 名

《実習内容》

館内施設・設備見学、古文書整理、マイクロフィルム整理、調湿剤の入れ替え、展示資料法量測定、目録内容の精査作業、展示調査・解説発表

#### ③考古部門

参加者数 明治大学 18 名、八洲学園大学 1 名

《実習内容》

収蔵資料整理、木製品・金属製品保存処理、梱包資材制作、坂本万七写真研究所コレクション整理、コレクション展パネル制作、企画展・コレクション展撤収作業補助、展示解説、図書排架整理、職場体験補助、生涯学習講座運営見学、防災訓練見学

## 3. 在学生対象事業

### (1) 「大学博物館の現場を実見する」(全学共通総合講座)

秋学期開講 月曜 2 限

《授業の概要・到達目標》

本学の博物館は 90 年以上の歴史を持つ。収蔵資料の充実や利用者サービスで大学博物館トップクラスの評価を得ており、その存在が明治大学の教育・研究活動を特色付けている。この授業では、学術資源の豊富な収蔵を特徴とする大学博物館を事例として、資料収集の経緯と手順、学術資源として幅広く研究に活用されるための手当て、さらに研究成果を社会に還元する装置としての展

覧会開催に言及し、大学及び大学博物館と一般市民による生涯学習活動との関わりなど、収集・研究・教育という博物館活動の一連の流れを理解する。

| 回  | テーマ                        | 担当者           |
|----|----------------------------|---------------|
| 1  | イントロダクション／博物館の役割と機能        | 駒見和夫*         |
| 2  | 我が国における大学博物館の現状と明治大学博物館の歴史 | 外山 徹          |
| 3  | 博物館資料の形成 1 (旧石器～縄文)        | 島田和高          |
| 4  | 博物館資料の形成 2 (弥生～古墳)         | 忽那敬三          |
| 5  | 博物館資料の形成 3 (商品関係資料)        | 外山 徹          |
| 6  | 博物館資料の形成 4 (刑事関係文献・歴史資料)   | 日比佳代子         |
| 7  | 生涯学習と友の会活動                 | 外山 徹          |
| 8  | 博物館資料の保管と整理                | 忽那敬三<br>日比佳代子 |
| 9  | 博物館の施設・設備                  | 島田和高          |
| 10 | 考古資料の発掘と調査・研究 1 (旧石器時代研究)  | 島田和高          |
| 11 | 考古資料の発掘と調査・研究 2 (埴輪研究)     | 忽那敬三          |
| 12 | 古文書資料の調査・研究と資料公開           | 日比佳代子         |
| 13 | 商品部門常設展の企画立案から制作まで         | 外山 徹          |
| 14 | 総括 ふりかえりと意見交換              | 駒見和夫          |

\* 文学部教授(学芸員養成課程)・博物館運営委員・本講座コーディネーター

受講登録者数 18 名

※実物資料の取り扱いの都合上、履修者の上限を 24 名とした。また、都合により一部授業の順を入れ替えて実施した

### (2) 在学生対象バックヤードイベントの実施

学部・学科の枠組を越えた教育の実践として、ワークショップ及びバックヤードツアーを実施した。学生向けポータルサイト Oh-o!Meiji への告知により各回定員 12 名を募集した。



### ①ワークショップ@バックヤード

| 回 | 月日    | テーマ                        | 担当 | 人数  |
|---|-------|----------------------------|----|-----|
| 1 | 6/8   | 石器時代の知恵と工夫・縄文石斧に触れる        | 島田 | 11名 |
| 2 | 7/20  | 秀吉が出した手紙も見られちゃう？はじめての古文書体験 | 日比 | 6名  |
| 3 | 10/12 | ハケメ！スカシ！いまこそ学ぼう「はにわ」の世界    | 忽那 | 7名  |
| 4 | 11/9  | 秀吉が出した手紙も見られちゃう？はじめての古文書体験 | 日比 | 3名  |
| 5 | 11/30 | 石器時代の知恵と工夫・縄文石斧に触れる        | 島田 | 3名  |
| 6 | 12/14 | 稲作と金属器の伝来・弥生時代に触れる         | 忽那 | 5名  |

### ②バックヤードツアー

①5/11 10名 ②5/25 12名 ③7/6 9名  
④10/5 11名 ⑤10/19 6名 ⑥11/16 3名  
合計 51名

### (3) 文学部史学地理学科日本史学専攻日本近世史野尻泰弘ゼミ・明治大学博物館共催コラム展「お江戸の契約書～近世社会の請人と請状」

博物館という環境と、国内有数の良質な収蔵資料を活用し、学生に実践的な学びの場を提供するべく、日本史学専攻日本近世史ゼミの学生が主体となった小規模展示を企画した。文学部野尻泰弘教授の指導のもと、展示品選び、資料の解説、テーマ設定、展示タイトル、キャプション原稿作成などの展示準備を、すべて学生が担当。博物館は学生が様々なことに挑戦することのできる教育的・成長促進的視点に立った支援をめざし、スケジュール管理や内容の助言、ポスター類のデザインなどを担った。

#### 《活動内容》

資料調査5回、展示に向けた打ち合わせ3回、列品作業1回を実施。会期終了後に撤収作業を予定している。

### (4) 史学地理学科考古学専攻・日本史学専攻新入生見学会

#### ① 考古学専攻

日時 4月13日 10:00～11:30

参加人数 新入生 52名

常設展示室・考古エリアの展示解説と、博物館図書室ならびに写真保管庫・作業室・収蔵庫のバックヤード施設を見学し、利用方法や施設の機能のレクチャーを行った。

#### ② 日本史学専攻

日時 4月13日 15:00～17:00

参加人数 学生 47名、教員 9名、助手 3名

村方文書の実物、内藤家文書の実物を2会場に列品し、常設展示室、2つの古文書会場を順に学生が見学。古文書会場では、教員と学芸員が協力して、史料の解説や質問への受け答えなどを行った。

### (5) 展覧会関連イベント

#### ① 「新収蔵・収蔵資料展 2024」クイズキャンペーン

Oh-o! Meiji ポータルサイトの「アンケート」応募フォームを使用したクイズイベントを開催。全問正解者には博物館特製めいじろうキーホルダー等をプレゼントした。

期間：12月9日（月）～12月14日（土）

参加者数：37名

### (6) 学生広報アンバサダー

学生同士が交流を深め、充実した学生生活を過ごせるよう支援するプログラムとして、2021年5月から学生広報アンバサダーを募集、活動をサポートしている。2024年度は20名のメンバーが活動を行った。

#### ① 春学期の活動（4月1日～9月19日）

##### ア 三淵嘉子さんが学んだ千代田区マップの刊行

- ・ 三淵嘉子さん（NHKの連続テレビ小説『虎に翼』の主人公モデル）が明治大学で学んでいた頃（1930年代）から設置・創業しているスポ

ットを取材して制作したマップ。

- ・ 神田・御茶ノ水・神保町を中心に 10 スポット、また三淵さんに関するコラム 3 本を掲載。館内や千代田区観光案内所などで無料配布を行った。
- ・ A4 判、2 つ折り 4 ページ、40,000 部、2024 年 4 月

#### イ 新入生交流会の開催（4 月 20 日）

- ・ 新入生に博物館を観て、知ってもらうとともに、学部を越えた明大生同士の絆づくりのきっかけとなることを目的とした企画。
- ・ 約 10 名の新入生が参加、自己紹介の後、展示品の名称を用いた「しりとりゲーム」で交流を深めた。博物館学生広報アンバサダーを交えた懇談では、授業に関する先輩への質問や、サークル・出身地などさまざまな話題に花が咲いた。

#### ウ 「明治大学博物館×三淵邸・甘柑荘－三淵嘉子さんをたどる－」2 施設めぐりスタンプラリーの開催

- ・ 三淵嘉子さんが学んだ東京都千代田区（明治大学博物館）、夫婦の絆を深めた神奈川県小田原市（三淵邸・甘柑荘）をめぐり、施設周辺の散策を併せて楽しむスタンプラリー。
- ・ 2 施設のスタンプを集めた方には記念品（コンパクトミラー）を贈呈した（期間：4 月 30 日～10 月 28 日）

#### エ 各キャンパスでのチラシ配布

- ・ 企画展「女性法曹養成機関のパイオニア－明治大学法学部と女子部－」と明大生が使える「美術館・博物館の会員制度」の両面チラシを各キャンパス昼休みに配布。
- ・ 5 月 20 日和泉、22 日中野、27 日生田、29 日駿河台、全 4 キャンパス各 1 回。
- ・ チラシ配りにはめいじろうも協力、一緒に写真を撮りたい学生も集まり、広報効果を高めた。

#### オ 子ども歴史アカデミーの開催（8 月 9 日）

- ・ 千代田区在住・通学の小中学生を主たる対象としたイベント「子ども歴史アカデミー」は、①紙粘土を用いた縄文土器工作、②博物館見学ツアーを開催。約 25 名が参加した。千代田区ミュージアム連絡会及び千代田区内大学と千代田区の連携協力に関する基本協定に基づき、千代田区公式 LINE と区内掲示板にて広報活動を実施した。

#### ②秋学期の活動（9 月 20 日～3 月 31 日）

##### ア 博物館漫画家・鷹取ゆう氏講演会の開催

- ・ 出版文化産業振興財団が主催する「BOOK MEETS NEXT」に参画し、博物館漫画家・鷹取ゆう氏による講演会を開催した。博物館に関わるきっかけや今後のミュージアム体験の展望などについての講演には、近隣大学の学芸員養成課程履修生や一般社会人など多くの聴衆が集まった。併せて、講演会終了後に博物館の夜間開館も実施した。
- ・ 11 月 8 日（金）18 時 30 分～19 時 30 分、グローバルフロント 1 階グローバルホールにて開催。参加費無料、参加者 70 名。

##### イ 子ども歴史アカデミーの開催（11 月 23 日）

- ・ 夏季休業期間中に開催した子ども歴史アカデミーが好評を博し、即日で定員を充足したことから第 2 回を企画。紙粘土を用いた縄文土器工作に約 15 名が参加した。今回についても、千代田区公式 LINE と区内掲示板にて広報活動を実施した。

##### ウ 第 20 回父母交流会への参加（11 月 24 日）

- ・ 明治大学連合父母会が主催する第 20 回父母交流会にて、ポスター展示及び『三淵嘉子さんが学んだ千代田区マップ』の配布を行った。

##### エ 常設展示刷新に向けたヒアリング会への参加（3 月 14 日）

- ・ 博物館事務長からの依頼に応え、常設展示刷新に向けたヒアリング会にメンバー 4 名が参加した。
- ・ 学生、若者の視座から、現在の常設展示への評

価及び 2025 年度実施予定の刑事部門の常設展示刷新計画への意見を述べた。

## (7) その他学生教育への協力

### ① 学芸員養成課程「ミュージアムコミュニケーション A (担当：駒見和夫文学部教授)」

- ・ 授業内の「明治大学博物館でミュージアムグッズの新製品を企画する」という課題から考案された「土偶ヘアゴム」を商品化。遮光器土偶・山形土偶を印刷した 2 種類、各 300 円。
- ・ TBS ラジオ「アフター6ジャンクション 2」にて、ミュージアムグッズ愛好家の大澤夏美さんによるベスト・ミュージアムグッズ 2024 第 1 位に選定された。

## 4. 社会連携・大学間連携

### (1) 地域連携

#### ① 宮崎県延岡市

宮崎県延岡市史編集委員会専門部会（近現代部会）の委員を委嘱（日比学芸員）。延岡市史による内藤家文書の調査を 8 月 19 日 9 名、8 月 20 日 6 名、11 月 13 日 3 名、2025 年 2 月 6 日 1 名で受け入れ。公益財団法人野口研究所所蔵の延岡市関係史料調査に参加（11 月 11 日）。

#### ② 茨城県

報告書作成に伴う三昧塚古墳出土埴輪資料の撮影を実施。ONLINE ミュージアムの新規コンテンツに三昧塚古墳出土甲冑を撮影のうえ追加。茨城県立歴史館による玉里舟塚古墳出土埴輪（同館収蔵品）の修復事業助成申請への協力（推薦書作成）。

#### ③ 大英博物館所蔵ウィリアム・ガウランド写真資料（寄託資料）関連資料の活用事業

明大コレクション 59:「さまざまな人物埴輪」（9 月～12 月）で大英博物館所蔵女子埴輪のレプリカ（2018 年制作、当館蔵）を展示。また、同埴輪の体験用レプリカを展示解説ボランティアによる常設展示室のハンズオン学習で使用（2024 年 9 月

～2025 年 2 月）。

#### ④ 佐賀県多久市、同伊万里市

佐賀県多久安山岩原産地における遺跡調査指導委員会（多久市教育委員会所管）および同腰岳黒曜石原産地における遺跡調査指導委員会（伊万里市教育委員会所管）の委員を委嘱（島田）。現地での指導の他、明治大学発掘地点を中心とした多久三年山遺跡一帯から出土した出土遺物のデータベース化を当館と現地多久市郷土資料館にて実施（4 月～8 月）。

## (2) 大学間連携：南山大学人類学博物館との交流事業

### ① 学術シンポジウムの開催

タイトル：博物館の行く道

日時：12 月 9 日（月）13:00～17:30

会場：南山大学 R 棟 1 階会議室

趣旨：2022 年には博物館法が改正され、次いで国際博物館会議（ICOM）が博物館の新定義を採決するなど、新時代の博物館のあり方が問われている。地域社会との連携、市民ボランティアの育成、大学における人材育成といった各分野の第一線から専門家を招いたパネルディスカッションを行った。

《次第》

趣旨説明 黒澤 浩（南山大学人文学部教授）

基調講演 山本哲也（國學院大学文学部教授）

「博物館のチカラ—これまでとこれから—」

報告 1：端山聡子（東京国立近代美術館企画課教育普及室長）「ミュージアムにおけるボランティア主体性を引き出すためのマネジメントとは—」

報告 2：高橋健太郎（豊田市博物館副館長）

「博物館は地域のなにをつくることができるか—豊田市の取組から—」

報告 3：駒見和夫（明治大学文学部教授）

「学芸員制度と養成教育の軌み」

討論 司会：外山徹（明治大学博物館学芸員）

パネリスト：山本哲也・端山聡子・高橋健太郎・  
駒見和夫

参加者：対面 28 名 オンライン 85 名

## ② 在学生向け特別講義

### ア 南山大 5 月 21 日（火） 5 限

テーマ 大学博物館の使命と機能

講師 外山徹（商品部門学芸員）

受講生 56 名

※黒沢浩教授「博物館概論」として実施

### イ 明治大 11 月 22 日（金） 3・4 限

テーマ 南山大学人類学博物館の試み／資料  
をさわる、ということをめぐるー人類学博物  
館ワークショップの実践ー

講師 黒沢 浩（南山大学人文学部教授）

受講生 71 名

※学芸員養成課程「博物館実習」として実施

## 5. 博物館ボランティア活動

### （1）常設展解説ボランティア

#### ① 参加者 友の会会員 31 名

毎週月曜・火曜・木曜・金曜の週 4 日体制で実施。

#### ② 研修日程及び内容

##### ア 展示解説員研修

5 月 22 日：博物館教育 展示解説の理念と博物  
館教育の特性／避難経路の確認／考古部門 1・  
2（旧石器時代・縄文時代ほか）

5 月 29 日：考古部門 3・4（弥生・古墳時代）

6 月 5 日：刑事部門 1・2（日本の罪と罰、捜査  
と逮捕）

6 月 19 日：刑事部門 3・4（取り調べ、刑罰）

6 月 26 日：商品部門 1・2（資料収集の変遷、  
伝統工芸品の成立）

7 月 3 日：商品部門 3・4（移り変わる商品、現  
代を映す伝統工芸）

##### イ フォローアップ研修

2025 年 3 月 5 日実施

## （2）図書室ボランティア

### ① 参加者 友の会会員 22 名

2024 年 4 月・5 月は毎週月・木・土の週 3 日実施。

6 月～12 月は月・水・木・土の週 4 日実施。2025  
年 1 月より、運営体制の調整のため土曜のみの週  
1 日に縮小。

## 6. その他の普及イベント

各種イベントにおいてクイズラリーを行い、全問正  
解者には博物館特製缶バッジ等をプレゼントした。①  
オープンキャンパス（8 月 2・3 日）参加者数カウン  
トせず、②ホームカミングデー（10 月 27 日）参加者  
150 名、③父母交流会（11 月 24 日）参加者 198 名。

## 7. 明治大学博物館友の会活動

### （1）概要

#### ① 会員数

540 名

#### ② 総会

6 月 1 日開催。2023 年度事業報告／2023 年度会  
計監査報告／2024 年度事業計画／2024 年度予  
算案/役員改選

### （2）活動記録

#### ① 講演会

ア 総会特別講演会（対面）「弥生時代観を見直  
すー70 歳の視点ー」（6 月 1 日）

参加者 117 名

講師 明治大学文学部教授 石川日出志

イ 琉球史講演会（Zoom）「琉球王国と種子島」  
（7 月 6 日）

参加者 31 名（会員限定）

講師 名桜大学上級准教授 屋良健一郎

ウ 日本考古学 2024 講演会（対面）（10 月 5  
日）

参加者 71 名（うち明大生聴講 10 名）

「同位体分析による縄文人の植生と生業の多様  
性」



講師 東京大学総合研究所教授 米田穰  
「道具としての縄文土器～粗製土器とは何か～」  
講師 明治大学文学部教授 阿部芳郎

**エ 中・近世史講演会(対面)「椿井文書—日本最大級の偽文書」(10月19日)**

参加者 26 名  
講師 中京大学文学部教授 馬部隆弘

**オ 博物館館長講演会(対面)「私たちはなぜ、お人好しでだまされやすいのか～進化心理学入門～」(11月30日)**

参加者 43 名  
講師 明治大学博物館館長 石川幹人

**カ 第27回古代史講演会(Zoom)「倭国の時代」(12月21日)**

参加者 74 名 (オンデマンド利用者 68 名)  
講師 神戸大学教授 古市晃

**キ 会員発表会&外山学芸員講演会(ハイブリッド、2025年3月24日)**

参加者 43 名 (対面 21、Zoom22)  
第1部 会員発表会  
「古代インド文化が我が国へ伝播した痕跡を求めて」 下山繁昭会員  
「『公事の巻』事件 切支丹を疑われた富士行者」 大谷正幸会員  
第2部 講演会  
「近世村方文書の魅力」 明治大学博物館学芸員 外山徹

**② 見学会**

**ア 第26回会員案内による地元見学会「川崎市を訪ねる Part3 古代川崎の行政・文化の中心地“橘樹”の地をゆく」(5月21日)**

案内会員 前林芳雄  
現地講師：新井悟 (川崎市教育委員会事務局生涯学習部文化財課技術職員)、栗田一生 (川崎市教育委員会事務局生涯学習部文化財課課長補佐)  
参加者 22 名

**イ 宿泊見学会「北武蔵から南下野の遺跡を巡る2日間」(11月6日～7日)**

現地講師：篠田泰輔 (行田市郷土博物館学芸員)、築木誠 (栃木県考古学会顧問)、井沢加奈子 (壬生町歴史民俗資料館学芸員)、内山敏行 (栃木県埋蔵文化財センター副所長)、山口耕一 (しもつけ風土記の丘資料館館長)、大貫圭亮 (小山市教育委員会事務局文化振興課)  
参加者 17 名

**ウ 江戸時代を探訪する Part10「洗足池から池上へー西郷・勝両雄会見の地を訪ねるー」(2025年2月25日)**

現地講師：星川礼応 (大田区立勝海舟記念館学芸員)、安藤昌就 (池上本門寺霊宝殿学芸員)  
参加者 16 名

**③ 広報活動**

**ア 会報発行**

年4回 (春・夏・秋・冬)

**イ 行事案内**

友の会ホームページでの情報提供

**ウ 友の会掲示板の活用、行事チラシの作成**

**④ 博物館への協力**

博物館図書室管理は10月から週4日体制としたが、2025年1月から土曜のみの週1日体制とした。展示解説は週3日体制を10月から週4日体制とした。

| 担当       | 活動日     | 活動者数 |
|----------|---------|------|
| 博物館図書室管理 | 月・水・木・土 | 22 名 |
| 展示解説     | 月・火・木・金 | 31 名 |

**⑤ 学習サークル (活動は原則として月1回)**

| 分科会名        | 会員数  | 担当者・講師          |
|-------------|------|-----------------|
| 古文書を読む会     | 18 名 | 外山学芸員<br>森朋久氏※1 |
| 平成内藤家文書研究会  | 11 名 | 伊能秀明氏※2         |
| 工芸の会        | 10 名 | 外山学芸員           |
| 旧石器・縄文文化研究会 | 23 名 | 島田学芸員           |
| 弥生文化研究会     | 17 名 | 忽那学芸員           |

|               |      |       |
|---------------|------|-------|
| 古文書の基礎を学ぶ会    | 30 名 | 日比学芸員 |
| 前方後円墳研究会      | 22 名 | 忽那学芸員 |
| 「倭国から大和」を学ぶ会  | 22 名 |       |
| 古代東北アジアと日本研究会 | 19 名 |       |
| 飛鳥・奈良の会       | 24 名 |       |

※1 明治大学農学部兼任講師

※2 元明治大学刑事博物館学芸員

# Ⅲ 広報活動と情報発信

## 1. オンライン発信

### (1) ホームページの公開

#### 利用案内

- ＞開館情報
- ＞団体見学について
- ＞博物館図書室のご案内
- ＞古文書閲覧について
- ＞ミュージアムショップ M2
- ＞博物館所蔵資料の利用
- ＞館内の取材・撮影について

#### 交通アクセス

#### 展示紹介

- (常設展示)
  - ＞大学史展示室
  - ＞商品部門
  - ＞刑事部門
  - ＞考古部門
- (企画展・特別展)
  - ＞2025 年展覧会案内
  - ＞2024 年展覧会案内
  - ＞過去の展覧会(2015 年～)
  - ＞過去の展覧会(2004 年～2014 年)
- (その他)
  - ＞ONLINE ミュージアム
  - ＞Mm×おうちミュージアム
  - ＞博物館アーカイブ

#### 博物館概要

- ＞博物館長ごあいさつ
- ＞理念・目標
- ＞博物館紹介動画
- ＞博物館所蔵資料紹介
- ＞博物館の重点事業
- ＞学芸スタッフ紹介
- ＞教育プログラム
- ＞広報誌「ミュージアム・アイズ」
- ＞博物館年報
- ＞リンク

#### よくある質問

#### 博物館友の会

- ＞入会のご案内
- ＞行事予定
- ＞展示解説ボランティアについて
- ＞博物館図書室受付ボランティアの募集について

＞分科会のご案内

明治大学博物館へ寄付をお考えの方へ

ニュース一覧・イベント一覧

このような方はこちら

- ＞明治大学博物館の団体見学をご希望の方
- ＞明治大学博物館所蔵資料を出版・放送等に利用される方
- ＞明治大学博物館へ取材を希望される方

明治大学博物館 公式 Facebook

明治大学博物館 公式 X (旧 Twitter)

明治大学博物館 公式 Instagram

明治大学博物館 公式 note

明治大学博物館 ONLINE ミュージアム

明治大学デジタルアーカイブ

Mm×おうちミュージアム

### (2) 明治大学博物館 ONLINE ミュージアムの拡充

#### ① 概要

2024 年度には、以下のシステム改修とコンテンツ制作を行なった。

#### ア 検索エンジン最適化 (SEO)

- ・クローラビリティやページ速度を最適化し、検索エンジン評価を向上。
- ・競合分析とユーザー検索傾向の調査を行い、最適なキーワードを選定。
- ・コンテンツとメタデータの最適化を実施（タイトル・見出し・メタディスクリプション等）。
- ・英語、中国語（繁体字、簡体字）、韓国語によるキーワードの登録を実施。

#### イ オンラインミュージアム多言語化対応

- ・Google による機械翻訳機能を導入し、Language ボタンから機械翻訳ができる機能を追加。

#### ウ 自動翻訳対応のためのデザイン修正

- ・WEB サイトヘッダー部分に「Language ボタン」を設置。
- ・「Language ボタン」から遷移する機械翻訳の説明ページを新規制作。  
<https://ict-museum-meiji.tokyo/language/>

#### エ 常設 VR のポップアップを増設

常設 VR 展示室内に、考古 4 件、刑事 4 件のコンテンツを追加登録。

#### オ 詳しく見るコンテンツの追加

- ・3D 撮影（横矧板鋌留短甲、横矧板鋌留衝角付冑）を実施。撮影したデータは、編集後にじっくり見るコンテンツに掲載。
- ・刑事高精細絵図画像の新規コンテンツ登録を実施。

### ② 主要コンテンツ

#### ア 「展示室をあるく」

Matterport を用いて常設展示室を VR 化し、自由探索型のバーチャル展示室を実装。

#### イ 「詳しく知る」

メニューから削除。明治大学デジタルアーカイブヘリンクを設定。

#### ウ 「じっくり見る」

オブジェクト VR や 3D モデル、高精細 2D 画像を用いた資料観察用のインタラクティブコンテンツ

#### エ 展示会アーカイブ

特別展・企画展ほかの動画コンテンツを配信

#### オ カタログ

前場幸治瓦コレクション資料目録ほか

### (3) 明治大学デジタルアーカイブへの参画

#### ① 概要

明治大学デジタルアーカイブは、明治大学が収集・蓄積してきた文化的資産へのアクセスを容易とし、知の創造と人材の育成を通し、自由で平和、豊かな社会を実現することを目的としている。デジタル化未対応資料は、継続的にデジタル化を行

い、随時追加公開する予定である。※当サイトは公益財団法人図書館振興財団の 2023 年度助成を受けて構築された。（サイト利用案内より抜粋）

#### ② 掲載画像数（2024 年度現在）

ア 商品部門 169 件

イ 刑事部門 181 点

ウ 考古部門 494 点

### (4) Mm×おうちミュージアム

北海道博物館が呼びかけている「おうちミュージアム」の取り組みに参画している。賛同する全国の 200 館を超える博物館・美術館が「おうちミュージアム」という共通の冠名称を共有して、コロナ禍による臨時休館措置の代替事業として、あるいは自宅学習を余儀なくされている児童・生徒向けのサービスとして、館内情報の発信、また自宅で学べるコンテンツなどの紹介をはじめた。

#### ① コンテンツ一覧（2024 年度現在）

##### ア 収蔵資料紹介

###### 商品部門

むかしの絵でみることわざ 小学校高学年向け（PDF）／小学 5～6 年生向け 伝統工芸をまなぶ（PDF）／漆器①②③（動画）

###### 刑事部門

武家諸法度（PDF）／生類憐みの令（PDF）／公事方御定書（PDF）／武家諸法度一文言の変化と幕府政治の変化―（動画）／生類憐みの令―生き物の保護と中野の犬小屋―（動画）／公事方御定書（動画）／様々な十手（動画）／江戸の物価と世直し一揆（PDF）／図解五拾五ヶ條（動画）／捕者道具 他（動画）／印章の話（動画）／高札①②（動画）

###### 考古部門

亀ヶ岡遺跡出土 遮光器土偶（動画）／舟塚古墳出土馬形埴輪（動画）／茂呂遺跡出土ナイフ形石器（動画）

#### ② 企画展記録動画

備前焼の新たな価値創造（動画）



こ・と・わ・ざー風刺とユーモアー（動画）  
 因・伯・雲のやきもの—山陰の手仕事から（動画）

### ③ 展示解説シート

北東北の縄文遺跡群（PDF）

### ④ アクティビティ

武道修行鍛錬競ぬりえ／土器をくっつけて復元してみよう（神奈川県二ツ池遺跡出土：壺形土器・パズル）／めいじろうぬりえ「やよいどきをぬってみよう！」「アマビエめいじろうをぬってみよう！」

## (5) 博物館利用案内動画

常設展刷新中のため 2024 年度は新規なし。

## (6) オンラインによる広報活動

### ① SNS による情報発信

#### ア 展覧会に係わる広報

「女性法曹養成機関のパイオニア」「連続テレビ小説『虎に翼』展」4/1～10/25(27 回)／「新収蔵・収蔵資料展 2025」10/30～12/13(13 回)／「発掘と発見の考古学」1/8～3/14（13 回）  
 「進化する信楽焼の『伝統』」（2 回）

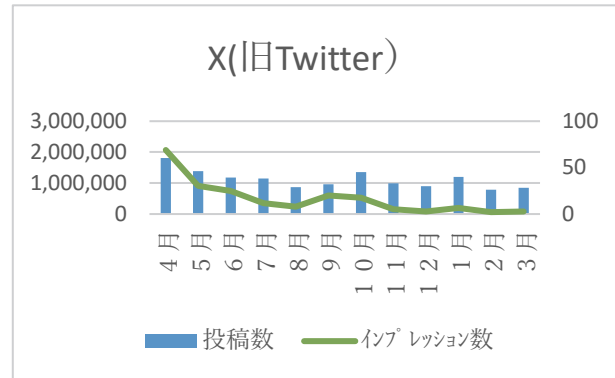
#### イ 定期コンテンツ

商品新展示紹介 4/4～8/8（19 回）／自由投稿 通年(124 回)

### ② 発信数・閲覧数の推移（大学史関係の投稿数含む）

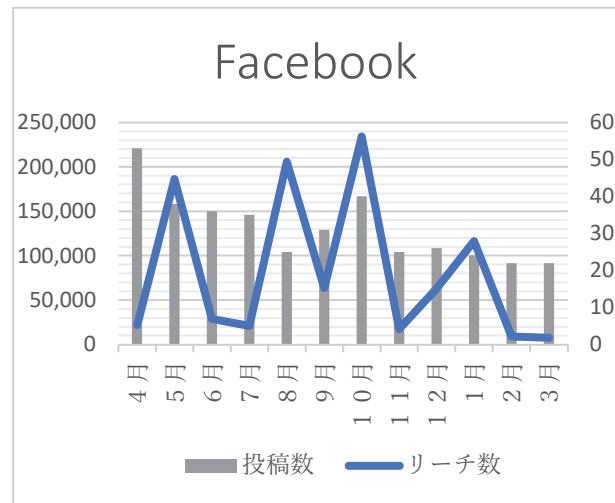
#### ア X（旧 Twitter 上段：投稿数、下段：閲覧数）

| 4 月       | 5 月     | 6 月     | 7 月     | 8 月     | 9 月     |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 60        | 46      | 39      | 38      | 29      | 32      |
| 2,067,977 | 911,111 | 741,272 | 346,720 | 231,796 | 600,960 |
| 10 月      | 11 月    | 12 月    | 1 月     | 2 月     | 3 月     |
| 45        | 33      | 30      | 40      | 26      | 28      |
| 520,438   | 150,987 | 82,658  | 189,747 | 61,561  | 80,511  |



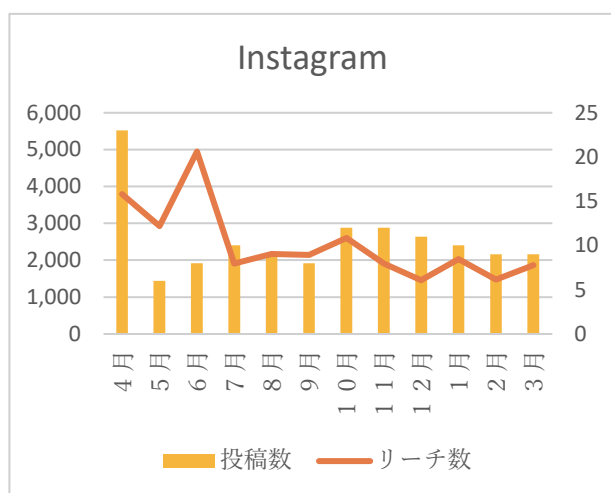
#### イ Facebook（上段：投稿数 下段：閲覧数）

| 4 月     | 5 月     | 6 月    | 7 月     | 8 月     | 9 月    |
|---------|---------|--------|---------|---------|--------|
| 53      | 38      | 36     | 35      | 25      | 31     |
| 22,093  | 186,188 | 28,726 | 20,833  | 205,850 | 63,268 |
| 10 月    | 11 月    | 12 月   | 1 月     | 2 月     | 3 月    |
| 40      | 25      | 26     | 24      | 22      | 22     |
| 234,230 | 17,159  | 63,109 | 116,404 | 8,956   | 7,774  |



## ウ Instagram (上段：投稿数 下段：閲覧数)

| 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 23    | 6     | 8     | 10    | 9     | 8     |
| 3,789 | 2,921 | 4,946 | 1,907 | 2,170 | 2,144 |
| 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    |
| 12    | 12    | 11    | 10    | 9     | 9     |
| 2,598 | 1,912 | 1,462 | 2,027 | 1,462 | 1,876 |



※閲覧数について、Xはインプレッション (のべ閲覧数)、Facebook と Instagram はリーチ数 (同一閲覧者による複数回閲覧数を除外) をそれぞれサイトが提供するデータを掲載している。

## (7) オンラインイベントへの参加

### ① IMインターネットミュージアム「ミュージアム千支コレクション 2025」

商品部門収蔵ののぐみ人形十二支土鈴《巳》(時田昌瑞ことわざコレクション 1950 年代) をエントリーした。12 月 11 日から 1 月 24 日までの 45 日間にわたる投票期間に 127 票を得て 18 位となった。

## 2. 印刷物

### (1) 展覧会リーフレット

#### ① 「新収蔵・収蔵資料展 2024」

800 部 11 月 11 日発行

#### ② 「発掘と発見の考古学」

4,000 部 2025 年 1 月 11 日発行

### (2) 『明治大学博物館年報 2023 年度』

冊子版：A4 判、130 頁、100 部、2025 年 3 月 10 日発行 (配布は学内関係者のみ)

デジタル版：2025 年 1 月 10 日公開 (博物館 HP)

### (3) その他

展覧会案内 2025 年 (A4 判三ツ折) 20,000 部

## 3. 報道機関等による取材

### (1) 新聞掲載

#### 「千代田区マップ」紹介

「読売新聞夕刊」 読売新聞社

「朝日新聞朝刊」 朝日新聞社

#### 考古部門コラム展告知

「朝日新聞夕刊」 朝日新聞社

#### 明治大学博物館考古部門コラム展紹介

「毎日新聞社夕刊・デジタル」 毎日新聞社

#### 商品部門コラム展告知

「朝日新聞夕刊」 朝日新聞社

#### 企画展「発掘と発見の考古学」告知

「朝日新聞夕刊」 朝日新聞社

#### 明治大学博物館刑事部門及び展示物紹介

「朝日新聞デジタル」 朝日新聞社

#### 企画展「進化する信楽焼の『伝統』」告知

「朝日新聞夕刊」 朝日新聞社

### (2) テレビ放映

#### 連続テレビ小説「虎に翼」展紹介

「首都圏ネットワーク」 NHK

#### 「千代田区マップ」紹介

「首都圏ニュース」 NHK

#### 明治大学博物館紹介

「東京サイト」大学の博物館 テレビ朝日

#### 明治大学博物館紹介（再放送 4 回目）

「探検！博物館ワンダーランド」NHK-BS プレミアム 4K

### (3) 雑誌・書籍掲載

『一日乗車券でめぐる東京』 昭文社

明治大学博物館案内

『東京マニアック博物館』 メイツ出版

明治大学博物館刑事部門紹介

『新訂大学博物館事典』 日外アソシエーツ

明治大学博物館紹介

『蛭雪時代 8 月臨時増刊』 旺文社

明治大学博物館案内

『美術年鑑』2025 年度版 美術年鑑社

明治大学博物館案内

『散歩の達人 MOOK 東京散歩地図』 交通新聞

明治大学博物館・阿久悠記念館紹介

『養命酒だより』53 養命酒製造

明治大学博物館案内

『東京さんぽたび』 コスミック出版

明治大学博物館紹介

### (4) 官公庁刊行物掲載

#### ① 明治大学博物館案内掲載

『ちよだ生涯学習ガイドブック』 九段生涯学習館

『千代田ミューズ&シアターマップ』 千代田区地域振興部文化振興課

『東京バリアフリーガイドブック』 東京都産業労働局

### (5) ウェブサイト掲載

#### ① 明治大学博物館案内掲載

「ウォーカープラス」 KADOKAWA

「千代田ミューズ&シアターマップ」 千代田区地域振興部文化振興課

「オンラインミュージアム「MU」」 能登印刷株式会社

「Cutie Walk JAPAN」 Cutie Walk JAPAN

「まっぷる情報確認サイト」 昭文社

「NAVITIME」 ナビタイムジャパン

「るるぶ観光データベース」 JTB パブリッシャーズ

「千代田区観光協会ホームページ」 千代田区観光協会

以上、明治大学博物館案内

#### ② 明治大学博物館紹介掲載

「神田いらっしやい百景」 オープンカンダ

「ななめうえトラベル」 エレビスタ

## 4. ミュージアムショップ

### (1) グッズ販売

見本を展示、受付窓口で刊行物等有償頒布

#### ① 2024 年度新規開発商品

考古部門 3 色ボールペン 400 部 8 月販売開始

トートバッグ 200 個 10 月販売開始

ヘアゴム（遮光器土偶・山形土偶） 830 個 10 月販売開始

### (2) 他館の情報

大学博物館及び関連する博物館・美術館・学会等のリーフレット・チラシを配布

### (3) 来館者の声

来館者による展示見学に関するアンケート用紙を掲示

### (4) 友の会ブース

博物館友の会の活動報告 お知らせの掲示

### (5) 博物館からのお知らせ

博物館のイベント情報 報道機関の博物館・美術館関係の記事切り抜きの掲示

# IV 研究活動

## 1. 調査研究

### (1) 商品部門

#### ① 特定課題「近代鍋島焼及び十二代柿右衛門初期作品の研究」に係わる調査研究

##### ア 鍋島御庭焼・柿右衛門窯調査(9月18・19日)

鍋島御庭焼当主市川光春氏、柿右衛門窯有田本店長酒井田淳志氏

館蔵の精陶社取扱商品資料を製造した三代光春氏について、また、佐賀藩窯の後身である精巧社を継承して以来の同窯の来歴についてヒアリングをおこない、館蔵資料の写真を提示して講評をいただいた。

柿右衛門窯では参考館及びショールームを視察し今後の調査への協力を依頼した。また、佐賀県立陶磁文化館図書室にて参考文献を閲覧した。

##### イ 柿右衛門窯調査・文献調査(2025年3月28・29日)

柿右衛門窯有田本店長酒井田淳志氏、同窯岩崎純二氏、伊万里市民図書館、有田町立図書館、佐賀県立図書館

柿右衛門窯における昭和戦前期から戦後期にかけての東京方面への出荷の状況及び当館受贈品についての所見を伺った。また、現地図書館の郷土資料のコーナーにて関連の書物を閲覧し十二代柿右衛門及び近代鍋島焼について情報収集を行った。

##### ウ 外部研究者による実見評価(2025年1月24日)

戸栗美術館学芸課長黒沢愛氏を招聘し、館蔵鍋島焼について実見・検証をした結果、1点を除いて何れも近代以降の製造によるものという評価が得られた。このことによって鍋島の様式を持つ35点が、佐賀藩御用窯の後

継窯の製品として研究対象となることが確認された。

#### ② 伝統的工芸品のマーケティング研究

##### ア 京焼・清水焼調査(2025年2月19・20日)

京都陶磁器会館事務局長南明秀氏・事務スタッフ田附眞喜子氏・ギャラリーチーフ岡田佳子氏・販売スタッフ助田敏隆氏、清水焼団地協同組合 事務長北村政彦氏、株式会社熊谷聡商店(卸売商社)代表取締役社長 熊谷隆慶氏

調査員：菊池一夫(商学部教授)、上原義子(商学部兼任講師・高千穂大学商学部准教授)、外山徹

京焼・清水焼の定義、陶器・磁器それぞれの使用する施釉技法・絵付技法の特徴、技法継承の流派や人材育成、流通機構、近年の販路開拓、商品開発の動向についてヒアリング調査をおこなった。また、館蔵清水焼資料に係わる情報を収集した。

##### イ 瀬戸赤津焼・美濃焼調査(2025年3月12・13日)

株式会社山長陶苑(卸売商社)代表取締役寺田康孝氏、美濃焼伝統産業会館(美濃焼伝統工芸品協同組合)、館長中嶋直樹氏、道の駅土岐美濃焼街道どんぶり会館(とき窯元共販協同組合)

調査員：菊池一夫(商学部教授)、上原義子(商学部兼任講師・高千穂大学商学部准教授)、外山徹

山長陶苑では2008年の調査時からの変化に注目し、ヒアリング調査をおこなった。これまで調査をおこなった産地との比較検討の材料を得るため、伝統陶器としてポピュラーな「志野」「織部」で知られる美濃焼につい



て、伝統工芸品協同組合事務局長でもある中嶋直樹氏に対しヒアリング調査を行った。また、伝産品以外の製品について、とき窯元共販協同組合が運営する即売場を視察した。

## (2) 刑事部門

### ① 科研費基盤研究(B) 23H00605 (代表・文学部 牧野淳司教授)「中近世毛利家における知的体系の復元的研究—明治大学図書館所蔵毛利家旧蔵書を起点に」(研究期間 2023～2027 年度)の実施 (研究分担者：日比佳代子)

近代以前、全国各地の大家では、それぞれ特色ある蔵書が形成された。それらのうち、もっとも重要なものの一つが毛利家の蔵書である。現在、毛利家の蔵書は、全国各地の文書館・博物館・図書館に分散して保管されている。所蔵機関の多くで毛利家文庫旧蔵書の整理が行われているものの、毛利家の蔵書の全体像は未だ不明であり、関係諸機関と連携をはかりつつ、かつて毛利家が築いた蔵書の全体像とその性格に迫ることを目指す。明治大学図書館所蔵の毛利家文庫旧蔵書も、毛利家の蔵書を構成する重要な一群であり、本研究ではこれを調査・整理して目録を作成する。同時に、博物館にも毛利家文庫旧蔵の史資料が保管されており、これについても目録を作成する。

2024 年度は山口県文書館所蔵文書と博物館所蔵毛利家文書と関係を明らかにするため、両者の目録を付き合わせる調査を 11 回実施した。

## (3) 考古部門

### ① 国際的黒曜石研究拠点 (ハブ) の構築：黒曜石原産地判別法の国際標準の導入と新展開：島田和高 (研究分担者、研究代表者：長崎大学隅田祥光 22H00740)

本課題では、黒曜石製遺物の原産地推定システムの構築と実践を目的としている。波長分散型蛍光 X 線分析 (WDXRF) による地質黒曜石のデータベースとリンクしたエネルギー分散型蛍光 X 線分

析 (EDXRF) による機器非依存方式の多量遺物分析を特色としている。当該分担者は、EDXRF 分析として可搬型の EDXRF 装置を用いて、考古学的に設定された課題にもとづいて遺物黒曜石の分析を推進している。2024 年度には、佐賀県多久サヌカイト (デイサイト質安山岩～流紋岩) の原産地分析システムの構築を進めた。また、黒曜石消費遺跡の密集地の一つである相模野台地の旧石器石器群の体系的な原産地分析を計画し一部実施した。

### ②「古墳時代の霞ヶ浦北岸における首長系譜の研究」報告書作成作業

成果報告書作成作業を考古学専攻と共同で実施。茨城県立歴史館で資料写真撮影 (4 月 26 日)。2025 年度に報告書『茨城県行方市三味塚古墳の研究』を PDF 版で公開予定。

## (4) 調査等出張

佐賀県多久市教育委員会 (遺物調査、8 月 18～14 日：島田科研費) / 相模原市立博物館 (遺物調査、10 月 6 日：島田科研費) / 大和市教育委員会 (遺物調査、2025 年 2 月 27・28 日：島田科研費) / 佐賀県伊万里市教育委員会 (遺跡調査指導委員会、2025 年 3 月 6～7 日：島田招聘) / 公益財団法人野口研究所 (東京都、資料調査、11 月 11 日：日比招聘) / 延岡城・内藤記念博物館 (延岡市、資料調査、2025 年 3 月 4～6 日：日比) / ひたちなか市埋蔵文化財センター (茨城県、古墳保存対策作業、4 月 16 日：忽那招聘) / 茨城県立歴史館 (茨城県、報告書写真撮影、4 月 26 日：忽那) / 友の会前方後円墳研究会山梨県の古墳現地踏査 (山梨県、同行講師、5 月 17 日：忽那) / 東京国立博物館 (東京都、修理契約委員会、6 月 11 日、忽那招聘) / 和泉キャンパス図書館 (東京都、収蔵資料関連講演会参加、6 月 17 日：忽那) / 千葉県立中央博物館 (千葉県、館蔵資料パネル展示視察、7 月 6 日：忽那) / 友の会弥生文化研究会福島県の弥生・古墳時代遺跡踏査 (福

島県、同行講師、9月20・21日：忽那）／古美術風招、繭山龍泉堂ほか（東京都、購入候補資料調査、10月12日）／古美術風招（東京都、購入候補資料引き取り、10月18日）／ひたちなか市埋蔵文化財センター（茨城県、古墳保存対策作業、10月31日：忽那招聘）／駒澤大学（東京都、学会動向調査、11月16日：忽那）／群馬県立歴史博物館（群馬県、購入候補資料調査、11月21日：忽那）／ひたちなか市埋蔵文化財センター（茨城県、古墳保存対策作業、11月28日：忽那招聘）／東京国立博物館（東京都、購入候補文化財の価格評価、12月12日、忽那招聘）／ひたちなか市埋蔵文化財センター（茨城県、古墳保存対策作業、3月13日：忽那招聘）

## 2. 研究業績

### (1) 論文・著書

忽那敬三 2025「伝茨城県石岡市周辺出土の女子埴輪頭部」『明治大学博物館年報 2023』pp.57-58, 明治大学博物館

忽那敬三 2025「対面式の展示解説」『博物館展示論 第2版』pp.130-138, 講談社

忽那敬三 2025「講座・講演会」『博物館教育論第2版』pp.42-51, 講談社

島田和高 2025「綾瀬市上土棚遺跡第1次調査出土黒曜石製石器の原産地推定結果」『明治大学博物館年報 2023』pp.51-56, 明治大学博物館

Shimada, K. (in press) Paleolithic human behaviors at obsidian sources: Local-scale variability of obsidian acquisition and site formation in and around obsidian sources in Japan's Central Highlands. *Journal of Archaeological Science: Report*.

島田和高 2025「北海道基準原石試料と濃度ベース機器非依存方式を用いた p-XRF 黒曜石原産地推定：西富遺跡 C 地点（北海道虻田郡ニセコ町）」『資源環境と人類』15, 明治大学黒曜石研究センター

島田和高・長澤有史 2025「田名塩田遺跡群 B 地区（神奈川県相模原市）出土細石刃石器群の黒曜石原産地分析」『相模原市立博物館研究報告』33, 相模原市立博物館

日比佳代子 2025「〈資料紹介〉内藤家文書「従奥州磐城平日州延岡江御所替覚帳」上巻」(『明治大学博物館年報 2023 年度』pp.1-45, 明治大学博物館

### (2) 学会発表

島田和高「基準原石試料を基礎とした p-XRF 原産地分析について」『シンポジウム：黒曜石原産地判別法の進展と展望を探る』2024 年 11 月 10 日、オンライン、口頭発表

島田和高「広原遺跡群再訪－黒曜石原産地推定と原産地の人間行動－」『シンポジウム「黒曜石研究の射程－その拡張に向けて－」発表要旨集』pp. 10-12, 2025 年 1 月 25 日、明治大学グローバルフロント、口頭発表

外山 徹「明治大学博物館の事業展開－大学の経営戦略との整合性について－」『全日本博物館学会シンポジウム：大学が博物館を持つ意義－大学における付属博物館の役割を改めて考える－』2025 年 3 月 16 日、東京国立博物館黒田記念館、オンライン、口頭発表

### (3) 講演等

忽那敬三「人物・動物埴輪の世界－霞ヶ浦北部地域を中心に－」土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場考古資料館第 27 回企画展『りりんロードでめぐる文化財』記念講演会 2024 年 10 月 20 日、上高津貝塚ふるさと歴史の広場考古資料館

島田和高「黒曜石原産地の狩猟採集民－最終氷期の環境と人間行動－」明治大学リバティアカデミー第 72 回博物館公開講座考古学ゼミナール『先史時代の資源環境と人類適応の諸相：石材資源と植物資源を中心に』2024 年 5 月 31 日、明治大学アカデミーコモン

外山 徹「ポスト『バブル経済』期から今日にいたる社会変容と陶磁器産地の動向」（令和6（2024）年度第6回「しがらきコトづくり研究会」事業 コトづくりセミナー）2025年3月3日、滋賀県工業技術総合センター信楽窯業技術試験場

## V 博物館登録

我が国の博物館法は博物館登録制度を定めている。収蔵資料とその保管・活用にふさわしい施設・設備を持ち、必要な人員を配置し、充実した事業計画・実績があるか、都道府県または指定都市の教育委員会が審査することにより法的な位置づけを与える制度である。博物館登録は、従来、地方公共団体や財団法人、宗教法人等に設置者が限定されていたため、大学博物館は登録博物館に準ずる「博物館相当施設」に位置付けられ、当館もその指定を受けていた。

この度、2022年4月の法改正にともない新たな登録制度へ移行するとともに、設置者要件が拡大され、学校法人や独立行政法人、株式会社その他の法人が設置する博物館も登録対象となったことから、新たに博物館登録をおこなうこととした。

8月20日付で登録申請書及び基準に適合していることを証する書類、補助資料一式を東京都教育庁地域教育支援部管理課に提出し、審議の結果、12月23日付で登録博物館として登録された。



# VI 収蔵資料

## 1. 資料収集

### (1) 資料数（部門別）

|                |    | 刑事      | 考古      | 商品    | 合計      |
|----------------|----|---------|---------|-------|---------|
| 受<br>入         | 購入 | 1       | 2       | 16    | 19      |
|                | 受贈 | 1       | 1       | 3     | 5       |
| 合計             |    | 2       | 3       | 19    | 24      |
| 前年度<br>総数      |    | 215,285 | 218,658 | 5,182 | 439,125 |
| 今年度<br>総数      |    | 215,287 | 218,661 | 5,201 | 439,149 |
| 時田昌瑞ことわざコレクション |    |         |         |       | 1,450   |
| 前場幸治瓦コレクション    |    |         |         |       | 10,725  |
| 総合計            |    |         |         |       | 451,324 |

※実測図・書籍・写真は含めない

### (2) 購入資料一覧

| 種別・分類 | 資料名                                                                                                                                                                                                                             |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 古文書   | 広橋兼綱書状 一幅                                                                                                                                                                                                                       |
| 考古遺物  | 伝上野綿貫古墳出土金銅透彫製品<br>銅鐸舌復元品（制作）                                                                                                                                                                                                   |
| 商品資料  | 信楽焼<br>茶壺（急須）（大西左朗・作）<br>手洗鉢（丸滋製陶）<br>さくらんぼエクボカップ<br>さくらんぼ反り鉢（以上、巖陶房）<br>鉄散（粉引）八角プレート<br>瀬荒横彫 丸型手付スープカップ<br>飴釉 りんご鉢（以上、古谷製陶所）<br>Plate L (Noon white)<br>Mug (Morning blue)<br>Mug (Sunset pink)（以上、キギと創造）<br>ライン し の ギ コーヒーカップ |

|      |                                                                                                                                       |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 商品資料 | （「Madu」オリジナル、株式会社ハッカ）<br>[JIMOTO Made]マグ Shigaraki 赤<br>（スターバックスコーヒージャパン）<br>信楽透器ペンダントライト<br>信楽透器ぐいのみ<br>信楽透器冷酒器<br>粉引フリーカップ（以上、卯山製陶） |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### (3) 受贈資料

| 部門 | 資料名                                                                                       |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 刑事 | 刺又                                                                                        |
| 商品 | 津軽塗 唐塗り文箱（1975 年寄贈者入手）<br>ねぶたミニチュア（1983 年寄贈者入手）<br>信楽焼平鉢（JAPAN CREATIVE シリーズ、1991 年寄贈者入手） |
| 考古 | 開皇十五年銘小金銅仏（隋代）                                                                            |

### 《参考》年度別収蔵数（部門別）

|      | 刑事 |    | 考古 |    | 商品 |     |
|------|----|----|----|----|----|-----|
|      | 購入 | 受贈 | 購入 | 受贈 | 購入 | 受贈  |
| 2019 | 11 | 0  | 1  | 0  | 24 | 1   |
| 2020 | 8  | 8  | 0  | 1  | 1  | 109 |
| 2021 | 2  | 0  | 1  | 7  | 0  | 14  |
| 2022 | 7  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 2023 | 1  | 0  | 1  | 0  | 19 | 5   |

### (4) 寄託資料

#### ① 『刑罪大秘録』他 3 点

受託期間 2022 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日  
※5 年ごとに更新。

#### ② 故里見庫男氏所蔵文書（3373 点）

受託期間 2022 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日  
福島県いわき市域の村方文書。譜代大名内藤家の旧領地域。地元の郷土史研究団体「いわき地域史学会」及び大学院文学研究科日本史専攻生等に

による調査・整理作業がおこなわれた史料群。

※3年ごとに更新。

### ③ 大英博物館所蔵ガウランド写真資料複写

(458点)

受託期間 2024年4月1日～2027年3月31日

※3年ごとに更新。

### ④ 茨城県三昧塚古墳出土冑・短甲・小札

受託期間 2024年4月1日～2027年3月31日

※3年ごとに更新。

## (5) 資料修復

### ① 刑事部門

絵図修復 1点

料紙の剥離剥ぎ・フラットニング

## 2. 資料整理

### (1) 商品部門

資料台帳カード作成 (旧 14 号館陶製品・タイル製品・ガラス製品・砥石ほか)

保存容器作製

架蔵態勢の整備(再梱包、収納箱ラベルの更新等)

資料原簿のデジタル化

### (2) 刑事部門

文学部日本史学専攻の教員・院生・学生との古文書共同調査 (8 回、教員・学生・院生のべ 108 名参加)

博物館所蔵毛利家文書の目録内容に関する調査 (11 回実施)

錦絵の台帳整備

故島田正郎先生所蔵フィルムの調査

古文書の酸性封筒から中性紙封筒への交換

古文書資料の史料目録との照合による欠本確認

マイクロフィルム等 2 次資料整理

マイクロフィルム調湿剤・ガス吸着材入れ替え

### (3) 考古部門

坂本万七写真研究所寄贈写真資料の台帳整備

収蔵資料の所在確認

## 3. デジタルデータ化

### (1) 商品部門

#### ① 資料撮影 (特定課題関係)

精陶社資料 (十二代柿右衛門作品、鍋島染付焼その他) 26 点

### (2) 刑事部門

#### ① 古文書撮影

広橋兼綱書状 一幅

#### ② 大型絵図の高精細画像撮影

内藤家文書 3-23-11-36-23「豊後国国東郡御領分絵図」

内藤家文書 3-23-11-36-24「豊後国速見郡御領分絵図」

内藤家文書 3-23-11-36-25「豊後国大分郡御領分絵図」

### (3) 考古部門

#### ① フォトグラメトリーによる 3D モデル制作

横矧板鉾留短甲、横矧板鉾留衝角付冑

#### ② パターン投影型 3D スキャンによる遺物計測

佐賀県多久三年山・茶園原出土石器

#### ③ 資料撮影

伝上野綿貫古墳出土金銅透彫製品、開皇十五年銘小金銅仏 (隋代)

## 4. 資料利用

### (1) 資料貸出・掲載・撮影件数

|                  | 刑事             | 考古              | 商品  | その他    | 合計    |
|------------------|----------------|-----------------|-----|--------|-------|
| 一次資料<br>出品数      | 11 点           | 834 点           | 1 点 | 0      | 846 点 |
| レプリカ<br>等<br>出品数 | 0              | 2 点             | 0   | 0      | 2 点   |
| 撮 影              | 649 点          | 190 点           | 1 点 | 0      | 839 点 |
| 掲載等              | 228 点          | 336 点           | 3 点 | 0      | 564 点 |
| 合 計              | 111 件<br>888 点 | 77 件<br>1,362 点 | 5 点 | 0<br>0 |       |

《参考》年度別資料利用数推移

|      | 出展数(レプリカ内数) | 撮影  | 掲載  |
|------|-------------|-----|-----|
| 2019 | 689(2)      | 763 | 296 |
| 2020 | 790(77)     | 133 | 527 |
| 2021 | 707(8)      | 439 | 623 |
| 2022 | 587(0)      | 652 | 414 |
| 2023 | 865(14)     | 811 | 574 |

### (2) 収蔵資料閲覧

|            | 刑事部門              |         | 考古部門 | 商品  |
|------------|-------------------|---------|------|-----|
| 調 査<br>閲 覧 | 古文書               | マイクロ    | 54 件 | 0 件 |
|            | 1144 点<br>一括 48 件 | 132 リール |      |     |
| 人 数        | 102 名             |         | 62 名 | 0 名 |

《参考》年度別資料閲覧数推移

|      | 刑事     |         |     | 考古 |
|------|--------|---------|-----|----|
|      | 古文書(点) | マイクロ(本) | 人数  | 件数 |
| 2019 | 1,782  | 118     | 123 | 33 |
| 2020 | 31     | 20      | 12  | 15 |
| 2021 | 807    | 196     | 48  | 15 |
| 2022 | 1041   | 235     | 78  | 48 |
| 2023 | 982    | 247     | 78  | 38 |

### (3) 資料貸出先・展覧会・出展資料一覧

#### ① 刑事部門

##### ア 延岡城・内藤記念博物館企画展「内藤家旧蔵の能・狂言面―多様な面の世界―」

貸出期間：2024 年 9 月 6 日～11 月 6 日 内藤家文書 1-28-22 祭礼並祈禱代参諸遷宮神事能取嚙 他計 8 点

##### イ 千代田区立日比谷図書文化館令和 6 年度特別展「実録 桜田門外の変」

貸出期間：2025 年 1 月 20 日～3 月 28 日 内藤家文書 1-7-148 安政七年万覚帳 他計 3 点

#### ② 考古部門

##### ア 岩宿博物館常設展示

貸出期間：2024 年 7 月 1 日～11 月 25 日 群馬県岩宿遺跡出土ナイフ形石器（重要文化財）他計 39 点

##### イ 岩宿博物館常設展示室（「岩宿時代のムラと社会」・「石器文化の地域性」コーナー）継続出品

貸出期間：2024 年 7 月 1 日～2025 年 6 月 30 日 群馬県武井遺跡出土石器 他計 330 点

##### ウ 群馬県立歴史博物館令和 6 年度第 111 回企画展弥生人は二度死ぬ-再埋葬ってなに?-」

貸出期間：2024 年 9 月 3 日～12 月 17 日 群馬県岩櫃山遺跡出土甕型土器 他計 32 点

##### エ 三鷹市考古学展示会「野川中流域の旧石器時代―ホモ・サピエンス 氷期の暮らし」

貸出期間：2024 年 8 月 7 日～11 月 26 日 東京都下原・富士見町遺跡出土石器 計 186 点

##### オ 山梨県立考古博物館第 41 回特別展「縄文時代の不思議な道具」

貸出期間：2024 年 9 月 10 日～12 月 13 日 千葉県江原台遺跡出土亀形土製品 計 1 点

##### カ ひたちなか市埋蔵文化財調査センター第 21 回企画展「装飾古墳の世界 2」

貸出期間：2024 年 12 月 13 日～2025 年 5 月 31 日 虎塚古墳発掘調査資料 計 3 点

**キ 岩手県立博物館常設展示及び調査研究資料**

貸出期間：2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日  
岩手県雨滝遺跡出土資料 計 29 点

**ク 東京国立博物館継続出品(3 年更新の 1 年目)**

貸出期間：2023 年 7 月 1 日～2026 年 6 月 30 日  
重要文化財 神奈川県夏島貝塚出土深鉢形土器 計 1 点

**ケ 明治大学附属明治高等学校・中学校 1 階ホワイエ展示ケース (3 年目)**

貸出期間：2020 年 11 月 26 日～ 東京都下原・富士見町遺跡出土石器 他 計 28 点

**コ 国立歴史民俗博物館総合展示第 1 展示室(先史・古代) 大テーマⅠ「最終氷期に生きた人々」・大テーマⅡ「多用な縄文列島」・大テーマⅢ「水稻耕作のはじまり」**

貸出期間：2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日  
長野県矢出川第 1 遺跡出土石器 他 計 28 点

**サ 港区立郷土歴史館常設展示**

貸出期間：2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日  
東京都芝公園出土須和田式壺形土器 他 計 109 点

**シ 市立市川考古博物館常設展示**

貸出期間：2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日  
佐賀県多久三年山遺跡出土尖頭器 他計 80 点

**セ 佐賀県立博物館常設展示「佐賀県の歴史と文化」**

貸出期間：2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日  
金印「漢委奴国王」(複製) 計 1 点

**③ 商品部門**

**ア 九州国立博物館文化交流展「海の道、アジアの路」(平常展)**

貸出期間：2024 年 12 月 18 日～2025 年 2 月 28 日  
Ⅱ-5 工芸品-21 時田昌瑞ことわざコレクション 根付 蛇ににらまれた蛙 計 1 点

**(4) 資料掲載利用一覧**

**① 刑事部門**

内藤家文書 3-23-11-35-6 有馬家中延岡城下

屋敷付絵図 甲斐典明『『有馬家中延岡城下屋敷並絵図』に見る江戸時代前期末の縣(延岡)城下の原風景』(延岡史談会会報誌『縣』33 号) クリップ

内藤家文書 1-31-576-1 御書方年中行事「九州築地」地域ブランド製作のプレゼン資料に使用  
今川仮名目録『歴史人』2024 年 6 月号 ABC アーク

鑑札 株仲間札『2025 年受験用全国高校入試問題正解社会』旺文社

『徳川幕府刑事図譜』捕縛の図(打込み・寄棒・鉤縄の使用法) 他「Dive in Tokyo」NHK  
『徳川幕府刑事図譜』捕縛の図(打込み・寄棒・鉤縄の使用法) 隔週刊『鬼平犯科帳 DVD コレクション 再刊行版』(テスト版) 第 1 号 デアゴスティーニ・ジャパン

今川仮名目録 第 8 条『よくわかる日本法制史』ミネルヴァ書房

『名和コレクション』江戸町奉行所同心 真鍮銀流し十手 他 隔週刊『鬼平犯科帳 DVD コレクション 再刊行版』(テスト版) 第 2 号 デアゴスティーニ・ジャパン

『徳川幕府刑事図譜』旧江戸伝馬町牢獄内 屋の図 隔週刊『鬼平犯科帳 DVD コレクション 再刊行版』(テスト版) 第 4 号 デアゴスティーニ・ジャパン

『徳川幕府刑事図譜』鋸引仕置の図 他 隔週刊『鬼平犯科帳 DVD コレクション 再刊行版』(テスト版) 第 5 号 デアゴスティーニ・ジャパン

鑑札 株仲間札『2024 年度 最新入試過去問徹底解説 下巻』ベネッセコーポレーション

『徳川幕府刑事図譜』御様の図「ザ・バックヤード 知の迷宮の裏側探訪 国立公文書館」第 1 弾 NHK オンデマンド

邪蘇宗門御改帳 延宝五年『2025 共通テスト直前対策問題集 Vol.12 歴史総合, 日本史探求』河合出版

山城国葛野郡長福寺文書 48-甲-750 私領注文

事 日本古文書学会ホームページバナー画像

水戸藩小石川御屋敷御庭之図 戸田芳樹・野村勘治『今読み解く日本の庭園―作者の想いからデザインまで―』 風景パブリッシング

時世のぼり風 『令和7年度版中学歴史指導者用デジタル教材』『令和7年度版中学歴史学習者用デジタル教材』 教育出版

内藤家文書 3-23-11-35-6 有馬家中延岡城下屋敷付絵図 「のべおかさるきブラアガタ第二弾～延岡の始まりと今物語りその2～」リーフレット 中島印刷所

今川仮名目録 水野智之編『東海の中世史4 戦国争乱と東海の大名』 吉川弘文館

水戸藩小石川御屋敷御庭之図 「小石川後楽園夜間特別開園 2024」プロジェクションマッピング投影

今川仮名目録 第29条 「NHK 高校講座 日本史 第16回 『下剋上の社会と戦国大名』(再放送) NHK

鑑札 株仲間札 「NHK 高校講座 日本史 第23回 『幕藩体制の動揺と政治改革』(再放送) NHK

地方測量之図 「NHK 高校講座 日本史 第25回 『新しい学問の形成と化政文化』(再放送) NHK  
『徳川幕府刑事図譜』 白洲の図 「サンドウィッチマン&芦田愛菜の博士ちゃん」 テレビ朝日  
口上之覚 生類憐み令 「世界の何だコレ!?ミステリー」 フジテレビ

司法卿大木喬任文書 2-ヨ-14 病院建築二付歎願書 青木歳幸編『佐賀城本丸クラシックス「相良知安関係文書」』 佐賀県立佐賀城本丸歴史館  
口上之覚 生類憐み令 「さんまの東大方程式」 フジテレビ

鑑札 株仲間札 『問題データベース』 東京書籍

今川仮名目録 『歴史人』増刊号(印刷版およびデジタル版) ABC アーク

生麦発殺之図 『必殺 DVD コレクション』118号

デアゴスティーニ・ジャパン

『徳川幕府刑事図譜』 旧江戸伝馬町牢獄内 屋の図 他 『楽しくなくちゃ授業じゃない』 同時代社

内藤家文書 2-4-26 相馬讃岐守様御登二付諸事申付候覚(享保5年) 他 『相馬市史第2巻 通史編Ⅱ 近世』 相馬市編さん委員会

鑑札 株仲間札 『NHK2025大河ドラマ『べらぼう』THE BOOK』 東京ニュース通信社

『徳川幕府刑事図譜』 白洲の図 他 八丈島歴史民俗資料館常設展示ガイダンス映像「八丈島ヒストリー」・展示解説パネル「江戸幕府の流人制度～江戸から島まで」

内藤家文書 1-7-148 安政七年万覚帳 他 千代田区立日比谷図書文化館特別展「実録 桜田門外の変」展示図録・パネル 千代田区、千代田区教育委員会

『徳川幕府刑事図譜』 白洲の図 他 『初めての大河ドラマ『べらぼう 蔦重栄華乃夢噺』歴史おもしろBOOK』 小学館

『徳川幕府刑事図譜』 捕縛の図(打込み・寄棒・鉤縄の使用法) 隔週刊『鬼平犯科帳 DVD コレクション 再刊行版』(全国版) 創刊号 デアゴスティーニ・ジャパン

『名和コレクション』 江戸町奉行所同心 真鍮銀流し十手 他 隔週刊『鬼平犯科帳 DVD コレクション 再刊行版』(全国版) 第2号 デアゴスティーニ・ジャパン

内藤家文書 1-6-193 慶応二年万覚書 他 公益信託松尾金藏記念奨学基金編「幕末期における延岡藩京都留守居の研究―一人選と職務内容に着目して―」 風間書房

北野新地文書 6-書状-L-164～172、174～176 他 篠原七彩 修士論文「近世京都における遊所の統制と社会構造」

地方測量之図 『歴史道』Vol.37 朝日新聞出版  
『徳川幕府刑事図譜』 旧江戸伝馬町牢獄より町奉行所へ呼出しの図 他 「朝日新聞」「朝日新



聞デジタル」 朝日新聞社

『徳川幕府刑事図譜』 旧江戸伝馬町牢獄内 屋の図 隔週刊『鬼平犯科帳 DVD コレクション 再刊行版』(全国版) 第4号 デアゴスティーニ・ジャパン

『徳川幕府刑事図譜』 鋸引仕置の図 他 隔週刊『鬼平犯科帳 DVD コレクション 再刊行版』(全国版) 第5号 デアゴスティーニ・ジャパン

『徳川幕府刑事図譜』 不義の娘親に引き渡されたる図 「浮世絵ミステリー 『べらぼう』 コラボ 歌麿と葛屋重三郎～“革命”と“抵抗”の謎」 NHK・NHK BSP4K

内藤家文書 3-23-11-35-12 江戸御上屋敷絵図 他 大賀郁夫「近世初期の大名改易と「御家」相続」(『宮崎公立大学人文学部紀要』第32巻第1号) 宮崎公立大学

上新田村文書 42-書冊・横帳-O-17 当末宗門人別改帳 他 「歴史探偵 上杉鷹山 なせばなる」 NHK

『徳川幕府刑事図譜』 拷問の図(笞打) 他 隔週刊『鬼平犯科帳 DVD コレクション 再刊行版』(全国版) 第8号 デアゴスティーニ・ジャパン

『徳川幕府刑事図譜』 捕縛の図(早縄) 他 隔週刊『鬼平犯科帳 DVD コレクション 再刊行版』(全国版) 第9号 デアゴスティーニ・ジャパン

御成敗式目 他 村上一博・西村安博編『史料でひもとく日本法史』(紙媒体書籍・電子書籍) 法律文化社

鑑札 株仲間札 『歴史道』Vol.37 朝日新聞出版

名和コレクション 手鎖 『歴史人』2月号(紙媒体・電子媒体) ABC アーク

生麦発殺之図 『ポプラディアプラス 日本の歴史』ポプラ社

『牢内深秘録』 西大牢の牢内役人 『江戸の暮らしと仕事大図鑑』 宝島社

『徳川幕府刑事図譜』 不義の娘親に引き渡されたる図 「浮世絵ミステリー 歌麿・国芳 ヒッ

トの謎～江戸 メディアの闘い～」 NHK 総合・NHK 国際放送・NHK BSP4K

48-其の他武家文書-650 豊臣秀吉朱印状 大溝 5佐竹使僧ニ伝馬五疋可遣 他 岩田裕斗「〔史料紹介〕明治大学博物館所蔵「豊臣秀吉発給文書」について」(『研究紀要 近世史料研究』第3号) 石川県教育委員会事務局文化財課近世史料編さん室

高札 人倫等定(明治4年12月) 文部科学省検定教科書 高等学校日本史探究『詳説日本史改訂版』 山川出版社

『徳川幕府刑事図譜』 旧江戸伝馬町牢獄内 屋の図 「出沒! アド街ック天国」 テレビ東京 鑑札 株仲間札 『2024 入試過去問徹底解説』ベネッセコーポレーション

常設展示室 刑事部門「鉄の処女」展示付近の内観風景 『サライ』4月号 小学館

『徳川幕府刑事図譜』 白洲の図 「THE JUDICIAL SYSTEM AND COURTS IN JAPAN」(裁判所ホームページにて動画配信) 最高裁判所

『徳川幕府刑事図譜』 御様の図 隔週刊『鬼平犯科帳 DVD コレクション 再刊行版』第11号 デアゴスティーニ・ジャパン

名和コレクション 火付盗賊改方十手 他 隔週刊『鬼平犯科帳 DVD コレクション 再刊行版』第12号 デアゴスティーニ・ジャパン

名和コレクション 捕縄 五本 他 隔週刊『鬼平犯科帳 DVD コレクション 再刊行版』第13号 デアゴスティーニ・ジャパン

『徳川幕府刑事図譜』 遠島出船の図 隔週刊『鬼平犯科帳 DVD コレクション 再刊行版』第16号 デアゴスティーニ・ジャパン

今川仮名目録 令和9年度高等学校用教科書『日本史探究』(文部科学省検定教科書〔紙媒体〕他) 東京書籍

『徳川幕府刑事図譜』 旧江戸伝馬町牢獄内 屋の図 「出沒! アド街ック天国」 テレビ東京(U-NEXT にて1年間配信)

相模国足柄上郡千津嶋村文書 12-書冊・横帳-O-1 相州西郡西筋千津島村吉利支丹改帳 令和9年度高等学校用教科書『日本史探究』（文部科学省検定教科書 他） 東京書籍

『徳川幕府刑事図譜』 日本橋晒の図 永井義男『図説 吉原事典』（電子書籍） 朝日新聞出版  
公事方御定書 「指導者用デジタル教科書（教材）新編新しい社会」 「douga pocket ver.中学社会」 東京書籍

内藤家文書 増補追加目録5-12 五十三次ねむりの合の手 伝統鮎やなに設置する説明看板に使用

伊勢国度会郡田曾浦文書 27-書冊・横帳-A-13 安永七年 御用留 他 糸川風太「公儀浦触廻達における藩権力と地域」（『交通史研究』106号）交通史学会

『徳川幕府刑事図譜』 捕縛の図（十手の使用法）他 『江戸のひみつ 町と暮らしがわかる本』 メイツ出版

内藤家文書 増補・追加目録4-739 江戸幕府老中奉書 10月12日江戸大地震見舞披露（相模国大地震） 他 野田浩子「江戸幕府大老奉書の発給一老中奉書との比較を通じて」（『古文書研究』98号） 勉誠社

名和コレクション 鎖鎌（石見守直次作） ネットミュージアム兵庫文学館 企画展示「宮本武蔵力と美」

板倉家文書 「亀山市史」ウェブ版 亀山市  
地方測量之図 他 NHK デジタル教材「NHK for School」

内藤家文書 1-6-9 万覚書 天和2年2月11日条 他 令和7年度企画展「磐城平藩と勿来関」（展示、パンフレット掲載） いわき市勿来関文学歴史館

## ② 考古部門

神奈川県二ツ池遺跡出土壺形土器 『8月ゼミ小6社会』 株式会社ティエラコム

千葉県能満寺古墳出土銅鏡片 令和6年度文化

庁合同特別展示「発掘された日本列島 2024」  
地域展「大多喜台古墳群の鏡がうつし出す時代」  
展示パネル 千葉県立中央博物館

日本洋瓦社製フランス式瓦 表面 他 『旧木下権之助屋敷表門保存修理工事報告書』 岡山市教育委員会

昭和36年鈴桶遺跡発掘調査 調査風景写真 他 福井洞窟ミュージアム・倉敷考古館共催企画展「洞窟と考古学者」 伊万里会場案内ポスター 伊万里市

埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 『すらら』小学生版「社会」 e-learning教材 株式会社すららネット

前場幸治コレクション ジェラルール瓦 表面 他 『風媒花 No.37』 佐倉市

埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 『2024年度夏期講習（高3・高卒生対象）関関同立大日本史』 河合塾

静岡県山木遺跡 第1次調査 発掘調査風景写真 『広報いずのくに』 伊豆の国市

京都府深草遺跡出土石包丁 他 『VIEW POINT 歴史Ⅰ』 塾用教材 株式会社学書

神奈川県月見野遺跡出土尖頭器、ナイフ形石器 他 「旧石器時代と縄文時代の暮らし」「弥生時代の暮らしと邪馬台国」の授業内スライド（社会科学 歴史） 渡邊実侑

静岡県沼津市休場遺跡出土石囲炉 1号・2号炉址 他 「石器とくらしー愛鷹・箱根西麓の旧石器文化とその周辺ー」展示パネル、広報媒体 富士・沼津・三島 三市博物館連絡協議会

群馬県岩宿遺跡出土打製石器 『iワーク歴史Ⅰ』 株式会社育伸社

茨城県玉里舟塚古墳出土 矛を構える武人埴輪 『月刊 東京人11月号』 都市出版株式会社  
京都府深草遺跡出土石包丁 『2025 パックV 歴史総合、日本史探求（第5回）』 駿台文庫株式会社

常設展示室 考古部門 茨城県玉里舟塚古墳出土

**埴輪展示風景写真** NHK 放送番組「歴史探偵～古代のアイドル！はにわの秘密～」 NHK

**埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器** 特別展「矢を放て！～関東の弓矢、一万年～」展示図録 大田区立郷土博物館

**千葉県丸山遺跡出土石器** 他 『市川市史 歴史編Ⅱ—ムラとマチ—（通巻2）』 市川市

**群馬県岩櫃山遺跡出土壺型土器** 他 令和6年度第111回企画展「弥生人は二度死ぬ—再埋葬つてなに？—」展示図録、リーフレット 群馬県立歴史博物館

**茨城県三昧塚古墳出土金銅馬形飾付透彫冠 復元品** 『月刊 東京人 11月号』 都市出版株式会社

**千葉県江原台遺跡出土亀形土製品** 第41回特別展「縄文時代の不思議な道具」展示図録、広報媒体 山梨県立考古博物館

**群馬県岩宿遺跡出土打製石斧** 『2024年度 考える力・プラス中学受験講座 6年生 中学入試合格テキスト 1月号 共通』 ベネッセコーポレーション

**群馬県岩宿遺跡出土打製石器** 『新ワーク歴史Ⅰ』 塾用問題集 株式会社好学出版

**群馬県岩宿遺跡出土打製石斧** 他 河合塾ON E 日本史『基本事項解説』（映像授業） 河合塾  
**京都府深草遺跡出土石包丁** 『2024年度冬期講習(高3生対象)「共通テスト傾向対策歴史総合、日本史探求」』、『2024年度冬季講習(高卒生対象)「共通テスト傾向対策日本史B」』 河合塾

**岩手県雨滝遺跡出土石鏃** 2024年度冬期テキスト「共通テスト日本史探究」 代々木ゼミナール

**岩手県雨滝遺跡出土石鏃** 2024年度冬期テキスト「共通テスト日本史」 代々木ゼミナール

**群馬県武井遺跡出土尖頭器** 「中学 WinPass 社会全」 株式会社社文理

**群馬県岩宿遺跡出土打製石斧** 他 『2025年度(高校・高卒生対象)「日本史写真資料集」』 塾用教材 河合塾

**栃木県篠山貝塚出土縄文土器** 『Ⅲ期ゼミテキスト&テスト 小6社会』（塾用問題集、テスト含む） 株式会社学書

**埼玉県砂川遺跡出土石器接合例** 他 『博物館展示論 第2版』 株式会社講談社サイエンティフィック

**五里舟塚古墳の矛を持つ武人埴輪 全体写真** 他 『13歳からの考古学 なぜ人は青を作ったの？ 青色の歴史を探る旅』 株式会社新泉社

**群馬県岩宿遺跡出土打製石斧** 『2025年度中学(中1生対象)「歴史Ⅰ」』 塾用教材 河合塾

**五里舟塚古墳の矛を持つ武人埴輪** 『13歳からの考古学 なぜ人は青を作ったの？ 青色の歴史を探る旅』 株式会社新泉社

**群馬県岩宿遺跡出土打製石斧** 他 「河合塾 基本解説映像日本史」HP 掲載 河合塾

**愛知県豊橋市五貫森貝塚出土磨製石器** 『さなる式 歴史Ⅰ』 塾用問題集 株式会社学書

**千葉県江原台遺跡出土山形土偶** テレビ番組「開運！なんでも鑑定団」放映 テレビ東京

**神奈川県夏島貝塚出土深鉢形土器** 開館40周年記念企画展『新・豊島風土記』の「歴史編 縄文」コーナー参考画像 豊島区立郷土資料館

**栃木県出流原遺跡出土顔面付壺形土器** 他 令和6年度ブックレット29号『土器棺再埋葬』 長野県立歴史館

**2005年4月5日NHK教育テレビ「高校講座・日本史」第1回「日本のあけぼの 旧石器時代と環境」でナイフ形石器(黒曜石製・黒曜石以外) 計2点を撮影した映像** テレビ番組「ザ・バックヤード 長野県立歴史館」 NHK

**福岡県板付遺跡出土素文壺形土器** 他 『日本美術の歴史』（東京大学出版会）の韓国語版 ソウル大学出版文化院

**群馬県岩宿遺跡第1次本調査A地点発掘調査風景** 他 令和6年度特別陳列「二上山にはじまりを求めて—旧石器時代を知る、探る、考える—」展示パネル 奈良県立橿原考古学研究所附属博

物館

京都府深草遺跡出土石包丁 他 全統模試分析システム Kei-Navi 「2022 年度第 1 回全統記述模試問題地理歴史・公民（日本史）」 河合塾  
群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 文部科学省検定教科書 高等学校日本史探究『高校日本史 改訂版』 山川出版社

五領遺跡 A 区の遺構配置（『明治大学博物館研究報告』第 9 号 黒沢浩「五領遺跡出土土器の再検討に向けて」） 他 『さいたま市史通史編 原始・古代Ⅱ』 さいたま市

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 令和 9 年度高等学校用教科書『日本史探究』 東京書籍  
栃木県出流原遺跡出土弥生土器実測図及び拓本 他 『考古学集刊 第 21 号』 明治大学考古学研究室

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 『2025 年度基礎シリーズ(高卒生対象)「完全習得タイム日本史」』『2025 年度プライムステージ地理歴史「日本史」』 河合塾

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 塾生専用 WEB サイト『2025 年度基礎シリーズ(高卒生対象)「完全習得タイム日本史」』 河合塾

神奈川県夏島貝塚貝層断面画像 国立科学博物館 特別展「古代 DNA—日本人のきた道—」会場パネル NHK プロモーション

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 『週間朝日ムック「歴史道」vol.38』 朝日新聞出版

岩手県雨滝遺跡出土石鏃 他 『2025 年度 1 学期テキスト「ハイレベル日本史問題演習」』 代々木ゼミナール

茂呂遺跡の層序図 『後期旧石器時代の新たな遺跡構造論』 新泉社

伝福岡市東区八田出土中細形銅戈鑄型の実測図 他 『紀要 東風西声』 九州国立博物館

京都府深草遺跡出土石包丁 『サマー練成 中 3 社会』塾用問題集 株式会社学書

京都府深草遺跡出土石包丁 『カミングサマー

中 3 理社合本』塾用問題集 株式会社学書

京都府深草遺跡出土石包丁 『カミングサマー

五科合本 3 年』塾用問題集 株式会社学書

千葉県江原台遺跡出土山形土偶 リーフレット

『じょーもぴあ宮畑 展示の見どころガイド』

福島市

京都府深草遺跡出土石包丁 『2025 年度第 1 回全統記述模試問題 地理歴史・公民(日本史)』

河合塾

京都府深草遺跡出土石包丁 『2025 年度第 1 回全統共通テスト模試問題 地理歴史・公民「歴史総合、日本史探究」』 河合塾

京都府深草遺跡出土石包丁 塾用 HP 模試ナビ <http://moshinaui.kawai-juku.ac.jp/> 河合塾

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 『2025 年度 考える力・プラス中学受験講座 5 年生 中学入試授業テキスト 8 月号 共通』 ベネッセコーポレーション

石神井川より望む茂呂遺跡 他 板橋区映像広報「魅力発信！いたばしナビ」令和 7 年 5 月号 東京都板橋区

群馬県岩宿遺跡出土打製石器 他 NHK デジタル教材「NHK for School」 NHK コンテンツ制作局第 1 制作センター

### ③ 商品部門

時田昌瑞ことわざコレクション II-5 E-21 根付 蛇ににらまれた蛙 九州国立博物館文化交流展「海の道、アジアの路」（平常展）展示パネル等に使用

時田昌瑞ことわざコレクション 人こころ浮世 乃たとへ 他 森洋子『ブリューゲルの“劇場”—罪・祝祭・諺』 中央公論美術出版

## 5. 図書

### (1) 蔵書数

|    |       |        |         |
|----|-------|--------|---------|
| 図書 | 全所蔵冊数 | (冊)    | 134,804 |
|    | 和     | (冊)    | 101,555 |
|    | 洋     | (冊)    | 1,243   |
|    | 製本雑誌  | (冊)    | 32,006  |
| 雑誌 | 全所蔵冊数 | (タイトル) | 3,063   |
|    | 和     | (タイトル) | 3,007   |
|    | 洋     | (タイトル) | 55      |

### (2) 購入・寄贈数

#### ① 図書受入数

|                    |    |       |     |       |
|--------------------|----|-------|-----|-------|
| 総受入冊数              |    |       | (冊) | 1,181 |
| 図書受入冊数<br>*製本雑誌を含む | 購入 | 83    | (冊) | 83    |
|                    |    | 0     | (冊) | 0     |
|                    | 寄贈 | 1,086 | (冊) | 1,086 |
|                    |    | 12    | (冊) | 12    |

#### ② 雑誌継続タイトル数

|        |   |        |     |
|--------|---|--------|-----|
| 総受入種類数 |   | (タイトル) | 295 |
| 雑誌受入種数 | 和 | (タイトル) | 295 |
|        | 洋 | (タイトル) | 0   |



## VII 統計・一覧・資料

### 1. 入館データ

#### (1) 入館状況

##### ① 開館日数・時間

##### ア 休館日

8月10日～16日（夏季休業）、12月26日～1月7日（冬季休業）

臨時休館日：2024年12月25日（常設展示室考古部門改修作業のため休館。図書室のみ開室）、  
2025年2月5日（入学試験にともなう入構制限により休館）

##### イ 開館時間

月曜～金曜：10:00～17:00、土曜：10:00～16:00

##### ウ 月別開館日数

|      | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計   |
|------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 開館日数 | 26 | 24 | 25 | 27 | 18 | 22 | 28  | 25  | 20  | 19 | 21 | 25 | 280 |

##### エ 月別入館・利用者数

|           | 4月     | 5月     | 6月     | 7月     | 8月     | 9月     | 10月    | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    | 計       |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 常設展       | 5,657  | 7,065  | 8,107  | 6,618  | 6,907  | 6,410  | 11,456 | 4,930 | 2,964 | 2,482 | 3,114 | 3,834 | 69,544  |
| 特別展       | 7,685  | 10,337 | 11,973 | 9,552  | 8,061  | 9,732  | 15,896 | 2,443 | 1,233 | 2,096 | 2,518 | 1,969 | 83,495  |
| 図書室       | 297    | 513    | 538    | 512    | 152    | 310    | 503    | 587   | 517   | 284   | 196   | 186   | 4,595   |
| 教室等<br>利用 | 135    | 174    | 297    | 159    | 105    | 142    | 116    | 127   | 144   | 86    | 114   | 184   | 1,783   |
| 計         | 13,774 | 18,089 | 20,915 | 16,841 | 15,225 | 16,594 | 27,971 | 8,087 | 4,858 | 4,948 | 5,942 | 6,173 | 159,417 |

##### 《参考》年度別入館・利用者数

|       | 2018   | 2019    | 2020  | 2021   | 2022   | 2023   | 2024    | 2004～2024 |
|-------|--------|---------|-------|--------|--------|--------|---------|-----------|
| 常設展示室 | 64,379 | 65,118  | 2,553 | 10,360 | 30,098 | 41,773 | 69,544  | 890,012   |
| 特別展示室 | 18,649 | 41,855  | 1,052 | 8,138  | 21,854 | 22,135 | 83,495  | 453,914   |
| 図書室   | 5,730  | 5,057   | 1,183 | 3,069  | 3,414  | 3,914  | 4,595   | 98,385    |
| 教室等利用 | 3,780  | 3,084   | 0     | 0      | 350    | 1,349  | 1,783   | 34,417    |
| 計     | 92,538 | 115,114 | 3,707 | 21,567 | 55,716 | 69,171 | 159,417 | 1,476,728 |

##### ② 特別展入館者数

2024年度は開催なし

### ③ 主催・共催展・その他の展覧会入館者数

| 名称                          | 期間            | 開館日数  | 入館者数    |
|-----------------------------|---------------|-------|---------|
| 連続テレビ小説「虎に翼」展               | 3月25日～10月28日  | 173日間 | 74,565名 |
| 女性法曹養成機関のパイオニア―明治大学法学部と女子部― | 3月25日～10月28日  | 173日間 | 74,565名 |
| 新収蔵・収蔵資料展 2024              | 11月11日～12月14日 | 31日間  | 3,676名  |
| 発掘と発見の考古学・明大考古学の75年         | 1月11日～3月15日   | 50日間  | 6,142名  |
| 進化する信楽焼の「伝統」                | 3月26日～3月31日   | 5日間   | 441名    |
| 明治大学商品陳列館企画展の軌跡             | 3月26日～3月31日   | 5日間   | 441名    |

## (2) 団体見学

### ① 月別集計一覧

#### ア 学校団体

|     | 4月 | 5月  | 6月  | 7月  | 8月 | 9月  | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計    |
|-----|----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|-------|
| 団体数 | 3  | 8   | 7   | 5   | 2  | 4   | 16  | 11  | 10  | 1  | 1  | 3  | 71    |
| 人数  | 41 | 205 | 197 | 156 | 58 | 131 | 534 | 668 | 262 | 30 | 6  | 67 | 2,355 |

#### イ 一般団体

|     | 4月 | 5月  | 6月  | 7月  | 8月 | 9月  | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月  | 3月 | 合計    |
|-----|----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|----|-----|----|-------|
| 団体数 | 0  | 4   | 5   | 6   | 2  | 17  | 25  | 4   | 6   | 1  | 1   | 4  | 75    |
| 人数  | 0  | 106 | 128 | 172 | 45 | 387 | 726 | 165 | 165 | 20 | 135 | 48 | 2,097 |

### ② 団体一覧

#### 2024年4月

弘前市立第一中学校、イエーナ大学、神奈川県立横浜瀬谷高等学校2年生

#### 5月

東京都立鷺宮高等学校、錦城学園高等学校、東京シティガイドクラブ、神奈川県立横浜立野高等学校3学年、悠歩会、花巻東高等学校1年生、明治大学校友会鎌倉地域支部 鎌倉駿台会、新宿区立落合中学校第2学年、翔凜高等学校2年生、砂川手話友の会、十文字中学・高等学校、サザンイリノイ大学

#### 6月

日本セカンドライフ協会、野老沢の歴史をたのしむ会、茨城県立銚田第一高等学校2年生、神奈川大学附属高等学校2年生、京進ランゲージアカデミー新宿校、埼玉栄中学校1年生、東京法律公務員専門学校、名古屋市立御幸山中学校3年生、市原市立三和中学校、群馬県立太田女子高等学校PTA、荒川シルバー大学 歴史散歩教室、千代田区立九段中等教育学校中学1年生

#### 7月

文星芸術大学附属高等学校2年生、戸山みのり会、一般社団法人 むつみ会、ルネサンス高等学校、小金井史談会、明治大学付属八王子中学校、千葉県立八千代高等学校、全国大学史資料協議会、富山県立呉羽高等学校2学年、江戸川区教育委員会、東商きた女性会

## 8月

NPO 法人令和塾学習会、富山県立八尾高等学校2年生、公益財団法人 長岡市国際交流協会、東京都立府中東高等学校2年生

## 9月

東松山市きらめき市民大学 歴史探訪倶楽部、マナベル倶楽部「歴史探訪」、福岡大学法学部基礎ゼミ東京研修、全日本年金者組合 町田支部、東京都立小金井工科高等学校3学年、明治大学司書講習（夏期集中）講義『図書館情報資源特論（書誌学）』受講生、クラブツーリズム みちくさしながら神田川をあるく第1回両国から水道橋 C4281、水明会、所沢市東所沢長生クラブ、行知学園日本語学校新宿校、白鷗大学足利高等学校1年生、72期会、一般社団法人監査懇話会、明治大学長野県父母会、明治大学神奈川県東部地区父母会、らんまん、ITB240923-W01、東京シティガイドクラブ、船橋マスター学院、ITB240926-W01

## 10月

千葉県立東金高等学校1年生、宮の原地区社会福祉協議会、ちょこっ Trip、茨城県立下妻第二高等学校1学年、湘南学園中学校高等学校、埼玉県立朝霞高等学校、埼玉県社会保険労務士会大宮支部、明治学院中学校2年生、群馬県立中央中等教育学校1年生、島根県立松江東高等学校2年生、小平郷土研究会、川崎市立学校教職員互助会・退職互助事業室、東京ワシントンウイメンズクラブ (TWWC)、鴨居駅周辺まちづくり研究会、上三川町女性連絡協議会、星野グループ、千葉県立木更津高等学校PTA、埼玉県加須市民生児童委員会男女共同参画推進委員会、ハッピーシルバー会（北区シニアクラブ）、土佐女子高等学校2年生、ピーアンドジークラブ、栃木県立今市高等学校1年生、茨城県立水戸第二高等学校、大江戸吟行会、東京アスレティッククラブ (TAC)歴史の散歩同好会、東京シティガイドクラブ（都心・山の手グループ）、東京民医連退職者の会、本庄東高等学校・本庄東高等学校附属中学校PTA 群馬支部、なでしこ、日本生協連友の会、房総の会歴史散歩サークル、茨城県立竜ヶ崎第一高等学校1年生、相洋高等学校、群馬県立太田東高等学校、東京都立八丈高等学校、西東京市民生委員児童委員協議会第2地区、千葉県立市川東高等学校1年生、石岡市八郷商工会サービス部会、越谷国際交流サークル、広島国際学院高等学校1年生

## 11月

茨城県立土浦第三高等学校、埼玉県立豊岡高等学校1年生、千葉県立流山おおたかの森高等学校1年生、東日本鉄道 OB 会日本電設工業支部、北京市新府学外国語学校日本進学コース3年生、ラヴィアンローズ、東京立正短期大学、沖縄県教育委員会主催 進学エンカレッジ推進事業、青山学院大学史学科同窓会、明治大学付属中野高等学校1年生、茨城県立勝田中等教育学校前期課程（中等部）3年生、千葉県立千城台高等学校PTA、花咲徳栄高等学校1年生、茨城県立水戸商業高等学校1年生、明治大学の歴史受講者

## 12月

福井県立羽水高等学校2年生、栃木県野木町気楽に歩こう会、鹿児島実業高等学校2年生、淑徳大学人文学部歴史学科、共立日語学院、山口県立光高等学校2年生、玉川国際学院、藤枝順心高等学校1年生、熊本県立玉名高等学校1年生、松本県ヶ丘高等学校1学年、友遊会、品川女子学院、沖縄県立南風原高等学校1・2学年、行知学園日本語学校高田馬場校、中央大学法学部基礎演習、東芝ビジネスエキスパート株式会社東芝テクニカルスクール

## 2025年1月

白岡市立白岡中学校、東葛市川福祉会

## 2月

クラブツーリズム株式会社、芝国際高等学校

## 3月

湘南学園中学校高等学校、Coto Japanese Academy、早稲田EDU日本語学校、クラーク記念国際高等学校、春日部24友の会、港南いきいきプラザ、現代女性文化研究所

### (3) 図書閲覧サービス

#### ① 図書開室時間

月～金曜日 10:00～16:30 土曜日 10:00～16:00

#### ② 閲覧者数

|          | 4月   | 5月   | 6月   | 7月   | 8月   | 9月   | 10月  | 11月  | 12月  | 1月   | 2月  | 3月  | 合計   |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|-----|------|
| 学部生・大学院生 | 198  | 392  | 396  | 374  | 120  | 183  | 359  | 434  | 389  | 185  | 101 | 93  | 3224 |
| 明大教職員    | 18   | 15   | 9    | 9    | 1    | 8    | 12   | 7    | 9    | 6    | 8   | 8   | 110  |
| 友の会      | 9    | 9    | 14   | 18   | 2    | 11   | 4    | 12   | 12   | 13   | 26  | 11  | 141  |
| パティガミ会員  | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 2    | 1    | 0    | 0    | 1   | 1   | 5    |
| 聴講生      | 0    | 0    | 1    | 0    | 0    | 3    | 1    | 2    | 0    | 0    | 0   | 0   | 7    |
| 校友       | 7    | 19   | 15   | 12   | 5    | 12   | 13   | 17   | 11   | 23   | 10  | 16  | 160  |
| 他大学学生    | 27   | 45   | 45   | 50   | 18   | 63   | 65   | 70   | 58   | 17   | 16  | 21  | 495  |
| 一般       | 35   | 27   | 55   | 43   | 5    | 29   | 42   | 38   | 35   | 36   | 32  | 31  | 408  |
| 明大その他    | 3    | 6    | 3    | 6    | 1    | 1    | 5    | 6    | 3    | 4    | 2   | 5   | 45   |
| 合計       | 297  | 513  | 538  | 512  | 152  | 310  | 503  | 587  | 517  | 284  | 196 | 186 | 4595 |
| 開室日数     | 26   | 24   | 25   | 27   | 7    | 22   | 27   | 24   | 21   | 19   | 21  | 25  | 268  |
| 1日平均 (人) | 11.4 | 21.4 | 21.5 | 19.0 | 21.7 | 14.1 | 18.6 | 24.5 | 24.6 | 14.9 | 9.3 | 7.4 | 17.1 |

### (4) 視察・研修受入

#### ① 受入団体数・参加人数

|     | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計  |
|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 団体数 | —  | 2  | 4  | 2  | —  | 1  | 2   | 2   | 3   | 1  | 2  | —  | 19  |
| 人数  | —  | 51 | 45 | 21 | —  | 27 | 48  | 3   | 32  | 4  | 35 | —  | 266 |

#### ② 団体名一覧

台湾国立政治大学 (5月8日)、仲多度郡人権・同和施策推進連絡協議会(5月24日)、佐野市立出流原小学校 6年生(6月7日)、田園調布学園中等部職場訪問 (6月14日)、株式会社日建設計 コーポレート部門人権啓発推進室 (6月21日)、東京人権啓発企業連絡会 (6月27日)、法政大学資格課程 (博物館実習Ⅰ) (7

月 4 日)、東京都立大泉高等学校附属中学校職場体験 (7 月 9 日～10 日)、上田地区保護司会 (9 月 26 日)、寄居地区更生保護女性会 (10 月 9 日)、フィリピン図書館員協会 (10 月 23 日)、東京都立白鷗高等学校附属中学校職場体験(11 月 12 日～14 日)、群馬県立高崎北高等学校インターンシップ(11 月 13 日～14 日)、島根県東京事務所 (12 月 5 日、12 月 19 日、2025 年 1 月 9 日)、福建検察院団 (12 月 19 日)、韓国刑事・法務政策研究院 (2025 年 2 月 6 日)、曹洞宗保護司連合会埼玉県第一支部 (2025 年 2 月 19 日)

## 2. 組織・構成

### (1) 博物館構成員

#### ① 館長・副館長

任期：2024 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

| 役職  | 氏名   | 所属              | 専門                    |
|-----|------|-----------------|-----------------------|
| 館 長 | 石川幹人 | 情報コミュニケーション学部教授 | 認知科学、科学基礎論、科学技術社会論    |
| 副館長 | 堀田秀吾 | 法学部教授           | 法言語学、心理言語学、コミュニケーション論 |

#### ②専任職員

| 役職        | 氏名        | 担当   | 専門         |
|-----------|-----------|------|------------|
| 学術・社会連携部長 | 桐原正樹      |      |            |
| 博物館事務長    | 市川園子      |      |            |
| 庶務担当      | 福田厚史 武井大貴 |      |            |
| 学芸員       | 外山 徹      | 商品部門 | 博物館学／地域文化論 |
| 学芸員       | 島田和高      | 考古部門 | 考古学        |
| 学芸員       | 日比佳代子     | 刑事部門 | 日本近世史      |
| 学芸員       | 忽那敬三      | 考古部門 | 考古学        |

#### ③非常勤職員

|        | 氏名   | 担当         |
|--------|------|------------|
| 短期嘱託職員 | 織田 潤 | 庶務部門担当     |
| 短期嘱託職員 | 石井浩美 | 庶務(図書)部門担当 |
| 短期嘱託職員 | 戸部瑛理 | 商品部門担当     |

|        |                   |            |
|--------|-------------------|------------|
| 短期嘱託職員 | 矢口結菜              | 刑事部門担当     |
| 短期嘱託職員 | 竹内理来<br>(～8/31)   | 考古部門担当     |
| 短期嘱託職員 | 南雲 茜              |            |
| 短期嘱託職員 | 長谷川あずみ<br>(9/21～) |            |
| 短期嘱託職員 | 恩田扶美              | アーカイブ、広報担当 |

### (2) 博物館運営委員会

#### ① 運営委員会委員

博物館規程第 7 条 (3) 委員の任期：2023 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

|      |       |                    |
|------|-------|--------------------|
| 委員長  | 石川幹人  | 館長／情報コミュニケーション学部教授 |
| 副委員長 | 堀田秀吾  | 副館長／法学部教授          |
| 委員   | 小林史明  | 法学部准教授             |
| 委員   | 菊池一夫  | 商学部教授              |
| 委員   | 山内健治  | 政治経済学部教授           |
| 委員   | 落合弘樹  | 文学部教授              |
| 委員   | 駒見和夫  | 文学部教授              |
| 委員   | 野尻泰弘  | 文学部教授              |
| 委員   | 若狭 徹  | 文学部教授              |
| 委員   | 本多貴之  | 理工学部准教授            |
| 委員   | 薩摩秀登  | 経営学部教授             |
| 委員   | 川島高峰  | 情報コミュニケーション学部准教授   |
| 委員   | 桐原正樹  | 学術・社会連携部長          |
| 委員   | 外山 徹  | 博物館学芸員             |
| 委員   | 島田和高  | 博物館学芸員             |
| 委員   | 日比佳代子 | 博物館学芸員             |
| 委員   | 忽那敬三  | 博物館学芸員             |



## ②資料評価分科会

任期：2023年6月20日～2025年3月31日

|    |       |        |
|----|-------|--------|
| 座長 | 野尻泰弘  | 文学部教授  |
| 委員 | 菊池一夫  | 商学部教授  |
| 委員 | 若狭 徹  | 文学部教授  |
| 委員 | 薩摩秀登  | 経営学部教授 |
| 委員 | 外山 徹  | 博物館学芸員 |
| 委員 | 島田和高  | 博物館学芸員 |
| 委員 | 日比佳代子 | 博物館学芸員 |
| 委員 | 忽那敬三  | 博物館学芸員 |

## (3) 研究調査員

任期：2024年4月1日～2025年3月31日

|      |                        |
|------|------------------------|
| 高橋昭夫 | 商学部教授                  |
| 上原義子 | 商学部兼任講師<br>高千穂大学商学部准教授 |
| 牛米 努 | 文学部兼任講師                |
| 山路直充 | 市立市川考古博物館学芸員           |
| 金子 智 | 株式会社乃村工藝社              |

## (4) 作業部会

### ①博物館・大学院商学研究科・商学部連携

「伝統的工芸品の経営とマーケティングプロジェクト推進部会」

|    |      |                        |
|----|------|------------------------|
| 座長 | 高橋昭夫 | 商学部教授(商品学)             |
| 委員 | 菊池一夫 | 商学部教授(商業経営論)           |
| 委員 | 上原義子 | 商学部兼任講師<br>高千穂大学商学部准教授 |
| 委員 | 外山 徹 | 博物館学芸員                 |

## (5) 明治大学博物館友の会 2024 年度役員

|     |                   |                   |  |
|-----|-------------------|-------------------|--|
| 相談役 | 石川幹人              | 堀田秀吾              |  |
| 顧問  | 熊野正也              | 杉原重夫              |  |
| 会長  | 橋本秀夫              |                   |  |
| 副会長 | 村井孝行<br>(会計・総務兼務) | 林 信雄<br>(総務・広報兼務) |  |

|              |               |       |      |
|--------------|---------------|-------|------|
| 理事           | 鈴木 弘          | 野口 淳  |      |
| 運営委員<br>(総務) | —             |       |      |
| ”(<br>会計)    | 川村俊也          |       |      |
| ”(<br>行事)    | 松村祐安          | 桐生邦子  | 川村親弘 |
| ”(<br>広報)    | 望月桂一郎         | 大木英雄  |      |
| ”(<br>IT)    | 松村祐安          | 古川 孝  |      |
| 図書室管<br>理員代表 | 鈴木 弘          |       |      |
| 展示解説<br>員代表  | 林 信雄          |       |      |
| 展示解説<br>員副代表 | 渡辺やす子         |       |      |
| 監 事          | 支倉紀代美         | 松本 慶三 |      |
| 分科会          | 古文書を読む会       | 橋本秀夫  |      |
| 分科会          | 平成内藤家文書研究会    |       | 中村光子 |
|              | 工芸の会          |       | 平井孝雄 |
|              | 旧石器・縄文文化研究会   |       | 杉山 昭 |
|              | 弥生文化研究会       |       | 岡本直和 |
|              | 古文書の基礎を学ぶ会    |       | 平井孝雄 |
|              | 前方後円墳研究会      |       | 秋元克宣 |
|              | 「倭国から大和」を学ぶ会  |       | 野崎征彦 |
|              | 古代東北アジアと日本研究会 |       | 遠藤典夫 |
|              | 飛鳥・奈良の会       |       | 荒木 茂 |

## (6) 各種会議開催日

### ① 博物館運営委員会

ア 第1回(オンライン) 6月27日

#### 審議事項

- (1) 2025年度教育・研究に関する年度計画書等の提出について
- (2) 駿河台キャンパス再開発計画(仮称)基本構想に係わる意見集約への回答について

#### 報告事項

資金に係る 2023 年度事業報告及び会計報告について

#### イ 第 2 回 (メール審議) 7 月 25 日付議 (8 月 2 日審議期限)

##### 審議事項

2025 年度全学共通総合講座【機関企画講座(タイプ B)】の開講申請について

#### ウ 第 3 回 (メール審議) 9 月 26 日 (9 月 30 日審議期限)

##### 審議事項

博物館アルバイト労務時間単価の改正について

#### エ 第 4 回 (オンライン) 10 月 22 日

##### 審議事項

2025 年度博物館予算編成資料について

##### 報告事項

博物館図書室書架増設工事完了について

#### オ 第 5 回 (メール審議) 2025 年 2 月 12 日 (2 月 17 日審議期限)

##### 審議事項

明治大学資源利用史研究クラスター主催シンポジウムの共催について

#### カ 第 6 回 (オンライン) 2025 年 3 月 27 日

##### 審議事項

- (1) 2024 年度事業報告について
- (2) 2025 年度事業計画について
- (3) 2025 年度博物館研究調査員の委嘱について

##### 報告事項

- (1) 博物館登録の完了について
- (2) 考古部門常設展示室新展示について
- (3) 「古墳時代の霞ヶ浦北岸における首長系譜の研究」報告書刊行延期について

#### ② 博物館運営委員会資料評価分科会

第 1 回 12 月 6 日 (商品部門・刑事部門・考古部門)

#### ③ 「伝統的工芸品の経営とマーケティング」推進部会

第 1 回 5 月 17 日

第 2 回 7 月 5 日

第 3 回 9 月 27 日

第 4 回 11 月 8 日

第 5 回 2025 年 1 月 10 日

※いずれもオンライン会議により開催

#### ④ 博物館・友の会連絡会議

第 1 回 6 月 21 日

第 2 回 9 月 20 日

第 3 回 11 月 15 日

第 4 回 2025 年 2 月 21 日

#### ⑤ 博物館運営についてご意見を伺う会

日時 2025 年 3 月 27 日 (木)

招待者 博物館友の会会員 3 名 学生広報アンバサダー 4 名

内容

- ・考古部門新展示の紹介
- ・2025 年度実施予定の刑事部門の常設展示刷新計画についての説明及び意見交換
- ・その他博物館運営全般についての意見交換

### 3. 予算・決算

#### (1) 2024年度事業費予算・決算

##### ①予算

| 科目         | 目的<br>博物館費 | 基金<br>事業費 | 特定課題推進費         |                  |           |              |             | 合計         |
|------------|------------|-----------|-----------------|------------------|-----------|--------------|-------------|------------|
|            |            |           | 近代鍋島・<br>柿右衛門研究 | ONLINE<br>ミュージアム | 常設展<br>刷新 | 図書室の<br>書架増設 | 展示ケース<br>修繕 |            |
| 兼務職員人件費    | 645,000    | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 0           | 645,000    |
| 福利費        | 14,000     | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 0           | 14,000     |
| 修繕費        | 50,000     | 0         | 0               | 0                | 1,500,000 | 0            | 0           | 1,550,000  |
| 旅費交通費      | 908,000    | 0         | 250,000         | 0                | 0         | 0            | 0           | 1,158,000  |
| 業務委託費      | 2,876,000  | 0         | 226,000         | 1,736,000        | 3,800,000 | 0            | 0           | 8,638,000  |
| 保険料        | 120,000    | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 0           | 120,000    |
| 準備品        | 390,000    | 0         | 0               | 0                | 176,000   | 0            | 0           | 566,000    |
| その他の消耗品費   | 2,324,000  | 0         | 0               | 200,000          | 0         | 0            | 0           | 2,524,000  |
| 印刷製本費      | 920,000    | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 0           | 920,000    |
| 通信費        | 88,000     | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 0           | 88,000     |
| 郵便費        | 22,000     | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 0           | 22,000     |
| 運搬費        | 490,000    | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 0           | 490,000    |
| 広告費        | 160,000    | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 0           | 160,000    |
| 支払手数料      | 395,000    | 0         | 30,000          | 0                | 0         | 0            | 0           | 425,000    |
| 会合費        | 96,000     | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 0           | 96,000     |
| 公租公課       | 34,000     | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 0           | 34,000     |
| 教育研究用機器備品費 | 1,894,000  | 0         | 0               | 0                | 0         | 5,000,000    | 0           | 6,894,000  |
| 合 計        | 11,426,000 | 0         | 506,000         | 1,936,000        | 5,476,000 | 5,000,000    | 0           | 24,344,000 |
| 前年度予算額     | 11,426,000 | 0         | 506,000         | 1,936,000        | 5,476,000 | 0            | 5,555,000   | 24,899,000 |
| 増・減 (▲)    | 0          | 0         | 0               | 0                | 0         | 5,000,000    | ▲ 5,555,000 | ▲ 555,000  |

※金額は当初予算の額を入れており年度途中の予算追加、振替は反映していない

※近代鍋島・柿右衛門研究の前年度予算額は首長系譜共同研究の合計額を入れている

※合計金額は博物館費と特定課題推進費の合計で基金事業費を含んでいない

## ②決算

| 目的<br>科目   | 博物館費       | 基金<br>事業費 | 特定課題推進費         |                  |           |              |             | 合計          |
|------------|------------|-----------|-----------------|------------------|-----------|--------------|-------------|-------------|
|            |            |           | 近代鍋島・<br>柿右衛門研究 | ONLINE<br>ミュージアム | 常設展刷新     | 図書室の<br>書架増設 | 展示ケース<br>修繕 |             |
| 兼務職員人件費    | 615,700    | 0         | 0               | 0                | 0         | 47,150       | 0           | 662,850     |
| 福利費        | 0          | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 0           | 0           |
| 修繕費        | 495,000    | 0         | 0               | 0                | 55,000    | 0            | 0           | 550,000     |
| 旅費交通費      | 558,085    | 0         | 175,376         | 0                | 0         | 0            | 0           | 733,461     |
| 業務委託費      | 2,179,133  | 858,660   | 189,475         | 1,606,000        | 5,349,931 | 0            | 0           | 9,324,539   |
| 保険料        | 84,870     | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 0           | 84,870      |
| 準備品        | 349,800    | 0         | 0               | 277,860          | 0         | 0            | 0           | 627,660     |
| その他の消耗品費   | 3,158,196  | 5,118     | 0               | 48,290           | 146,873   | 0            | 0           | 3,353,359   |
| 印刷製本費      | 673,405    | 24,430    | 0               | 0                | 0         | 0            | 0           | 673,405     |
| 通信費        | 87,120     | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 0           | 87,120      |
| 郵便費        | 3,414      | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 0           | 3,414       |
| 運搬費        | 375,575    | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 0           | 375,575     |
| 広告費        | 0          | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 0           | 0           |
| 支払手数料      | 556,957    | 0         | 0               | 0                | 80,000    | 0            | 0           | 636,957     |
| 会合費        | 13,172     | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 0           | 13,172      |
| 公租公課       | 30,000     | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 0           | 30,000      |
| 教育研究用機器備品費 | 2,255,000  | 0         | 0               | 0                | 0         | 4,950,000    | 0           | 7,205,000   |
| 合 計        | 11,435,427 | 888,208   | 364,851         | 1,932,150        | 5,631,804 | 4,997,150    | 0           | 24,361,382  |
| 前年度決算額     | 10,673,688 | 1,327,558 | 392,589         | 1,996,500        | 5,023,197 | 5,006,925    | 2,442,000   | 25,534,899  |
| 増・減 (▲)    | 761,739    | ▲ 439,350 | ▲ 27,738        | ▲ 64,350         | 608,607   | ▲ 9,775      | ▲ 2,442,000 | ▲ 1,173,517 |

※予算額を超える執行は年度途中に予算追加、振替の措置を取っている

※合計金額は博物館費と特定課題推進費の合計で基金事業費を含んでいない

※基金事業費は、籠谷典子「知の公開」ミュージアム資金による

## (2) 2024年度収入

| 科目：その他の雑収入  | 予算額       | 決算額       |
|-------------|-----------|-----------|
| 博物館発行資料売上代  | 600,000   | 516,230   |
| 文献複写・資料代    | 80,000    | 75,460    |
| 撮影・掲載料      | 300,000   | 727,100   |
| 特別展入場料      | 0         | 0         |
| ミュージアムグッズ売上 | 600,000   | 1,074,850 |
| その他         | 50,000    | 179,645   |
| 合 計         | 1,630,000 | 2,573,285 |
| 前年度予算決算額    | 1,630,000 | 1,901,202 |
| 増・減 (▲)     | 0         | 672,083   |

## 4. 施設概要・見取り図

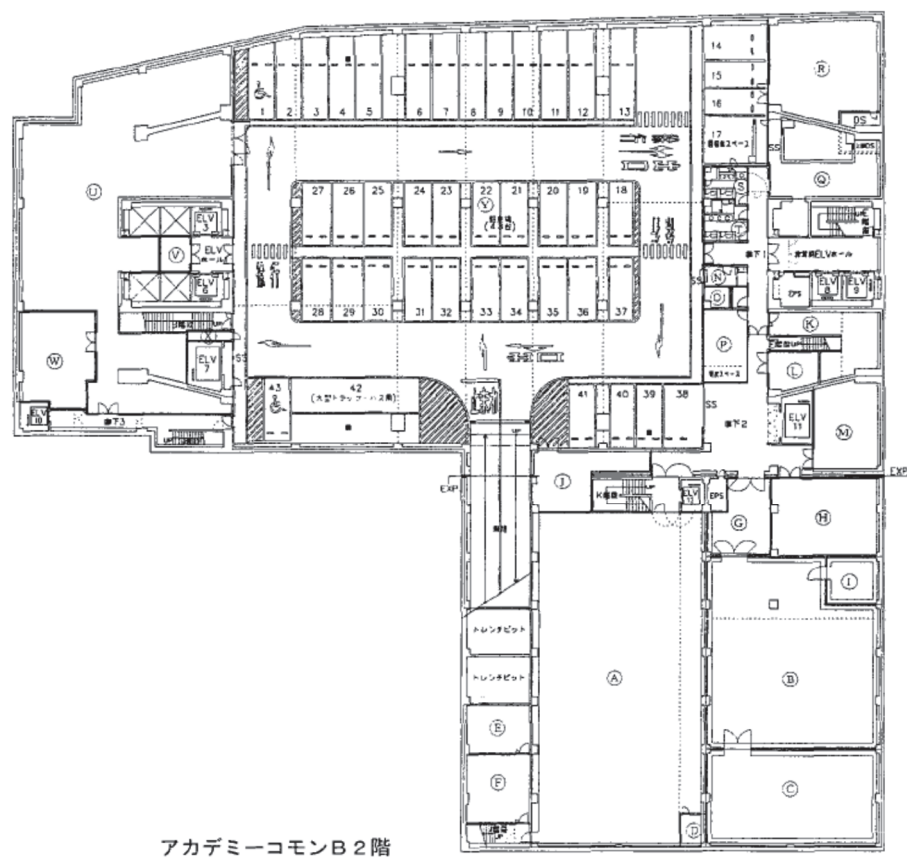
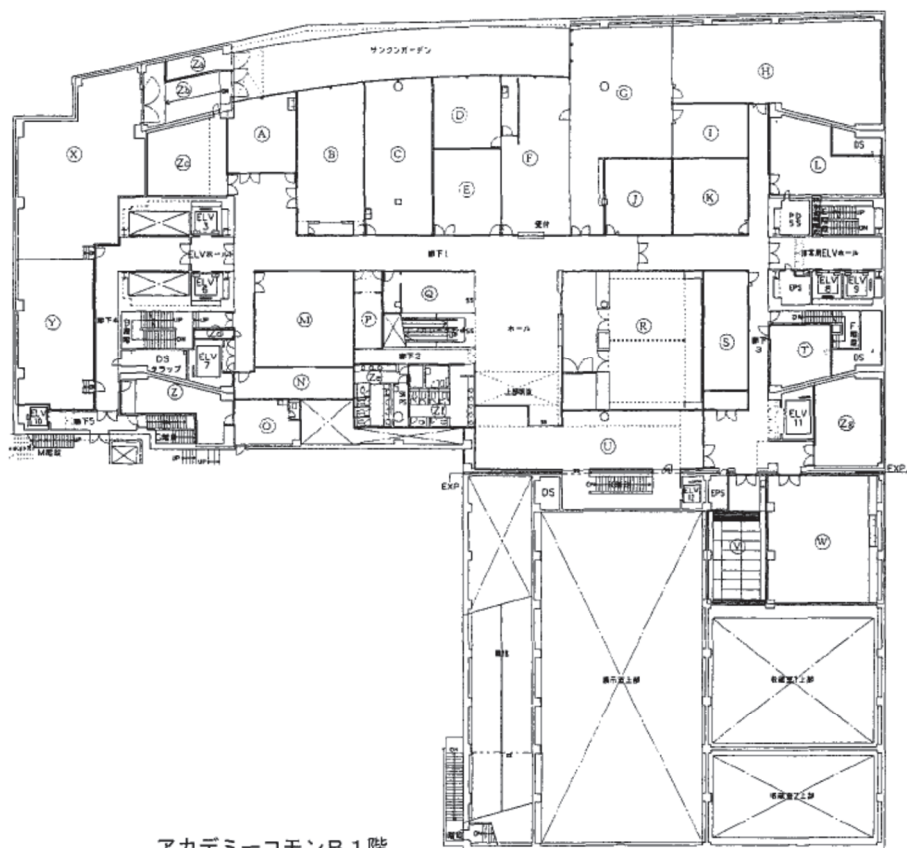
### (1) 施設概要

(単位 m<sup>2</sup>)

|        |            | 階  | 記号 | 面積                      | 延べ面積                  |
|--------|------------|----|----|-------------------------|-----------------------|
| 管理部門   | 館長室        | B1 | D  | 42.86 m <sup>2</sup>    | 243.90 m <sup>2</sup> |
|        | 事務室        | B1 | F  | 94.06 m <sup>2</sup>    |                       |
|        | 会議室        | B1 | J  | 45.12 m <sup>2</sup>    |                       |
|        | 倉 庫        | B1 | L  | 61.86 m <sup>2</sup>    |                       |
| 教育普及部門 | 図書室        | B1 | G  | 145.04 m <sup>2</sup>   | 523.22 m <sup>2</sup> |
|        | 書 庫        | B1 | H  | 176.03 m <sup>2</sup>   |                       |
|        | 閲覧室        | B1 | I  | 35.95 m <sup>2</sup>    |                       |
|        | 博物館教室      | B1 | B  | 87.94 m <sup>2</sup>    |                       |
|        | 体験学習室      | B1 | A  | 44.31 m <sup>2</sup>    |                       |
|        | ミュージアムショップ | B1 | Q  | 33.95 m <sup>2</sup>    |                       |
| 展示室    | 常設展示室      | B2 | A  | 497.19 m <sup>2</sup>   | 785.73 m <sup>2</sup> |
|        | 大学史展示室     | B1 | U  | 115.20 m <sup>2</sup>   |                       |
|        | 特別展示室      | B1 | R  | 173.34 m <sup>2</sup>   |                       |
| 調査研究部門 | 学芸研究室      | B1 | C  | 92.03 m <sup>2</sup>    | 332.76 m <sup>2</sup> |
|        | 作業室 1      | B1 | V  | 60.80 m <sup>2</sup>    |                       |
|        | 作業室 2      | B1 | W  | 129.70 m <sup>2</sup>   |                       |
|        | 展示準備室      | B1 | K  | 50.23 m <sup>2</sup>    |                       |
| 収蔵部門   | 前室         | B2 | G  | 38.90 m <sup>2</sup>    | 649.11 m <sup>2</sup> |
|        | 一時保管室      | B2 | H  | 77.35 m <sup>2</sup>    |                       |
|        | 収蔵室 1      | B2 | B  | 271.46 m <sup>2</sup>   |                       |
|        | 収蔵室 2      | B2 | C  | 147.37 m <sup>2</sup>   |                       |
|        | 特別収蔵室      | B2 | I  | 23.28 m <sup>2</sup>    |                       |
|        | 写真保管室 1    | B1 | S  | 56.68 m <sup>2</sup>    |                       |
|        | 写真保管室 2    | B1 | T  | 34.07 m <sup>2</sup>    |                       |
|        | 合 計        |    |    | 2,534.72 m <sup>2</sup> |                       |



## (2) 施設見取り図



## 5. 規程

### 明治大学博物館規程

1991年10月31日制定

1991年規程第2号

(趣旨)

**第1条** この規程は、明治大学学則第64条第2項の規定に基づき、明治大学博物館(以下「博物館」という。)について、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

**第2条** 博物館は、資料等の収集、整理、保存及び展示を行い、明治大学(以下「本大学」という。)の学生、教職員、校友及び一般公衆の利用に供し、教育・研究に資するための事業を行うことを目的とする。

(事業)

**第3条** 博物館は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 考古、歴史、刑事及び商品に関する資料の収集、整理、保存、閲覧、貸借、交換及び展示
  - (2) 前号に関する調査、研究及び開発
  - (3) 資料の目録及び図録、資料集、年報、調査報告書、研究報告書等の作成、頒布及び公開
  - (4) 資料に関する解説並びに講習会、研究会、講演会及び映写会等の実施
  - (5) 寄託資料の整理、保存、閲覧及び展示
  - (6) 本大学における教育・研究の成果を発信する展示会、講演会、シンポジウム等の開催
  - (7) 学外の教育、学術又は文化に関する諸機関との連携・協力
  - (8) 生涯教育の振興及び学習支援
  - (9) 分館の設置及び運営
  - (10) その他必要と認められる事業
- (館長)

**第4条** 博物館に、館長1名を置く。

- 2 館長は、学長の命を受けて館務を総括し、博物館を代表する。
- 3 館長は、本大学専任教授の中から、学長の推薦により理事会が任命する。
- 4 館長の任期は、2年とする。ただし、補欠の館長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 館長は、再任されることができる。
- 6 館長は、学部、大学院、付属学校又は附属機関の長を兼ねることができない。

(副館長)

**第5条** 博物館に、副館長1名を置く。

- 2 副館長は、館長を補佐し、館長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 3 副館長は、館長が本大学専任教員の中から推薦し、学長の同意を得て、理事会が任命する。

- 4 副館長の任期は、2年とする。ただし、補欠の副館長の任期は、前任者の残任期間とする。

- 5 副館長は、再任されることができる。

(事務及び職員)

**第6条** 博物館に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室で行う。

- 2 学術・社会連携部博物館事務室に、事務管理職1名並びに学芸員及び職員若干名を置く。
- 3 学芸員は、第3条に規定する博物館の事業についての専門的事項をつかさどる。

(研究調査員)

**第6条の2** 博物館に、研究調査員若干名を置くことができる。

- 2 研究調査員は、本大学の教職員及び学外の有識者から、館長が次条に規定する博物館運営委員会の同意を得て委嘱する。
- 3 前項のほか、研究調査員に関し必要な事項は、別に定める。

(博物館運営委員会)

**第7条** 博物館の運営に関して、次に掲げる事項について審議するため、博物館に博物館運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

- (1) 第3条に掲げる事業及びその事業計画に関する事項
  - (2) 博物館の管理・運営に関する事項
  - (3) 予算及び決算に関する事項
  - (4) その他委員会が必要と認めた事項
- 2 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
    - (1) 館長
    - (2) 副館長
    - (3) 博物館の運営に関して専門知識を有する専任教職員の中から館長が推薦する者若干名
    - (4) 第6条第2項に規定する学芸員
    - (5) 学術・社会連携部長

- 3 前項第3号の委員は、学長が委嘱する。

- 4 委員の任期は、職務上委員となる者を除き、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 5 委員は、再任されることができる。

- 6 委員会に、委員長及び副委員長各1名を置く。

- 7 委員長は、第2項第1号の委員をもって充て、副委員長は、委員の中から委員会の同意を得て、委員長が指名する。

- 8 委員長は、会務を総理し、委員会の議長となる。

- 9 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

(会議)

**第7条の2** 委員会は、必要に応じ、委員長が招集する。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。
- 5 委員会には、必要に応じ、分科会を置くことができる。
- 6 分科会に関し必要な事項は、委員長が委員会の同意を得て、これを定める。

(規程の改廃)

**第8条** この規程を改廃するときは、委員会の議を経なければならない。

(雑則)

**第9条** この規程に定めるもののほか、博物館の管理・運営上必要な事項は、委員会の議を経た後、学長の承認を得て、別に定める。

**附 則** (1991年規程第2号)

(施行期日)

- 1 この規程は、1991年(平成3年)10月31日から施行する。  
(明治大学刑事博物館規程等の廃止)
- 2 次に掲げる規程は、廃止する。
  - (1) 明治大学刑事博物館規程(昭和56年規程第72号)
  - (2) 明治大学商品陳列館規程(昭和56年規程第73号)
  - (3) 明治大学考古学博物館規程(昭和56年規程第74号)
 (通達第669号)

**附 則** (1996年度規程第16号)

この規程は、1997年(平成9年)4月1日から施行する。  
(通達第893号)(注 博物館協議会の設置に伴う改正)

**附 則** (2001年度規程第14号)

この規程は、2002年(平成14年)4月1日から施行する。  
(通達第1143号)(注 商品陳列館を商品博物館に名称変更することに伴う当該条項の改正)

**附 則** (2003年度規程第8号)

(施行期日)

- 1 この規程は、2004年(平成16年)4月1日から施行する。  
(改正前の規定による各博物館長の任期に関する特例)
- 2 改正前の明治大学博物館規程第6条第1項により選任された明治大学刑事博物館長、明治大学考古学博物館長及び明治大学商品博物館長の任期は、同規程第8

条第1項の規定にかかわらず、2004年(平成16年)3月31日をもって満了するものとする。

(通達第1232号)(注 刑事博物館、考古学博物館及び商品博物館の統合に伴う改正)

**附 則** (2006年度規程第13号)

この規程は、2006年(平成18年)11月16日から施行する。

(通達第1490号)(注 事業に「分館の設置及び運営」を加えること、研究調査員の設置等に伴う改正)

**附 則** (2007年度規程第21号)

この規程は、2007年(平成19年)9月10日から施行する。

(通達第1562号)(注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正)

**附 則** (2008年度規程第4号)

この規程は、2008年(平成20年)5月20日から施行する。

(通達第1689号)(注 研究調査員の対象者に学外の有識者及び若手研究者を加えることに伴う改正)

**附 則** (2009年度規程第7号)

この規程は、2009年(平成21年)6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

(通達第1807号)(注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

**附 則** (2017年度規程第3号)

(施行期日)

- 1 この規程は、2017年(平成29年)4月20日から施行する。  
(委員の任期の特例)
- 2 この規程の施行後、改正後の第7条第2項第3号の規定により最初に委嘱される委員の任期は、同条第4項本文の規定にかかわらず、2019年(平成31年)3月31日までとする。  
(通達第2462号)(注 博物館の事業の追加、博物館協議会の博物館運営委員会への改組等に伴う改正)

## 博物館所蔵資料等の撮影及び掲載に関する要綱

1994年9月26日制定

1994年度例規第7号

(趣旨)

**第1条** この要綱は、明治大学博物館規程(1991年規程第2号)第9条の規定に基づき、博物館の資料、遺物及び商品(以下「資料等」という。)の撮影及び掲載に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

**第2条** この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 撮影 資料等の写真又は動画の撮影を行うことをいう。
- (2) 熟覧 営利上の目的又は創造的意思をもって、資料等の形状、紋様若しくは色彩又はこれらの結合にかかわる利用を行うことをいう。

(申請)

**第3条** 資料等の撮影及び掲載（以下「撮影・掲載」という。）を希望する者（以下「申請者」という。）は、所定の資料撮影・掲載申請書（以下「申請書」という。）を、学術・社会連携部博物館事務室を経て、博物館長（以下「館長」という。）に提出し、許可を受けなければならない。

(許可)

**第4条** 館長は、撮影・掲載を許可する場合は、資料撮影・掲載許可書を、申請者に交付する。

2 前項の場合においては、必要に応じ、次に掲げる事項を付帯条件とするものとする。

- (1) 撮影をするときは、学芸員等の指示に従うこと。
- (2) 掲載をするときは、明治大学博物館の名称及びその所蔵である旨を明記すること。
- (3) 撮影により生じた著作物は、申請書記載の目的以外には使用しないこと。
- (4) 撮影は、館長が指定し、又は許可した業者が行うこと。
- (5) 前各号のほか、資料等の保全上、館長が特に必要と認めたこと。

3 博物館が所有する資料等の写真フィルム原版、デジタル写真、動画、デジタルコンテンツ若しくはそれらの複製物又は博物館の刊行物を利用して、目的を達成することができると明らかに認められる場合は、掲載のみを許可する。

(撮影・掲載を許可しない場合)

**第5条** 次の各号のいずれかに該当する場合は、撮影・掲載を許可しない。

- (1) 撮影により資料等の保存に悪影響が生ずると認められる場合
- (2) 撮影・掲載が好ましくない用途に供するために行われると認められる場合
- (3) 撮影により博物館の事務処理に支障が生ずると認められる場合
- (4) 博物館の所蔵でなく、又はほかに著作権者がある資料について、所有者又は著作権者から、同意を得ていない場合
- (5) 前各号のほか、撮影・掲載を許可することが適当でないと認められる場合

(料金)

**第6条** 申請者は、撮影・掲載を許可された場合は、別表

第1に定める料金を、速やかに、学術・社会連携部博物館事務室に納付しなければならない。

2 料金は、資料等1点当たりの金額とする。

3 いったん納付された料金は、原則として、還付しない。

(料金の免除)

**第7条** 前条第1項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、料金を全額免除する。

- (1) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に関する事業（次号において「教育等事業」という。）の用途に供することを目的とするとき。
- (2) 教育等事業の普及に特に役立つと認められる用途に供することを目的とするとき。
- (3) 私立の学校又は研究所の教育若しくは研究の用途に供することを目的とするとき。
- (4) 博物館法（昭和26年法律第285号）に規定する博物館等の行う事業の用途に供することを目的とするとき。
- (5) 専ら学術研究の用途に供することを目的とするとき。
- (6) 専ら報道の用途に供することを目的とするとき。
- (7) 前各号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき。

2 前項の規定により料金を全額免除された者は、撮影・掲載により生じた著作物を、1部以上、無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が特に認めたときは、この限りでない。

(準用規定)

**第8条** 資料等の熟覧並びに写真フィルム原版、デジタル写真、動画、デジタルコンテンツ又はそれらの複製物の利用による掲載及び転載（以下「貸出掲載・転載」という。）については、第3条から前条までの規定を準用する。

2 前項の場合において、第6条第1項中「別表第1に定める料金を」とあるのは、「熟覧にあつては別表第2に定める料金を、貸出掲載・転載にあつては別表第3に定める料金を」と読み替えるものとする。

(その他の諸経費)

**第9条** この要綱に定める料金のほか、撮影・掲載に伴う諸経費は、申請者の負担とする。

(意匠使用)

**第10条** 資料等の意匠使用に関し必要な事項については、館長が、その都度、関係部署の長及び申請者と協議して定めるものとする。

2 申請者は、前項の規定による決定事項を遵守しなければならない。

(申請者の責務等)

**第11条** 申請者は、資料等に損傷を与えた場合は、その損害を弁償しなければならない。

2 申請者は、撮影・掲載により著作権法にかかわる問題



が生じた場合は、すべてその責任を負うものとする。  
(許可の取消し等)

**第12条** 館長は、申請者が撮影・掲載の許可条件に従わない場合は、当該の許可の取消し又は撮影・掲載の中止をすることができる。

2 前項の規定により、撮影・掲載の許可の取消し又は撮影・掲載の中止をされた申請者に対しては、以後の撮影・掲載を許可しないことがある。

(雑則)

**第13条** この要綱に定めのない事項については、館長が博物館運営委員会に諮り、学長の承認を得て、別に定めることができる。

**附 則** (1994年度例規第7号)

この要綱は、1994年(平成6年)9月27日から施行する。

**附 則** (1997年度例規第7号)

この要綱は、1997年(平成9年)12月16日から施行し、改正後の第1条及び第13条の規定は、同年4月1日から適用する。

(通達第922号)(注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正)

**附 則** (2004年度例規第7号)

この要綱は、2004年(平成16年)10月1日から施行する。

(通達第1312号)(注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正並びにフィルム及び紙焼の貸出掲載料金の改定に伴う改正)

**附 則** (2007年度例規第9号)

この要綱は、2007年(平成19年)9月10日から施行する。

(通達第1563号)(注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正)

**附 則** (2009年度例規第9号)

この要綱は、2009年(平成21年)6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

(通達第1808号)(注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

**附 則** (2015年度例規第13号)

この要綱は、2016年(平成28年)4月1日から施行する。

(通達第2363号)(注 デジタル化に即した規定に改めること及び撮影・掲載料金等の改定に伴う改正)

**附 則**

この要綱は、2017年(平成29年)4月26日から施行する。

**別表第1** (第6条関係)

撮影・掲載料金(消費税は含まない。)

|         |        |
|---------|--------|
| 写 真・動 画 | 10,000 |
|---------|--------|

(単位:円)

**別表第2** (第8条関係)

熟覧料金(消費税は含まない。)

|     |       |
|-----|-------|
| 熟 覧 | 5,000 |
|-----|-------|

(単位:円)

**別表第3** (第8条関係)

貸出掲載・転載料金(消費税は含まない。)

1 写真フィルム原版

|        |              |                      |       |
|--------|--------------|----------------------|-------|
| サイズ    | 4×5<br>(インチ) | 6×8(c m)<br>6×6(c m) | 35mm  |
| カラー    | 7,500        | 6,000                | 2,000 |
| モノクローム | 5,000        | 2,000                | 1,000 |

(単位:円)

2 デジタル写真

|            |       |
|------------|-------|
| カラー・モノクローム | 4,000 |
|------------|-------|

(単位:円)

3 動画及びデジタルコンテンツ

|               |        |
|---------------|--------|
| 動画及びデジタルコンテンツ | 20,000 |
|---------------|--------|

(単位:円)

## 明治大学博物館特別展示室の利用に関する取扱要綱

2005年10月4日制定

2005年度例規第7号

(趣旨)

**第1条** この要綱は、学校法人明治大学固定資産・物品管理規程(昭和46年規程第38号)第1条第3項の規定に基づき、明治大学博物館(以下「博物館」という。)内の特別展示室Ⅰ・Ⅱ(以下「特別展示室」という。)の利用等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(管理責任者)

**第2条** 特別展示室の管理責任者は、博物館長とする。  
(利用範囲)

**第3条** 特別展示室は、博物館が実施する特別展等(以下「特別展等」という。)に利用するものとし、特別展等に利用しない期間については、次の各号のいずれかに該当する場合に利用を許可するものとする。

(1) 学内関係機関による展示活動

(2) クラス、ゼミナール等による授業にかかわる展示活動



- (3) 本学公認サークルによる展示活動
- (4) 本学の専任教職員が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
- (5) 本学の校友が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
- (6) その他特に管理責任者が許可した展示活動  
(利用日及び利用時間)

**第4条** 特別展示室の利用を許可する日は、博物館の開館日とする。

- 2 利用時間は、午前10時から午後4時30分までとする。
- 3 利用期間は、原則として2週間を限度とする。ただし、前条第1号及び第2号に該当する場合は、この限りでない。  
(利用申込み)

**第5条** 特別展示室の利用を希望する者は、所定の利用申請書を利用開始日の6週間前までに、管理責任者に提出しなければならない。

(利用許可)

**第6条** 管理責任者は、前条の規定により申請を受け、申請内容が適当であると認められたときは、利用開始日の3週間前までに利用を許可するものとする。ただし、次の各号のいずれかに該当すると認められる場合は、利用を許可しない。

- (1) 特別展示室の管理・運営に支障が生ずるおそれがある場合
  - (2) 付属設備及び備品を破損するおそれがある場合
  - (3) その他利用が不相当と認められる場合
- 2 前項により、管理責任者は、利用を許可したときは、利用許可書を申請者に交付する。

(利用の中止)

**第7条** 利用者の都合により利用を中止する場合は、利用開始日の2週間前までに管理責任者に申し出て、交付された利用許可書を返却しなければならない。

(利用の取消し等)

**第8条** 次の各号のいずれかに該当するときは、事前に、又は利用期間中において利用の取消し又は利用期間の変更をすることがある。

- (1) 本学の業務遂行上緊急やむを得ない事情が生じたとき。
  - (2) 利用申請書に虚偽の記載があったとき。
  - (3) 特別展示室の管理・運営に支障が生じたとき。
  - (4) その他特別展示室の利用が不相当と管理責任者が認めたとき。
- 2 前項により、利用者に損害が生じて、本学は、その責を負わないものとする。

(遵守事項)

**第9条** 利用者は、特別展示室の利用に際し、管理責任者の指示を遵守しなければならない。

(利用料等)

**第10条** 利用者は、特別展示室の利用を許可されたときは、所定の方法により、2週間前までに利用料を納入しなければならない。

- 2 前項の規定にかかわらず、第3条第1号、第2号及び第3号に該当する場合は、特別展示室の利用料を徴収しない。
- 3 第3条第4号及び第5号に該当する場合の利用料は、1日につき2,700円(消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額)とする。
- 4 第3条第6号に該当する場合の利用料は、1日につき5,400円(消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額)とする。
- 5 いったん納入された利用料は、第7条の規定による特別展示室に係る利用の中止又は第8条第1項第1号の規定による利用の取消しの場合を除き、これを返還しない。

(権利の譲渡及び転貸の禁止)

**第11条** 利用者は、特別展示室の利用の権利を譲渡し、又は転貸をしてはならない。

(損害賠償)

**第12条** 利用者は、特別展示室の利用に際し、その付属設備及び備品を破損し、紛失し、又は汚損したときは、直ちに主管部署に届け出て、その指示を受けなければならない。

- 2 前項の場合において生じた損害については、利用者が損害に相当する額を弁償しなければならない。ただし、やむを得ない事由があると認められるときは、これを減免することがある。
- 3 盗難、火災等により利用者が搬入した展示物等に損害が生じて、本学は、その責を負わないものとする。  
(主管部署)

**第13条** 特別展示室の利用に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室が行う。

(要綱の改廃)

**第14条** この要綱を改廃するときは、博物館運営委員会の議を経なければならない。

**附 則 (2005年度例規第8号)**

この要綱は、2005年(平成17年)10月5日から施行する。

(通達第1397号)

**附 則 (2007年度例規第9号)**

この要綱は、2007年(平成19年)9月10日から施行する。

(通達第1563号)(注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正)

**附 則 (2009年度例規第9号)**

この要綱は、2009年(平成21年)6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。  
(通達第1808号)(注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

## 附 則

この要綱は、2017年(平成29年)4月26日から施行する。

## 明治大学博物館友の会会則

1988年6月25日制定  
1993年4月1日改定  
2006年4月1日改訂  
2010年4月1日改訂  
2014年4月1日改訂

(名称)

第1条 本会は、明治大学博物館友の会という。

(事務所)

第2条 本会は、事務所を東京都千代田区神田駿河台1-1明治大学(以下「大学」という)に所在する明治大学博物館(以下「博物館」という)内に置く。

(目的)

第3条 本会は、博物館設置の趣旨に賛同し、会員による自主運営を旨とし、会員相互の知識と親睦を深め合い、もって博物館の活動に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

- ①講演会・研修会・見学会などの開催
- ②会報、ニュース、図書の発行
- ③会員による自主研究分科会活動
- ④博物館事業への協力活動
- ⑤その他目的達成に必要と認められた事業

(入会)

第5条 本会に入会を希望する個人は、入会申込書に記入の上、所定の会費を添えて申し込まなければならない。なお、本会活動の趣旨に賛同後援する個人及び法人を賛助会員とする。

2 会員には会員証を発行する。

(会員の特典)

第6条 会員には、次の特典がある。

- ①本会および博物館の行事などの情報提供
- ②大学並びに博物館主催行事への優待参加
- ③大学図書館の閲覧

(退会)

第7条 会員の資格は、次の場合に消滅する。

- ①退会の申し出があった場合
- ②死亡した場合

③会員証記載の有効期限が過ぎた場合

④本会の趣旨に违背した行為があったと認められる場合

(役員)

第8条 本会に、次の役員を置く。

- ① 会長 1名
- ② 副会長 2名以内
- ③ 理事 5名以内
- ④ 運営委員 若干名
- ⑤ 監事 2名以内

(役員選出)

第9条 役員は、次のとおり選出するものとする。

- ①会長および監事は、総会で選出する。
- ②副会長および理事は、会長が任命する。
- ③総務・会計・行事・広報を担当する運営委員は、理事会において選任し、会長が任命する。また、博物館図書室管理員・展示解説員からそれぞれ互選された運営委員を、会長が任命する。
- ④上記②、③について、会報で報告する。
- ⑤監事は、他の役員を兼務することが出来ない。

(役員職務)

第10条 役員は、次の職務を誠実に執行するものとする。

- ①会長は、本会を代表し、会務を総理する。
- ②副会長は、会長を補佐し、会長がその職務を遂行出来ないときは、その職務を代行する。
- ③理事は、本会の総務、会計、広報、行事、企画などの会務を行う。
- ④運営委員は、理事と共に会務を行う。
- ⑤監事は、本会の財産会計業務を監査し、総会に報告するとともに、理事会および運営委員会に出席し、その職務に関し、意見を述べる事が出来る。

(役員任期)

第11条 役員の任期は、2年とする。ただし、役員の再任を妨げない。

2 補欠の役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(相談役・顧問)

第12条 本会に、相談役および顧問を置くことが出来る。

2 相談役および顧問は、理事会の推薦により会長が委嘱する。

3 相談役および顧問は、本会への必要な助言を行う。

(総会)

第13条 本会は、年1回総会を開き、事業報告・会計報告を行い、事業計画・予算案を出席会員の過半数により議決する。なお、理事会の議決、又は会員過半数の要求があった場合は、会長は臨時総会を開催しなければならない。

(理事会)

第14条 理事会は、会長、副会長、理事を以て構成し、

会長が招集し、次の事項を審議・決定する。

①総会に付議する重要な事項。

②その他、本会の運営に関する重要な事項。

なお、理事会構成員の過半数の要求があった場合、会長は理事会を開催しなければならない。

(運営委員会)

**第15条** 運営委員会は、会長、副会長、理事、運営委員を以て構成し、会長が招集し本会の業務運営を行う。

なお、運営委員会構成員の過半数の要求があった場合、会長は運営委員会を開催しなければならない。

(会費)

**第16条** 本会の年会費は、次のとおりとする。ただし、その年度の下半期入会者は、賛助会員を除き半額とする。なお、納められた年会費は返還しない。

①一般会員 3,000円

②家族会員 1,500円(同居の家族)

③学生 1,500円

④賛助会員(1口) 10,000円

(経費)

**第17条** 本会の経費は、会費・事業収益・寄附金・その他をもって充てる。

(事業年度)

**第18条** 本会の事業年度は、4月1日より翌年3月31日までとする。

(会則の変更)

**第19条** 本会の会則は、総会の議決なくして変更することはできない。

(付則)

1. 本会則は、改訂年4月1日から発効する。
2. 本会の管理運営上必要と認められる細則は、理事会において審議し、別に定める。

## 6. 2024年度博物館事業計画

※2024年度学務担当常勤理事の所管業務に関する年度計画書より抜粋

### (1) 最重点項目(4項目)

#### ①図書室の書架増設

図書室には収蔵資料にかかわる専門書約10万冊が排架されており、本学学生・教職員の教育研究活動にとって不可欠であるほか、蔵書の専門性は外部からも高く評価されている。開館から19年が過ぎ書架の収容能力は限界に達しており、今後の教育研究活動に支障が生じることが見込まれるため、早急に書架を増設する。

#### ②常設展示の刷新(考古部門)

アカデミーコモンに博物館が開設されてから19年、常設展示は前回の展示替えから約10年が経つことから、学術情報の更新とともに、SDGs(持続可能な17の開発目標)の理解や国際化教育への活用、学びのコミュニティ形成や教育のバリアフリー化(社会的包摂)といった今日的課題を見据えた教育リソースとして常設展示を刷新する。3ヶ年計画による常設展示(刑事・考古・商品)刷新の2年目として、考古部門の展示改修と展示ケース修繕を行う。

### ③「明治大学博物館ONLINEミュージアム」におけるデジタルコンテンツの拡充

いつでもどこでも学べる博物館の「知の拠点」としての機能を向上させるために、「明治大学博物館ONLINEミュージアム」(2020年7月公開)における新規コンテンツ開発と拡充を行う。2022年度より4ヶ年計画で特色ある画像・動画コンテンツ及び収蔵品データベースを開発し公開する。

「ONLINEミュージアム」のコンテンツを継続的に拡充することで、ネット環境における収蔵品情報発信の量と博物館が提供する学びの質を向上する。

### ④収蔵資料及び関連学術分野の特色ある共同研究の推進

質の高い博物館事業を持続的に展開し、本学のブランディング形成に貢献するため、収蔵資料に関連する特色ある研究を学内外の研究者を交えて推進する。2024年度から2ヶ年は、2015～2020年にかけて受贈した陶磁資料を研究対象に「近代鍋島焼及び十二代柿右衛門初期作品の研究」を実施する。受贈資料を製造した窯の後継窯に対するヒアリングや他機関所蔵の伝世品の調査を行うと共に、収蔵品カタログ刊行準備として資料の写真撮影を行う。

## (2) 重点項目(10項目)

### ①展覧会の開催(収蔵資料の公開)

特別展示室の利用は、博物館における「共同利用機能の拡充」の主要な役割を担う。学内団体に利用機会を幅広く提供するため、引き続き利用の周知を図る。

#### A) 博物館主催展覧会等の開催

A 新収蔵品展(前年度収集資料の公開)

B 収蔵資料の研究成果の社会還元、学術的価値の発信を目的とした企画展

#### イ) 博物館以外の機関・組織が主催する展覧会への会場提供・開催支援

A 学内組織による展示、教職員による研究成果

の公開

B 外部機関による展示

#### ウ) 常設展示の刷新及び充実、その他の展示

A 常設展示の刷新

B 明治大学コレクション展(収蔵資料紹介のコラム展示)

### ②各種教育普及プログラムの実施

学芸員の専門的知識や技能を活用した在学生教育・生涯学習プログラム・研究発表会等を実施する。また、学外の教育・研究機関が主催する市民講座等へも積極的に出講し、本学と博物館の研究成果を社会に還元し、地域連携の推進に努める。

ア) 在学生対象の教育事業(学芸員資格課程における博物館館務実習、全学共通総合講座、商学部・商学研究科連携特別講義、バックヤード特別イベント)

イ) 博物館公開講座、入門講座等 ※リバティアカデミー講座として開講

ウ) 南山大学人類学博物館交流事業(講師の相互派遣による在学生対象特別講義)

エ) 職場体験等小中学生による学習活動への対応

### ③学生支援

学生広報アンバサダーの活動支援

### ④調査・研究活動

博物館の展示は、博物館における調査・研究活動の成果報告として開催される。2024年度は2025年度以降の常設展改修、特別展・企画展に向けて調査・研究を継続する。

ア) 各部門の収蔵資料にかかわる調査・研究

A 黒曜石遺物にかかわる研究

B 伝統的工芸品産業のマーケティング研究

C 譜代大名内藤家文書の研究

D 茨城県内古墳出土資料の研究(茨城県、文学部史学地理学科考古学専攻と共同)

E 前場幸治瓦コレクションの研究と活用

イ) 学内外の研究者・機関と連携した共同研究・教育事業の実施

A 文学部・文学研究科と共同で収蔵コレクションに関する調査・研究を実施し、在学生による古文書整理作業への指導・助言をおこなう。

B 収蔵資料原所在地の資料保存機関、企業等諸団体の調査を通じて収集した関連情報を研究、展示、公開講座などのリソースとして蓄積する。

C 南山大学人類学博物館との学術シンポジムの開催

D 博物館所蔵毛利家旧蔵書と関係の深い科研究費研究「中近世毛利家における知的体系の復原的研究—明治大学図書館所蔵毛利家旧蔵書を起点に」(基盤研究(B)、代表文学部牧野淳司教授)の分担研究の推進

### ウ) 国際・国内学術交流

A 大英博物館所蔵ガウランド寄託資料関係の貸出運用、展示における活用及び研究の推進

B 日本博物館協会、日本考古学協会、日本旧石器学会、日本第四紀学会、考古学研究会、その他

### ⑤社会貢献及び社会連携

ア) 博物館友の会への支援

友の会活動や博物館ボランティアは、2022年4月の博物館法改正に伴い盛り込まれた、地域の多様な主体との連携・協力の促進策に位置付けられる。日頃から館運営にあたって協力関係(各種ボランティア活動等)にある博物館友の会の活動を支援する。

A 各種講演会・講座の運営支援・共同開催

B 博物館友の会によるボランティア活動の受け入れ

C 学習サークルの運営に対する場の提供、指導・助言

D 現地研修会等への学芸員の講師派遣

E 定期的な連絡会議の開催

イ) 地域連携

A 長野県長和町との黒曜石研究に関する連携事業の実施

B 茨城県との古墳出土資料整理・報告書刊行に関する連携事業の実施

C 佐賀県伊万里市教育委員会による鈴桶遺跡保存活用への協力

D 佐賀県多久市教育委員会による多久三年山遺跡保存活用への協力

E 宮崎県延岡市への内藤家文書活用支援及び『延岡市史』編纂事業への協力

F 福島県いわき市への内藤家文書活用支援

G 都内の文化財公開事業「東京文化財ウィーク」への参画

H 千代田区・中央区「江戸アートエキスポ」への参画

ウ) ホームカミングデーや父母交流会などでのイベントの開催

エ) 明治大学デジタルアーカイブの利用促進及びコンテンツ拡充

### ⑤情報発信

過年度事業について、出版掲載利用・入館者動向・



各種委員会・施設概要・規程類等と合わせ『博物館年報』を年次刊行し、ホームページ上で公開する。報誌やFacebook等のSNS、ミュージアム・ショップ、博物館・学会等とのネットワークを活用して展覧会や講演会等の当該年度事業の広報に努め、来館者増に結びつける。

ア) 『博物館年報2023年度』※ホームページ上で公開する。

イ) 『ミュージアム アイズ』の発行(企画展に合わせて発行)

ウ) 『展覧会案内2024』

## ⑥資料収集と整理・保存・利活用促進

刑事・考古・商品の三部門の専門性に応じ、特色ある博物館コレクションの構築を進める。刑事部門では、法制史関連資料、収蔵する古文書(内藤家文書・地方文書)・絵図・古地図類の関連資料、考古部門では、黒曜石研究、東アジア青銅器、化石人類の関連資料、商品部門では、伝統的工芸品産業関連資料を収集の基本方針とする。また、寄贈資料の受入れも、収蔵資料としての適性を評価しつつ積極的に推進する。

ア) 収蔵資料の購入・受贈と資産登録、収蔵配架

イ) 図書(文献資料・博物館図書室に排架)の充実

A 博物館新収図書の選書 ※購入及び資産登録の主管は図書館

B 蔵書点検の実施

ウ) 収蔵資料の整理と修復

A 収蔵資料の再整理(考古資料、古文書資料、研究者旧蔵の学術資料)

B マイクロフィルム等2次資料の構築と整理

C 絵図・古文書等の補修

D 金属器の錆・腐損対策処置

E 記念館前遺跡出土漆器・木器の修復・保存処理

エ) 収蔵資料の利活用促進

A 資料の写真撮影及びデジタルデータ変換

B 閲覧調査受入れと古文書資料マイクロフィルムのプリントサービス(有償)

C 外部機関主催展覧会への収蔵資料貸出

D 収蔵資料写真の掲載利用受け付け

ホームページやSNS、明治大学博物館ONLINEミュージアムのデータベース公開を通じて収蔵資料情報の発信を活発化させ、有償利用の促進を図る。

## ⑦収蔵スペースの確保

多量の資料を受贈してきたことから、収蔵室の収容能力が限界に近い。200平方メートル程度の新たな収蔵スペースの確保に向けて検討・交渉を継続する。

## ⑧明治大学ミュージアム「文化発信」資金の運用

全ての人々に等しく教育の門戸を開く場として、一層の充実を図るためには、学内予算だけでなく、積極的に外部資金を獲得することが必要である。博物館、大学史資料センター及び阿久悠記念館の展示施設を「ミュージアム」と称し、積極的な寄付の呼びかけを行い、各事業の助成を実施する。

## ⑨登録博物館申請に関する調査及び準備

現在、博物館は東京都の審査を経て「博物館相当施設」となっているが、2022年の博物館法改正により、「登録博物館」への申請が可能となった。申請要件についての調査を行い、2027年までの登録を目指す。



## 7. 明治大学博物館のあゆみ

|                |      |                                                                                                                                        |
|----------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1881 (明治 14) 年 | 1 月  | 明治法律学校開校                                                                                                                               |
| 1929 (昭和 4) 年  | 4 月  | 刑事博物館を記念館 5 階に開設                                                                                                                       |
| 1931 (昭和 6) 年  |      | 大学創立 50 周年記念刑事展覧会開催                                                                                                                    |
| 1933 (昭和 8) 年  | 9 月  | 刑事博物館初代館長に大谷美隆法学部教授が就任<br>『刑事博物図録』を刊行<br>(第 2 次世界大戦)                                                                                   |
| 1949 (昭和 24) 年 |      | 新制大学へ移行                                                                                                                                |
| 1951 (昭和 26) 年 | 4 月  | 刑事博物館の運営を再開 館長に島田正郎法学部教授(後、明治大学総長)林久吉商<br>学部教授(初代商品陳列館長)らの商品研究所が資料室を開設                                                                 |
| 1952 (昭和 27) 年 |      | 考古学陳列館が 2 号館 4 階に開館 初代館長に後藤守一文学部教授が就任                                                                                                  |
| 1954 (昭和 29) 年 | 4 月  | 刑事博物館が 2 号館 4 階へ移転 6 月に一般公開開始                                                                                                          |
| 1955 (昭和 30) 年 | 2 月  | 刑事博物館が博物館相当施設に指定される(2004 年 3 月廃館にともない指定解除)                                                                                             |
| 1957 (昭和 32) 年 | 5 月  | 商品陳列館が 2 号館 4 階に開館<br>(この頃には 3 館とも一般公開 3 館共通の入館案内を作成)                                                                                  |
| 1960 (昭和 35) 年 |      | 考古学陳列館長に杉原莊介文学部教授が就任                                                                                                                   |
| 1963 (昭和 38) 年 |      | 譜代大名内藤家文書を和泉校舎図書館に収蔵後、刑事博物館に移管                                                                                                         |
| 1966 (昭和 41) 年 | 4 月  | 小川町校舎へ移転(考古 2 階・刑事 3 階・商品 4 階)商品陳列館長に三谷茂商学部教授<br>が就任<br>(大学紛争)                                                                         |
| 1976 (昭和 51) 年 | 4 月  | 刑事博物館長に鍋田一法学部教授が就任                                                                                                                     |
| 1977 (昭和 52) 年 | 4 月  | 商品陳列館が一般公開再開 同館「講演と映画の会」開催(年 1 回～2003)                                                                                                 |
| 1981 (昭和 56) 年 |      | 1 号館(刑事 1 階・考古 3 階)、11 号館(商品 4 階)へ仮移転 商品陳列館長に刀根<br>武晴商学部教授が就任                                                                          |
| 1983 (昭和 58) 年 | 9 月  | 考古学陳列館長に大塚初重文学部教授が就任                                                                                                                   |
| 1985 (昭和 60) 年 | 11 月 | 3 館大学会館へ移転(刑事・商品 3 階・考古 4 階)「考古学博物館」に名称変更                                                                                              |
| 1987 (昭和 62) 年 | 5 月  | 公開講座「考古学ゼミナール」開講                                                                                                                       |
| 1988 (昭和 63) 年 | 6 月  | 考古学博物館友の会結成                                                                                                                            |
| 1991 (平成 3) 年  | 4 月  | 3 博物館の事務所管部署一元化のため博物館事務室設置                                                                                                             |
|                | 10 月 | 「明治大学博物館規程」制定                                                                                                                          |
| 1995 (平成 7) 年  | 4 月  | 考古学博物館長に戸沢充則文学部教授が就任 刑事博物館長に川端博法学部教授が<br>就任                                                                                            |
|                | 10 月 | 博物館入門講座を開講                                                                                                                             |
| 1997 (平成 9) 年  | 4 月  | 刑事博物館にて「ヨーロッパ拷問展」開催(～12 月)                                                                                                             |
| 2001 (平成 13) 年 | 4 月  | 刑事博物館が文部科学省「親しむ博物館づくり事業」受託                                                                                                             |
| 2002 (平成 14) 年 | 4 月  | 商品博物館に名称変更 商品博物館長に澤内隆志商学部教授が就任                                                                                                         |
| 2004 (平成 16) 年 | 4 月  | 「明治大学博物館」アカデミーコモン地階に開館 博物館長に小嶋尚文学部教授が<br>就任、 「明治大学博物館規程」改正施行(刑事博物館・商品博物館・考古学博物館<br>を統合)、国外から資料を借用しての特別展「韓国スヤンゲ遺跡と日本の旧石器時代」<br>開催(～5 月) |
|                | 10 月 | 文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託(～2005 年 3 月)                                                                                                      |
| 2006 (平成 18) 年 | 4 月  | 博物館長に杉原重夫文学部教授が就任                                                                                                                      |
|                | 8 月  | 文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託(～2007 年 3 月)                                                                                                      |
|                | 10 月 | 特別展「掘り出された子どもの歴史」にて国指定重要文化財を借用・展示                                                                                                      |
| 2007 (平成 19) 年 | 11 月 | 明治大学黒耀石研究センターが博物館分館となる(～2010 年 3 月)                                                                                                    |
| 2009 (平成 21) 年 | 10 月 | 事務所管部署が学術・社会連携部社会連携事務室となる                                                                                                              |
| 2010 (平成 22) 年 | 4 月  | 事務所管部署が学術・社会連携部博物館事務室となる<br>巡回特別展「海のシルクロードの出発点「福建」」展開催 中国国家一級文物を展示<br>(～5 月)                                                           |
| 2012 (平成 24) 年 | 3 月  | 南山大学人類学博物館と交流協定締結                                                                                                                      |
|                | 4 月  | 博物館長に風間信隆商学部教授が就任                                                                                                                      |
| 2013 (平成 25) 年 | 2 月  | ギリチンとニュルンベルクの鉄の処女が名古屋へ 南山大学人類学博物館・名古屋<br>市博物館との合同特別展「驚きの博物館コレクション展」開催(～3 月)                                                            |
|                | 3 月  | 南山大学人類学博物館との合同シンポジウム成果刊行物『博物館資料の再生—自明<br>性への問いとコレクションの文化資源化—』を岩田書院から刊行                                                                 |

|              |      |                                                                                                    |
|--------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2014（平成 26）年 | 7 月  | 岩宿遺跡出土石器（重文・29 点）他記録類をはじめて海外へ出展（～9 月）、韓国公州市石壮里博物館・群馬県岩宿博物館と共催で「日本旧石器の始まり“岩宿”」展開催（～2014 年 2 月）      |
|              | 5 月  | 開館 10 年を記念して、これまでの来歴を検証し将来を展望した「明大博物館クロニクル」開催（～6 月）                                                |
|              | 7 月  | 大船渡市と明治大学が結んだ震災復興支援の協定にもとづき、明治大学博物館のコレクションを紹介した「明治大学コレクションの世界：氷河期から昭和まで」を大船渡市立博物館で開催（～8 月）         |
| 2016（平成 28）年 | 3 月  | 常設展示を改修し新装オープン、東京都教育庁から博物館相当施設に指定される                                                               |
| 2017（平成 29）年 | 4 月  | 博物館長に村上一博法学部教授が就任                                                                                  |
|              | 4 月  | 明治大学博物館規程の一部改正が承認され、博物館協議会を博物館運営委員会に改組                                                             |
| 2018（平成 30）年 | 3 月  | 年度の入館・利用者数が初めて 10 万人を超える                                                                           |
|              | 4 月  | 博物館長に井上崇通商学部教授が就任                                                                                  |
|              | 8 月  | 2004 年の開館以来の入館・利用者数が 100 万人を超える                                                                    |
|              | 10 月 | 大英博物館所蔵資料を借用・展示した特別展「ウィリアム・ガウランドと日本の古墳研究」開催（～12 月）                                                 |
| 2019（令和 1）年  | 9 月  | 特別展「見えているのに見えていない！立体錯視の最前線」が入場者 2 万人を超える                                                           |
| 2020（令和 2）年  | 2 月  | 年度の入館・利用者数が初めて 11 万人を超える                                                                           |
|              | 3 月  | 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（～10 月）                                                                     |
|              | 4 月  | 博物館長に千葉修身商学部教授が就任                                                                                  |
|              | 10 月 | 新型コロナウイルス感染症による行動制限下で特別展「氷河期の狩人は黒曜石の山をめざすー明治大学の黒曜石考古学ー」を開催                                         |
| 2021（令和 3）年  | 7 月  | 大学史資料センターとの共同企画特別展として、明治大学創立 140 周年記念事業「校友山脈ー明治大学の教育と人材ー」と特別展校友山脈第Ⅱ部「明治大学×SDGs 神田学生街ー140 年の今と昔」を開催 |
|              | 10 月 | 特別展「新しいお殿様ー所替・その後」を開催                                                                              |
| 2022（令和 4）年  | 10 月 | 連続テレビ小説「虎に翼」展（NHK 財団主催）、「女性法曹養成機関のパイオニアー明治大学法学部と女子部ー」展（明治大学大学史資料センター主催）を開催（～10 月）、入場者が 7 万人を超える。   |
| 2024（令和 6）年  | 3 月  | 常設展示室商品部門展示を刷新、新規オープン                                                                              |
|              | 4 月  | 博物館長に石川幹人情報コミュニケーション学部教授が就任                                                                        |
|              | 12 月 | 東京都教育庁に申請を行い、改正博物館法による登録博物館となる                                                                     |
|              | 3 月  | 常設展示室考古部門展示を刷新、新規オープン                                                                              |
| 2025（令和 7）年  |      | 年度の入館・利用者数が初めて約 16 万人に達する                                                                          |

伝統的工芸品の経営とマーケティング Vol.16

## VIII 経営環境の変化に適応する —信楽焼窯元経営の軌跡—

「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト推進部会



ゲスト

西尾照幸氏 株式会社卯山製陶代表取締役

パネリスト

菊池一夫 明治大学商学部教授

上原義子 明治大学商学部兼任講師  
高千穂大学商学部准教授

進 行

外山 徹 明治大学博物館学芸員

**進行** 皆さんもスターバックスコーヒーはよくご存じだと思います。スターバックスコーヒーは店舗の周辺にある手づくりの工芸品でコーヒーを味わう器を作る『JIMOTO Made』というオリジナル商品のシリーズを展開しています。その中で、滋賀県で信楽焼のマグカップを作っているのが、こちらの西尾さんの会社ということになります。最初に、このマグカップ製造に関するエピソードから、どのようなきっかけで作り始めたかなど、ご紹介いただければと思います。

**西尾** 『JIMOTO Made』のマグカップを作る前、2015年にクリスマス用の企画でスターバックスのロゴが入った（飾り用の）ビッグマグを、それまでは中国で作っていたようですが、国内で生産できないということになり、大きいものを作るのは信楽焼だということから、信楽の間屋に問い合わせがあ

りました。どこかこういうものを作れる所はないかということで、その間屋から声を掛けていただいた。それがスターバックスコーヒーとの付き合いのきっかけです。

その数年後に『JIMOTO Made』の企画があり、滋賀県でどこか何かないですか、という関西方面の店長会議があったようです。そこで、滋賀県の甲賀水口支店の店長さんが手を挙げてくださり、近くに信楽焼があるのでマグカップを作れるのではないかとということで実現しました。ビッグマグを製作して信頼関係ができているし、スターバックスコーヒーの想いというのが分かっているだろうから、卯山製陶に頼もうということになり、「たぬきマグ」と言うのですが、製造が始まりました。

**進行** ひと昔前ですと、こういう品物というのは記念品として配るため大量に、また安価に作るという形だったのですが、現在、スターバックスコーヒーが行っているのは質のよいものを少ない数を作ってなおかつ一つの店舗でしか販売しないという、限定プレミアム商品という形に変わってきているのも、やはり時代の変化なのかと感じるところです。今日のテーマは、経営環境がバブル景気とその崩壊を経て、今日に至る過程でどう変わってきたか。それに西尾さんの会社、ひいては信楽焼がどう対応してきたか、先生方との一問一答形式で進めてゆきたいと思います。

**上原** まず、いわゆる事業承継ということが現在難しくなっていることを踏まえ、かつてどのような経緯で西尾さんが家業を継がれたのかという点から伺いたいと思います。これまでの調査研究の中で出会った作家や職人の方々からは、いろいろ大変だから自分の仕事を子どもには継がせたくないという意見もそれなりにありました。そうした中で西尾さんは家業を継がれた。どのような経緯で継がれたのか伺ってもよろしいですか。



**西尾** 私のところにも子どもがいますが、おっしゃる通り大変なので継がせるかどうかというのはあります。私はひと昔前の人間なので、当時、やはり地方の陶器屋の長男というのは跡を継がなければいけないと、祖父や祖母などに言われてそう思っていたのですが、大学に入り、どうしてもいろいろな世界を見てみたいということから、一度は違うところに就職しました。

就職した先は、陶器と関係があるようでないのですが、アメリカの Knoll というメーカーの家具を扱う会社です。その頃は、非常に景気もよいバブル経済の頃でした。Knoll の家具というのは非常に高価な家具です。建築をやっておられる方だったら皆さんご存じという家具で、いろいろな物を自分で見たり、感じたり、またアメリカの会社ですので、海外にも足を運んで、いろいろな所を見にゆく経験をさせていただきました。

家具は手づくり…、機械を使う部分もあるのですが、そこで物の美しさ、モノづくりということの素晴らしさを体感して、自分のところもモノづくりをしているのではないかと、信楽に帰ってもいいのではないかと感じて帰りました。

**上原** 西尾さんが継がれた頃は、バブル景気は崩壊した後ですか？

**西尾** 崩壊する寸前でしたが、信楽もまだ「いけいけ」という感じでした。

**上原** ちなみに、バブル景気というのはどのような感覚だったのですか。

**西尾** 私が勤めたのはアメリカの会社なので、当時はアメリカの証券会社などの企業が日本にたくさん入って来た時に家具を納入したり、新しい建築物もたくさん建ったので、有名な建築家や設計事務所にプレゼンテーションをするなど、すごく少ない人数でたくさんの売り上げがありました。会社としても経費がたくさん使えて、社員も好きなことをさせてもらえた時代でした。私はそこでグラフィック関係の販促物を作っていたのですが、今では考えられないような予算で、いろいろな販促物を作らせてもらいました。

**上原** そういう状況から景気が一気に落ち込んだのがバブル崩壊ということですね。

若いうちにいろいろな経験をしておいて損はないし、視野を広げるということは大事です。その意味で、西尾さんも家業は信楽焼だけでも、家具の会社に勤めたことが役立っていることは、今の学生が将来を描く上で参考になると思います。では、バブル崩壊の後、2000 年代にかけて、産地ではどのよう

な動きがあったのか、お話をお願いします。

**西尾** 1990 年代からですが、和食器のブームがありました。西武百貨店が「ジャパנקリエイティブ」というブランドを企画して、全国の和食器産地にスポットを当てました。(取扱い商品としてそれまで)洋食器がメインであったものを和食器に転換させて、ブームをつくるような動きがあり、信楽でも作りましたが、食器を作っていたメーカーはそれで潤いました。それまで(バブル景気崩壊以降)は景気があまり良くなかったのですが、そこで潤ってから食器をいろいろ手がけるようになりました。

しかし、やはり信楽というのは火鉢のような大きな物が得意な産地であって、食器メーカーというのは比較的少なかったんです。生活雑器の中の大きい物については、私が信楽に帰った頃というのは、これどうなっているんだとまず思いました。東京で仕事をしてきて、商品開発の進め方、商品の作り方というものを見てきた者が信楽に帰ってみると、原始的というか、明治から昭和初期のことは直接知らないですが、全然そこから進化していないのではないかとモノづくりの仕方をしていたので、これではいけないというのが、まず一番初めに感じたことでした。

ジャパנקリエイティブが新しい商品の作り方、手法というのを信楽に導入してくれて、食器はそれでよかったのですが、信楽が得意とする大物陶器というのが、なかなか新しい商品の作り方、プレゼンテーションの仕方というのができていなかった。それを何とかしたいという想いがありました。それで、何年かモヤモヤしながら仕事をしていたのですが、信楽焼の工業組合の中にはいろいろな部会があって、青年部会という比較的若い人が集まる会がありました。そこに中小企業団体中央会が補助金を出すから、一回、何か新しいことに取り組んでみないかというお話をいただきました。ちょうどその時、私は青年部会の役付をしていたので、部員が 30 名か 40 名いましたが、いろいろな人と話し合いながら、新しいことに対するチャレンジ精神があったり、その想いのベクトルを同じくしている人の何人かで、新しい商品開発や勉強会をしてゆくことになりました。それが 2003 年です。

そこで、自分たちだけでは何もできないので、こうしたことに長けているインテリアデザイナーを頼もうという話になりました。年配の人ではなくできるだけ若い人、一緒に勉強し合えるようなデザイナーはいないかということで、大阪の岩本勝也さんというデザイナー、今は店舗デザインなどを東京でし

ておられますが、その若くセンスのあるデザイナーさんと一緒に「SHIN-RA」という会をつくりました。どのように商品を提案すればよいか分からないので、まずは「スタイルブック」<sup>1</sup>というものを作りました。これは、デザイナーがすべてデザインするのではなくて、メンバーには自分たちの想いを文章に書いてもらったり、自分たちでモノの形を考え、デザインし、また、自分の想いだけではなくて、商品開発などの手法を勉強しながら検討を重ね、各メーカーが自分の想いで作った商品を掲載したスタイルブックです。

これを作っただけでは何にもならないので、翌年か翌々年に、メンバーの一人が松屋銀座の山田節子さんと面識があり、山田さんを通して、今はなくなりましたが、西麻布の「ギャラリーMITATE」で展示会をさせていただきました。2年続けてしたのですが、そこでお客さんと話したり、また業界の人と話したり、先生方からは結構きつい言葉をいただいて、帰って勉強してブラッシュアップして、次の展開に進めていくということを何年か繰り返しました。ドロップアウトしていくメンバーも何社かあったのですが、私のところと丸滋製陶さんと、壺新さんの3社が残り、その後も毎月勉強会をしたり、信楽焼をどうしていったらよいかを話し合いました。

その後は、TEIBAN 信楽という会をつくって（2010年）、やはり自社のブランディングを考えなければいけないという話になってきて、そのための勉強として「TEIBAN展」という展示会を始めました。だから、信楽焼の青年部会から「SHIN-RA」ができて、「TEIBAN展」までという流れで来ているわけです。「TEIBAN展」は今も続いており、毎年1回、1月末か2月に新宿のリビングセンターOZONEの1階で、奈良県と三重県と合同で開催しています。そこで、自分の想いをお客さんにぶつけ、共感を得て、ファンづくりをしようという試みをしています。

**上原** デザイナーのお話が出ましたが、デザイナーがデザインしたものをトップダウンで作るのではなく、自分たちが考えたことをデザイナーに伝えて、それをデザイナーがまとめてくれるということですか。

**西尾** プロダクトの方には（デザイナーは）関わっていないです。（スタイルブックの）ビジュアル的なものを作るのは、私たちは得意ではないので、そちらをメインにさせていただきました。案外、自分たちでデザインできるメーカーが多く、ほとんど自分たちで行いましたが、ここをこうしたらどうか？ ああしたらいいのではないかと？ というアドバイスを

デザイナーからいただきながらでした。

**上原** 以前、学会で「伴走支援」ということについて発表された方がいて、つまり、中小企業診断士などがこうしなさいと指示するのではなく、対話を通して本人たちも腹落ちできるようにするスタイルが大事だと言われていました。今のお話を聞いて、上から言われてモノを作るというのは昔のスタイルなんだと感じました。昭和どころか、明治の頃から変わっていない、進化していないとおっしゃっていましたが、どうしてだと考えますか？

**西尾** 原因がどこにあるかはよく分かりませんが、信楽というのは商売の流れとして、メーカーの上に問屋があるという縦社会があり、メーカーが表に立って外に出ていくことがなかったのが一番の原因ではないかと思います。

**上原** うがった見方をすると、メーカーを押さえ込むために情報を渡さなかったとも言えますね。

昔から今という変遷をお話しいただいていますが、その間の具体的な商品開発の推移について伺いたいと思います。卯山製陶のモノづくりがどのように変化してきたのか。例えば、大物づくりから食器生産に移ってきたのか、というような点を伺いたいと思います。

**西尾** うちが生産してきたものは、祖父の時代からなのでそれほど古くはないのですが、まず初めに火鉢が作られました。火鉢が燃料の変化によって、石油ストーブや電気ストーブに入れ替わったと同時に、植木鉢にシフトしました。その時期に、薪をくべる登り窯から石油を燃料にする重油窯に変わりました。やはり薪で焚く窯よりも、化石燃料を使う窯のほうが安定して物が作れます。良品率がよいということで窯を変えました。植木鉢を作り、さらに屋外用のエクステリア商品などを作り、また、大阪万博（1970年）前後になってくると、建築がたくさん出来上がって、その外壁を飾るレリーフタイルを作っています。いろいろなアーティストの絵を陶器の板で表現します。1960年代後半から1970年代にかけてと思いますが、ブームがあって信楽ではレリーフタイルが盛んに作られました。

その後、植木鉢というのは、陶器製品よりプラスチックのほうが割れない云々で扱いやすいということからだんだんと衰退します。それでは何か別ないいものがないかということから、滋賀県の信楽窯業技術試験場の協力で、いろいろ市場調査なりをして、1970年代中頃ぐらいかと思いますが、傘立てを作り始めました。なぜ傘立てがよいかというと、それまでは木や鉄の傘立てが使われていたのですが、陶器



は腐らない。ある程度、重さもあるので倒れない。水に濡れたものを入れるのに適した素材ということで傘立てが出来ました。これは大きい物を作っている信楽のメーカーにとって最大のヒット商品となり現在も作っています。

しかし、小さなメーカーからこれは売れるという商品が出てくると、大手のメーカーが同じように型を作って安く大量に作ります。本来なら息長く続く商品が、短命になって早く死んでしまう。傘立てが特にそうです。だから、値段が昔と変わらないのです。最近は少し上がりましたが、何十年と上代（＝小売価格）が同じでした。大手が安いものを出すので、小さなメーカーも値段を合わせなければなりません。信楽にとっては非常にいい商品だし、便利な商品ですが、（作るには）大変厳しい商品です。しかしこれは信楽にはなくてはならない商品なので今も作っています。

その価格競争で大変になっている頃に私が帰ってきて仕事を始めたのですが、花瓶や食器の生産も少しずつ始めました。花入れというのは昔からあったのですが、よくある丸花瓶ではなく創作的な花瓶を作ったらどうかと、ちょっと（デザインに）手を入れたものを作りました。傘立てもちょっと手を入れて、少し違う感じにしていきました。それから少し経って、やきものとは何だろうか自分自身に問いかけると、やはり器を作らなければいけないのではないかという想いがある食器を作ろうとなりました。ちょうどその頃、よい職人がうちの会社に入ってくれたので、一緒に食器を作り始めました。ただ単に作っても仕方がないので、使いやすい食器を作りたいということから、ちょっとデザインし、手を加えた食器作りを始めました。

**菊池** 私は小売業のマーケティングを研究していますので、その観点から流通・販売についてお話をお聞かせいただければと思います。従来、伝統工芸品というのは、産地のメーカーがあつて、産地問屋があつて、消費地問屋があつて、そして百貨店や専門店で商品が流れていって、最終消費者へ商品が渡るという仕組みがあつたのですが、百貨店などの力がだんだん弱くなってくると同時に、SNSをはじめインターネットを活用する動きが出てきました。メーカーというのは、これまで問屋や百貨店を通じないと消費者とつながることができなかったわけですが、SNSであつたりネット通販が出てくると、消費者と直接結び付くことができると思います。御社の場合はそうした点でどのような取り組みをされているかお聞かせください。

**西尾** うちの場合はまだ問屋を経由した商品があります。それはなぜかというと、傘立てなど大きい物は、なかなか消費者と直にやりとりするのが難しい商材なので、どうしても問屋経由が多いです。しかし、食器は消費地のお店とも直接取引をしますし、そればかりではなく B to C として、直接一般の消費者に販売もしています。もう十数年前ですが、商品を見てもらえるように工場の一画にショールームを作りました。そこに来る一般のお客さんにも商品を購入いただけるようになり、一般のお客さんと同じようになったのはそれからですね。

**菊池** ショールームをすることによって、直接、お客さんが来られて、販売の際の会話を通して得られることは、経営上の、例えば価格設定や商品開発に生かすということがあるのでしょうか。

**西尾** お客さんとそこで直接会話させていただくことが、商品開発に一番つながります。価格設定もやはりお客さんの反応を見て、それが高いのか安いのか分かるし、ここでは（問屋との交渉ではなく）自分の好きなように、これくらいだろうと大体の値付けをしています。問屋が来れば、これの何掛けですと、自分が主体で上代（＝小売価格）をセットできるんです。自分で商品の価格が決められるのと、お客さんからいろいろな情報を得られるのが良かったです。

**菊池** 大物の場合は問屋を通して、食器などの小さな物は直接売る傾向となっているということですが、問屋へ卸すのと、自社で売のを分けているのはその違いだけですか。

**西尾** 販路はいろいろ分かれます。自社のショールームで売っているものは、問屋へは卸していません。問屋に卸すものも、全ての問屋に扱ってもらって結構ですよという商品もありますし、その問屋のオリジナル商品ということで作っているものは他の問屋には卸しません。

**菊池** 先ほどおっしゃっていた新宿 OZONE の「TEIBAN 展」など、県のバックアップによるイベント販売などをされていますが、ポップアップストアなどの出張販売とショールームでの販売とでは、どのように重きを置かれてお客さんと接点をつくられているのでしょうか。

**西尾** 出張販売というのは、したいことはしたいのですが、そこに人手もかかるし時間もかかる。人数が多いメーカーならばそれも可能なのですが、私のところは少ない人数で作る仕事を中心にしているので、なかなかそこまでには至らないということになります。もう少し人がいて余裕があればそれもしな

ければいけないのかなとは思いますが、とりあえず工房を見ていただいて、お話をさせてもらって、うちの商品に共感いただいたら購入してもらえ。信楽に来てもらったお客さんを対象にファンづくりをしているのが、今のやり方です。できれば出ていくのもいいと思うのですが。

**菊池** できるなら出ていきたいけれども、東京まで来るのに交通費や宿泊費もかかるし、そういう元も取らなければいけません。工房のわずかな人数を割かなければいけないので、それで空いた時間は作業もできなくなるということから、それに見合うようなことになれば可能だけれども、現状としては信楽に来ていただけるお客さんをターゲットにするということですね。

**西尾** そうですね。確かに「TEIBAN 展」は行くには行くのですが、あそこは、(一般の) 人がそんなにたくさん来てくれないので、(販売して利益を上げるというよりは) 自分たちの勉強のために、自分たちを見直すために展示をして、これでいいのか、いけないのかということが分かるので、そのためにを行っています。

**菊池** 御社の場合、インターネット通販は事業としてどのように位置付けられていますか。

**西尾** ホームページに少しは載せているのですが、そこにはまだ重点を置いていなくて、自分たちの(流通経路として) 先の方が、インターネットで販売されているので、来ていただいてお話をし、想っておられることが自分と方向性が一緒だなと思えばそこをお願いしています。この人はだめだなと思ったら、お断りするような形でインターネット販売には対応しています。

**菊池** 自社のサイトは顧客に対する情報の接点という形で、それを見ていただいて信楽に来てショールームでお話をしという…。

**西尾** そうというのが一番です。

**菊池** 先ほど価格のお話も出ていましたが、大手の強い業者に合わせて価格を設定せざるをえないということでした。物価高になって人手不足、エネルギーの値段も上がっている状況の中で、価格設定にはどのように取り組まれていらっしゃるのでしょうか。

**西尾** 確かに現在は物価高なので、多少価格に転嫁させて値段を上げています。しかし、値段というのは本当にちょっとの違いで変わってくるので、問屋とは値段をここに収めてくれないかという話をします。問屋も先の流通があるので、どうしてもこの値段でないと売れないとなれば、出すとすればこれ何十個、何百個頼むからこの値段まで落とせないか、

というような話が出てきますね。

**菊池** 問屋経由で商品を卸すだけではなく、ショールームやネット通販での直売が出てきて、今のようには販売チャンネルが多様化していくと、価格設定にはどのような影響が及んでくるのでしょうか。それぞれ(チャンネルによって) 違うということですか。

**西尾** 以前は新しい商品、傘立てや植木鉢など、新しいアイテムを作った場合は、とりあえずメーカーが価格設定をしていたようです。そこに問屋の掛け率がいくらですという形で下代(小売商の仕入れ価格) まで決まっていたのですが、いつの間にか問屋への卸し値だけがメーカーが出せる金額になって、メーカーは上代(=小売価格) までは設定できないようになりました<sup>2</sup>。ところが、最近流通が変わってきてポップアップストアやイベント販売に行っている場合は自分で上代を決めています。そして、(その商品を) 問屋に卸す時はこれだけの掛け率ですよという感じで卸すことが、だんだん増えてきたのではないかと思います。

**菊池** ポップアップストアのイベントなどの時はご自身で決められますか。

**西尾** それは皆さん自分で決めます。特に自分から表に出て行っているメーカーは、そうやってきています。

**菊池** かつては問屋が流通を支配していたけれど、最近はメーカーがある程度流通に関与できるようになってきたということですか。ということは、問屋と交渉する価格は取引コストになりますが、ショールームがあれば、自分で決められるということで価格の最良点がある。直売になると自分で決められるし、そうではないと問屋との交渉になってしまうということですね。

**西尾** それはあります。

**菊池** それでは、話題を変えまして、信楽という少し前にNHKの連続テレビ小説『スカーレット』が放映されていましたが、窯元巡りのコースなども整備され、産地に来訪する方が増えていると思います。その対応というのはいかがでしょうか。

**西尾** ちょうどうちの工房の隣の会社で信楽ロケがありました。その時はやきものに興味があるわけではなく、ドラマに興味のある人がたくさん来ました。しかし、ショールームがあるので、そこでやきものを見たり、触れたり、ドラマの中でも主人公が作陶をしていましたので、そこからやきもののファンになった方もたくさんおられました。あまり興味なかった人が、やきもののファンになってくれたのが非常に効果的だったと思います。

**菊池** そうすると、ショールームで実際に見てもらって、西尾さんの考え方や、商品への想いを聞くと、先ほど共感という言葉もありましたが、買っていただけの確率が高まるわけですか。

**西尾** 高まりますね。そうなる。

**菊池** 上原先生はどうですか。ショールームに行かれたと思いますけれども。

**上原** すごく素敵で、レジの対応をされていたのは奥さまですか。

**西尾** そうです。

**上原** お店の雰囲気は、奥さまが考えられたのですか。

**西尾** 部屋の雰囲気は私が考えて、商品を並べ替えたりするのは家内です。

**菊池** 信楽に行くところというショールームがすごくおしゃれなので、職人の方というとモノづくりに専念されていると思うかもしれませんが、販売のところでもデザインや雰囲気を大事にされていらっしゃるの、ぜひ会場の皆さんも立ち寄っていただければと思います。

**外山** 人材育成と将来展望について質問したいと思います。冒頭で事業承継についてお話しいただきましたが、従業員はどういった方が、どのように雇用されているのかご説明いただけますか。

**西尾** うちの従業員は年齢も高いのですが、あまり人を採らなくなり少なくなっていることがあり、今のところは人が足りません。もうあと1人、2人いたほうが仕事は回るのですが、陶芸関係、芸術関係の大学、デザインだったり工芸を専攻した人が主に来ています。それから、滋賀県の窯業技術試験場や、京都の訓練校など陶器の勉強をする施設があります。そこからやきものの勉強をしがてら、信楽で就職する方が多いです。そうした方々は、平日の昼間はメーカーで仕事をしながら、仕事が終わってから自分のモノづくりをして、作家活動をしている人が多いです。うちの場合もそうです。

**外山** 働きながら自分の技術を磨いて、ゆくゆくは独立をされるということですね。

先ほど傘立てを窯業技術試験場との提携で製造したというお話がありましたが、試験場との関わりでいろいろな研究会があります。2000年代初頭の『SHIN-RA』とそれに続くTEIBAN信楽の後、近年になって西尾さんが係わって開発された商品の動向をご紹介いただければと思います。ショールームで特に印象的なのが天井から下がっている照明ですが。

**西尾** 天井から下がっているペンダント照明ですが全てやきものです。私が若い頃に、陶器で照明器具

を作るのは無理だと、ある照明器具メーカーのショールームを訪れた時に言われました。それからずっと想いがあって、出来ないものかという話を試験場の人としていたのですが、2009年に川澄一司さんという技術者が新しい素材を開発してくれました。本来、陶器というのは光を透しません。透光性磁器というものがあって、磁器は光を透過することができます。信楽透器というのは、茶碗や傘立て、たぬきの置き物と同じ窯で、同じ温度帯で焼けるという特殊な土で、光の透過率は透光性磁器よりも高いという素材です。これを使わせていただき、全てロクロ挽きの手づくりで照明器具を作っています。

**外山** これを応用して、同じ信楽透器という名前で食器を作っておられますね。

**西尾** これは色が柔らかい感じの白なんです。冷たい白ではなく、温かい白として今までの日本のやきものの器にはなかった色なので、これで器を作ったらどうなるかと、素材ができてすぐ器作りにも取りかかりました。ヨーロッパの展示会に持って行っていただいたり、評判の良かった商品です。デザイナーの方ともこれで商品を作りたいと話合ったり、これからずっと展開していきたい素材です。

**外山** ここまでくると、薪で焚いていた昔の信楽焼からはだいぶイメージが変わってきたと思うのですが、信楽の伝統という意味ではどうなのでしょう。

**西尾** 昔の信楽焼からは程遠いですが、ある人が伝統とは革新の連続であるということを言っておられます。これも革新です。それが連続して新しい伝統が生まれてきて、伝統工芸というのが存続していくのではないかと思います。

**外山** 信楽透器以外では、今、実際にお作りになっているものについてはどうでしょう。

**西尾** 普通に作っているものは、昔と何も変わらない粘土、釉薬を使って作っていますが、できるだけむだを省くような形を作ろうとか、窯での焼き方を変えて、形状もできるだけ現代の感覚に合うような雰囲気のものを作ろうと進めています。

**外山** 先ほどのスターバックスコーヒーのマグカップも、昔からの技術をアレンジしたもので、信楽のカラーが受け継がれていることになるわけですね。

それでは、最後のまとめに入りたいと思います。バブル景気崩壊の後、1990年代からのいろいろな変化を見てきたわけですが、先ほどは信楽焼の伝統云々という話もしました。姿・形こそ変わってきているのですが、昔からのものをちょっとなんぞアレンジして、ショールームでの会話などを通してその時代のお客さんの趣向を反映させ、作り続けていると

いうことでした。そろそろ西尾さんも、これからご自身の人生として集大成の時期に差しかかってくると思うのですが、この先、信楽焼の伝統というものを意識しながら、どのようなモノづくりを構想されているか、お聞かせいただけますでしょうか。

**西尾** やきものというのは、多分、一生やっていくのではないかと思います。もう何年生きられるかわかりませんが、自分があと何をやりたいのか。やはりお客さんありきで、今まではお客さんが何を求めているのか、どういうものが欲しいのかを考えながらモノづくりをしてきました。それも続けつつですが、これからはまた少し方向性を変えながら、自分の想いというものを、もっとモノに込めて伝えていきたいなと思います。それが例えば薪窯になるかわからないし、ガス窯でやるものかわからないですが、もっと自分の想いというのを形、物、ストーリーを作って表現していきたい、やきもので表現していきたい。そこに、共感という言葉をよく使いますが、共感を得た人と一緒に新しい信楽焼を作っていきたいと思います。

## 注

- 1：信楽焼を使用した空間デザインを例示した写真集。
- 2：メーカーによる価格拘束は独占禁止法により禁止されているが、希望小売価格の提示という形で、実質的にメーカーが小売上代に関与する余地は残されている。

討論は、2024年12月5日、商学部「商品学B」「商業経営論B」、商学研究科「商業経営論特論B」「商品学特論B」の公開特別講義として実施された。本講義録では、文体を整えるため、発言の意図を変えない程度に当日の録音記録を手直ししている。なお、文頭に掲げた肩書は開催時のものである。



## IX 1957～65 年収集の館蔵観光土産文化 資料について

戸 部 瑛 理

### はじめに

2024 年、秋田県の大館工芸社が半世紀前に製造を終了した商品「お杉わらべ」<sup>1</sup>を復刻したという報道があった。「お杉わらべ」は、藁帽子（雪帽子）をかぶった子どもの姿を模した秋田杉製の置物である。1959 年に創業した大館工芸社は、1962 年ごろから 1970 年代まで、「お杉わらべ」を秋田県内のほか国内温泉地など全国的に卸していた。

明治大学博物館商品部門の前身である「商品陳列館」は、1950 年代後半から地方物産品収集を開始した。成果には、こけしや土人形、張り子人形などの「郷土玩具」に加え、「お杉わらべ」のような地方の習俗を反映した手工芸品の人形や置物など観光土産も含まれる。それらを、1950 年代後半から 1960 年代の観光産業に影響を受けた特有の観光土産と捉え、「観光土産文化資料」と呼称して括ってみたい。本稿では、その目録と写真を掲載するとともに関連情報について記すことにする。

### 1. 明治大学博物館所蔵の「観光土産文化資料」について

1957 年から 1965 年に収集した「観光土産文化資料」の内、土産品として販売された経緯が具体的に判明しているものには、前述の「お杉わらべ」や「マリア人形」がある。それ以外の資料も、駅の売店、土産物店、各地の百貨店、物産協会などで購入されたもので、土産品に位置付けられる。例えば、スキー小屋を模した「スキーハウス」、福島県浜通り地方の伝統芸能「じゃんがら念仏踊」の様子を表した「平名物じゃんがら人形」などが挙げられる。これらは、土地の特性やスキーやスケートといったレジャー、文化行事を視覚的に明示している資料や、または特定の地名が表示されている資料である。

また、後述するが資料名に「こけし」が含まれる資料は、いわゆる郷土玩具としてのこけしと異なり、

昭和戦後の百貨店や観光地を販売場所に流通していた「こけし人形」に当てはまるだろう。これらの中には、モチーフの意味するところが今日では不明なものもあるが、何らか土地の特色を反映しているものと考えられる。

こうした「観光土産文化資料」の収集経緯を説明した具体的な記録が存在しないため、その意図は収蔵資料台帳の収集記録から推測するほかない。商品陳列館の前身である商学部商品研究所資料室は 1951 年に開室した。当初の収蔵資料は、商学部の教授らが収集した石油化学製品の原材料標本や、穀類やコーヒー豆などの貿易資料標本である。1956 年に会津漆器（福島県）のまとまった収集があった時期から、徐々に地方物産品収集の具体的品目として、現在経済産業大臣が指定する伝統的工芸品ないし、それに類する手工芸製品の収集資料が蓄積されていた様子が読み取れる。1957 年には、すでに収集の中心が日本各地の百貨店、物産館や名産店などで購入した陶磁器や漆器、ガラス製品や郷土玩具などに移行している。

地方物産品に着目した理由について、1950 年の文化財保護法の公布や、50 年代以降の民芸ブームの高まり<sup>2</sup>といった社会的動向が鑑みられるも、先述のように具体的には明らかになっていない。そうした中において「観光土産文化資料」は、工芸品の収集活動の最中に副次的に購入したものと推測できる。一例としては、1959 年に新潟県新潟市の大和百貨店新潟店で、「赤水焼無名異湯呑(めおと茶碗)」や「堆朱 菓子器」とともに、「雪人形」、「おけさ竹人形」、「スキーハウス」、「趣味のこけし」を購入している。また、長野県諏訪市の「清水屋名産店」では「尾林焼 本焼 湯呑」とともに、「郷土人形 スケート」や「郷土人形」を購入している。前者の例では「赤水焼無名異湯呑(めおと茶碗)」が 700 円、「堆朱 菓子器」が 1200 円に対して、「観光土産文化資料」は



安価であることから、収集の主眼はあくまでも陶磁器や漆器にあったことが窺える。

## 2. 「観光土産文化資料」研究について

観光土産は、観光学のほか民俗学や文化人類学などの研究の俎上に載っているが、現状において未だその歴史は浅いといえる。国内においては、神崎宣武が『おみやげ 贈答と旅の日本文化』（1997）を中心に、民俗学分野で成果を挙げている。神崎は、近世における土産品の社会的および文化的背景を記述しながら、土産品が贈答文化の中でどのように位置付けられてきたかを辿る。それに連なる研究として、鈴木勇一郎『おみやげと鉄道 名物で語る日本近代史』（2013）がある。鈴木は主に昭和戦前期を範囲として、鉄道の発展とともに成立した各地の名産品に焦点をあてる。一部高速道路や飛行機といった交通インフラの整備にも言及しており、食品を中心とした土産品と観光など産業の関係性から、名産品の成立背景を歴史的に読み解いている。また、橋本和也は『観光経験の人類学』（2011）において、現代の土産品は観光体験や観光の記憶などの「ものがたり」を思い出す装置だと位置付け、文化人類学の側面から調査結果を記している<sup>3</sup>。

「観光土産文化資料」との関連で注目しておきたいのは、これら先行研究の一部において、郷土玩具が多数紹介されている点である。神崎は、江戸時代から明治時代に創始した手工芸品の観光土産の具体例として、郷土玩具に数えられる西国三十三札所の大津絵、伏見稲荷の伏見人形や太宰府天満宮の鷺などを挙げている<sup>4</sup>。手工芸品は大きさが小さく食品と異なり腐らないため、持ち運びが容易な土産品として人々に受容されたとも述べる<sup>5</sup>。また、橋本は、社寺参詣の土産品として「民間信仰と強く結びついている郷土玩具」<sup>6</sup>が販売されていたことに触れている。これらの言及から、歴史的に郷土玩具は土産品として生産及び販売されてきたことが分かる。

郷土玩具は大正から昭和戦前にかけて地域の文化などを色濃く反映した所産として、『うなるの友』（1891-1924）の著者で、近世以降の玩具研究に資した清水清風（1851-1913）など、研究者や蒐集家の注目を集めた。郷土玩具という用語の定義は曖昧であり、蒐集家らの立場によって様々な見解がみられる。本稿では、郷土玩具の特徴を明確にするため、斎藤良輔編『郷土玩具辞典』（1971）をひとつの指標として参照した。

斎藤は、郷土玩具の特徴を以下のように述べる<sup>7</sup>。

- (1) 材料としては、土、木、竹、紙、布、糸、藁など、明治期以前から日本に存在し、生活の周辺から比較的たやすく、しかも安価に入手できるものが用いられている。
- (2) 製作は手作りで行なわれ、各地ごとに民芸的な個性がある。
- (3) 神社や寺院の縁日、門前市などで売られるものが多い。いずれも悪病、災難除け、招福長寿、豊作安産祈願など、民間信仰に結び付いたもの、或いは縁起物的な性格を持っている。なかには、神社から授与頒布される護符の色彩がことに強く、いわゆる玩具らしくない種類のものもこれに混じっている。
- (4) 各地の習俗、生活行事とも結び付きが深い。節供飾り、あるいは土地の祭礼などの年中行事にちなんだものが多く見られ、季節感に富んでいる。
- (5) 時期的にはそのほとんどが江戸時代から、産業革命前の明治期にかけて生まれ、各地域下町文化などを母胎にした郷土色を帯びている。

このように郷土玩具を定義付けるとき、郷土玩具と「観光土産文化資料」は、いずれも風土性を視覚的や物質的に表している媒体として、共通性を見出すことが可能である。しかし、成立背景やその時期を鑑みると、あくまでも前近代の生活文化的な背景を持つ郷土玩具と、昭和戦後に観光客という外来者に向けての商品として開発された「観光土産文化資料」は質的に峻別して考える必要があるだろう。そのため本稿における「観光土産文化資料」は、こうした郷土玩具とは異なる、同著に収録されていないことを前提に定義した。斎藤も、「こけし人形」など郷土玩具的な商品の開発を後押ししたものは、高度経済成長期における旅行需要の拡大だったと語る。その結果、観光地に「観光土産文化資料」のような「観光土産玩具」<sup>8</sup>が溢れ、郷土玩具の収集を趣味とする人々が増加したと指摘する。そして、郷土玩具の定義が漠然とする中、「観光土産玩具」の位置付けは検討が必要だと結んでいるが、「観光土産文化資料」は、学術研究の対象として議論の蓄積がみられる郷土玩具<sup>9</sup>とは異なり、学術的関心の外側に置かれてきたといえる。体系的に未整理のまま、その文化的・社会的な位置づけは十分に議論されてきていない。

## 3. 主要な「観光土産文化資料」の概要

### (1) こけし人形

一般的に知られている郷土玩具のこけしに対し、「こけし人形」は第二次世界大戦後に全国各地の百

貨店や観光地で観光土産として販売された。こけし蒐集家として知られる西田峯吉(1900~1993)は、「戦後都市のデパートや、全国いたる所の観光地で新しい形のこけしを売る様になった」<sup>10</sup>と語る。続けて、戦後に出現したバラエティ豊かな新型のこけしを「こけし人形」と呼称し、郷土玩具としてのこけしとは切り離して説明した。当館の「石炭こけし」や「琉球こけし」、「おけさこけし」などの「観光土産文化資料」におけるこけしは、この「こけし人形」に該当すると考えられる。

「こけし人形」の地域性は必ずしも販売された土地と直結していない。当時のこけし人形生産の一端が垣間見える1963年の新聞記事では、「無名コケシは小田原、前橋などのコケシ製造業者が作ったものを各府県の地名をつけ、それぞれの土地の特産品のようにみせかけて全国にバラまかれているのが実情で、ほとんどがその土地での製作品ではない」<sup>11</sup>と報じられている。このように、同一規格の「こけし人形」を一箇所で生産し、販売場所の地名を書き入れて観光土産としていた場合もある<sup>12</sup>。特に「こけし人形」(目録番号36及び37)2点は、量産された商品の可能性がある。生産年が不明であるものの同一規格であり、片方(36)のみ「本栖湖」と記されていることから、富士五湖のひとつとして知られる同地の観光土産として販売されていたと推測できる。

#### (1)-1 目録番号16「石炭こけし」

「ゆもと温泉」と記された台座の上に石炭が載せられ、その手前に小さな木製の男女の人形が配置されている。1964年の『週刊サンケイ』は、湯本温泉の観光土産として「石炭飴」と「嶽の月」という饅頭とともに、「六センチくらいの男女こけしの立っている台と、そのうしろに立てた石碑が、本モノの石炭。老夫婦で作っているので数はでない。こけしが坑夫もある。一個二百円。」<sup>13</sup>と、「石炭こけし」を紹介している。

「石炭こけし」は、福島県いわき市で盛んだった石炭鉱業と温泉事業の両者の要素が含まれている。1966年に常磐炭礦株式会社が「常磐ハワイアンセンター」、現在の「スパリゾートハワイアンズ」を開業した。常磐炭田は、福島県と茨城県にまたがる炭田地帯として一時は国内有数の採掘量を誇ったが、1976年に坑内掘を終了している。ここから、「石炭こけし」は同市の主要産業がエネルギー産業から観光業へと転換する過渡期を象徴する商品といえる。

#### (1)-2 目録番号21「琉球こけし」

現在も生産が続いている「琉球みやらびこけし」<sup>14</sup>

とは異なる。この琉球こけしとシルエットの酷似したこけしが、1962年の子どもの日の記念切手として発行された琉球切手に印刷されている。本土復帰前から土産物として一定の知名度があったことが窺える。また、『沖縄の旅：カメラ風土記』<sup>15</sup>(1963)に掲載された那覇市国際通りの土産物店の写真には、当館の琉球こけしと同様の商品が店先に並んでいることが確認できる。

#### (2) 目録番号6「スキーハウス」

日本へのスキー移入は1911年のことで、昭和時代以降娯楽としてゲレンデスキーが民間に受け入れられるようになった。1950年代にスキー場開発が進み、1960年から1973年頃に観光開発事業の盛り上がりを受けて「第一次スキー場開発ブーム」が起きた。カラーテレビが普及する以前において、降雪の少ない地域から来た観光客にとって、雪国の風物は印象深いものであったと考えられる。

#### (3) 目録番号11「信濃雪娘」、目録番号13「郷土人形」、目録番号19「お子守 諏訪郷土人形」、目録番号20「雪娘 しらかば製」

「信濃雪娘」と「郷土人形」は1961年に長野県諏訪市の「清水屋名産店」で、「雪娘(しらかば製)」と「お子守 諏訪郷土人形」は1963年1月11日に長野県諏訪市「やまふじ」で購入している。幼児を背負った少女の人形が白樺製の台座に載せられた「郷土人形」と「お子守 諏訪郷土人形」は、やや差があるが規格や造形や素材などが概ね一致しており、同一の生産場所で製作された可能性が高い。また、白樺の幹を使用した「雪娘」の置物「信濃雪娘」と「雪娘(しらかば製)」も大きさが異なるが造形が一致しており、これも同一の場所で生産された可能性がある。

#### (4) 目録番号17、18「マリヤ人形」

1962年に「長崎らくやき」という土産物店で購入した「マリヤ人形」は、花を持った修道女を象った人形である。これは長崎市の平和公園付近に存在した「被爆者の店」にて、生産・販売されていた商品であることが分かっている。1957年、「被爆者の店」は平和祈念像近くに「中国からの寄付金と市の援助をうけて、被爆という事実を生きたかたちで残そう」という意図の下に<sup>16</sup>建設された。近年まで営業していたが、被爆者団体のひとつである長崎原爆被災者協議会(被災協)の発表によると、2020年に新型コロナウイルスの蔓延により委託業者が撤退し、2023年に「被爆者の店」としては閉店している<sup>17</sup>。

社会学者で長崎の被爆者調査を行っていた石田忠は、この「被爆者の店」に開店当時から勤めていた女性を取材している。女性は被爆により足が不自由になったことから、手芸や和裁を生業としていた人物だが、「被爆者の店」では「マリア人形や絵葉書などの工芸品を売る係」<sup>18</sup>を務めたり、「マリア人形」を製作する仕事を担っていたという言及から、当時の状況が窺える。

(5) 目録番号 22 「小田原人形」

小田原名物のかまぼこを肩に担ぎ、手に小田原提灯を提げている。1963 年に、現在も「小田原 まると」として営業している小田原の土産物店「まると名産店」で購入した資料である。

(6) 目録番号 26 「牛鬼」、目録番号 27 「綱付牛（闘牛）」、目録番号 28 「横綱牛（闘牛）」

いずれも木彫で、1949 年から木彫家として活動していた宇和島出身の河野一水（<sup>こうの いっすい</sup>1916～？）らが製作した。とくに「牛鬼」は、河野によると宇和島の「和霊祭にねり歩く『牛鬼』を材料は桜」<sup>19</sup>で表現したとする。郷土玩具に数えられている張り子玩具にも、同様に祭事で使用される山車の牛鬼を表すものがある。また、「綱付牛（闘牛）」、「横綱牛（闘牛）」は同地の「定期闘牛大会」で知られる闘牛に因んでいる。現在はよりデザインが簡略化された置物として販売が継続している。

(7) 目録番号 30 「下野人形 宇都宮火の用心」、目録番号 31 「下野人形 宇都宮おんど」

台帳上は「下野人形」とあるが、栃木県小山市を生産地とする栃木県伝統工芸品の「下野しぼり」和紙を使用した下野人形とは異なる。下野人形の起源は一説によると奈良時代にまで遡ることができるが、1950 年代に下野しぼりを和紙人形の材料として利用拡大を図ろうと、下野しぼりの職人が下野人形を考案した。「目鼻のない顔」<sup>20</sup>であることを特徴とするが、当館収蔵の「下野人形」は、和紙を使用しておらず、顔も描かれている。

## おわりに

本稿で取り上げた「観光土産文化資料」が販売された背景として、鈴木勇一郎（2013）が指摘するように 1950 年代後半以降の国内における旅行需要の高まりがあった。特に 1960 年代は、1962 年以降の首都高速 1 号線を始めとした高速道路の開通や、訪日外国人観光客の増加を主な目標とした 1963 年の

観光基本法制定、1964 年の東海道新幹線開通と東京オリンピックの開催など、インフラ整備を含めて観光産業が急速に拡大した時期である。当時の旅行への関心の高まりは、運輸省観光局による『観光のはなし：わが国観光の現状』（1962）の記述<sup>21</sup>からも読み取れる。「観光土産文化資料」は、橋本和也（2011）が語るような旅行先での体験を持ち帰る手段として旅行者に求められた、当時の観光文化の一端を示す資料といえる。しかし、冒頭に取り上げた「お杉わらべ」のように、いつしか観光土産としてはポピュラーではなくなり衰退していった。これには、観光土産の多様化やコンパクトカメラの普及による写真撮影の大衆化など、さまざまな要因が考えられるが、その検討は今後の課題となる。

「お杉わらべ」の事例は、今後の「観光土産文化資料」リバイバルの行方を期待させる。大館工芸社による復刻は、「お杉わらべ」のかつての観光土産としての役割にとどまらない、当時と異なる現代的な価値を見越したものである。「癒やし」<sup>22</sup>といった情緒的な要素へのニーズに応えるかたちで、同社は「お杉わらべ」を再現するだけではなく、それを下敷きとした新商品「FOLK ART SERIES」を展開した。

「お杉わらべ」は現代の感性に寄り添うかたちで再構築されたといえる。このように、かつて観光土産として生産された手工芸品が、社会的な需要や価値観の変化に即し、アップデートされたケースも存在する。そうした変化の兆しがあるということも指摘しておきたい。

## 注

- 1：以降の括弧付きの資料名は、当館の収蔵資料台帳上の表記に従った。
- 2：濱田琢司「民芸ブームの一側面—都市で消費された地方文化—」『人文論究』第 50 号（2・3）、2000 年 12 月、111-124 頁。
- 3：さらに国立歴史民俗博物館の企画展示「ニッポンおみやげ文化博物誌」（2018）は、研究成果を同館のコレクションを中心に可視化したという点においても重要である。近世から現代までの贈答文化の変遷を紐解くとともに、土産品を収集するコレクターの文化にも焦点が当てられている。
- 4：神崎宣武『おみやげ 贈答と旅の日本文化』青弓社、1997 年、150-153 頁。
- 5：前掲註 4、神崎宣武著書、159 頁。
- 6：橋本和也『観光経験の人類学』世界思想社、2011 年、26 頁。
- 7：斎藤良輔編著『郷土玩具辞典』東京堂出版、1971 年、48 頁。
- 8：前掲註 7、斎藤良輔編著書、44 頁。
- 9：郷土玩具との関連性という点で以下の先行研究を挙げる。加藤幸治『郷土玩具の新解釈—無意識の“郷愁”はなぜ生まれたか』（2011）は、明治時代から昭和初期における一部の知識人の間で広がりを見せた、「郷土玩具趣味」を主題とする。アマチュアリズム的活動と、各知識人の郷土玩具に対する評価のスタンスを振り返ることで、近代化の過程で理想化された



ノスタルジーのありようを分析している。さらに、有坂與太郎らが考案した「創生玩具」に注目すると、入江繁樹「有坂與太郎の『創生玩具』論—昭和初期における『郷土玩具』像の再構築をめぐる一」（『品川歴史館紀要』第22号、2007年、115-132頁）と、加藤と入江の議論を整理した鳥越久美子「昭和初期における『創生玩具』の研究動向に関する考察：これまでの研究と今後の課題を中心に」（『教育基礎学研究』第14号、九州大学大学院人間環境学府教育哲学・教育社会史研究室2017年、131-141頁）がある。鳥越は、「創生玩具」はジャパン・ツーリスト・ビューローが普及に深く関わっており、観光地の土産品として販売することを視野に入れて考案された可能性があることを指摘している。

- 10：西田峯吉「こけし逸品めぐり」『旅』第32号、新潮社、1958年2月、44頁。
- 11：「五輪のおみやげ 優良品のリスト作成 外人客の苦情を防ぐ」読売新聞夕刊、1963年9月18日、第5面。
- 12：斎藤は、以下のようにこけし人形ブームについて説いている。  
「1948年に宮城県の『どんこけし』が開発されたことを皮切りに、以降こけし人形の市場が1960年前後を最盛期に隆興を誇った。また、生産の中心地だった神奈川県小田原市は、元来木工品や木地玩具を製作していたが、1950年に朝鮮戦争が開戦すると輸出用商品の生産が危ぶまれたため、打開策としてこけし人形生産に着手した。」（前掲註7、130頁。）
- 13：本埜亮一「エコノミック旅行 炭鉱湯の町・常磐湯本」『週刊サンケイ』第26号、扶桑社、1964年6月、53頁。
- 14：琉球新報社「誕生から半世紀 ぱっちりお目目の琉球みやらびこけし」<https://ryukyushimpo.jp/style/living-style/entry-1471617.html>、2025年5月20日アクセス。
- 15：沖縄タイムス社『沖縄の旅：カメラ風土記』沖縄タイムス社、1963年、65頁。
- 16：石田 忠編『続 反原爆 長崎被爆者の生活史』未来社、1974年、93頁。
- 17：一般財団法人長崎原爆被災者協議会（被災協）「『被災協ニュース 475号』発行」<https://hisaikyo.jp/tayori/>「被災協ニュース%E3%80%80475号」発行/、2025年5月29日アクセス。
- 18：前掲註16、石田 忠編、94頁。
- 19：「段々畑と海中公園—宇和島から足摺岬」『太陽』第4号、平凡社、1970年4月、145頁。
- 20：「名産・特産 民間信仰に支えられ 下野人形」朝日新聞朝刊、1972年3月3日、第19面。
- 21：「ここ数年来、レジャーブームの聲がきかれ、旅行客の著しい増加現象がめだっている。これは、国民の所得の増加に伴い、個人の消費パターンが変化する一方、（中略）いわゆる余暇消費が国民の消費生活の中で重要な役割を果しつつあることを背景とするものと思われる。」運輸省観光局 編『観光のはなし：わが国観光の現状』、大蔵省印刷局、1962年、41頁。
- 22：秋田テレビ「50年ぶりに復活『お杉わらべ』 古くて新しい郷土人形 アート作品のような新シリーズも登場【秋田発】」<https://www.fnn.jp/articles/-/666823>、2025年5月20日アクセス。

## 主要参考文献

斎藤良輔編著（1971）『郷土玩具辞典』東京堂出版  
神崎宣武（1997）『おみやげ 贈答と旅の日本文化』青弓社  
橋本和也（2011）『観光経験の人類学』世界思想社  
鈴木勇一郎（2013）『おみやげと鉄道 名物で語る日本近代史』講談社



図1：目録番号1 子守こけし



図2：目録番号2 河童こけし（緑色）



図3：目録番号3 さつま人形



図4：目録番号4 雪人形



図5：目録番号5 おけさ竹人形



図6：目録番号6 スキーハウス



図7：目録番号7 趣味のこけし



図8：目録番号8,9 ゴザコケシ  
（くらしき民芸）



図9：目録番号10 親子鶴



図10：目録番号11 信濃雪娘



図11：目録番号12 郷土人形  
「スケート」



図12：目録番号13 郷土人形



図13：目録番号14 吉備の牛



図14：目録番号15 平名物  
じゃんがら人形



図15：目録番号16 石炭こけし





図 16：目録番号 17,18 マリヤ人形



図 17：目録番号 19 お子守  
諏訪郷土人形



図 18：目録番号 20 雪娘  
(しらかば製)



図 19：目録番号 21 琉球こけし



図 20：目録番号 22 小田原人形



図 21：目録番号 23 まゆ人形 黒坊



図 22：目録番号 24 まゆ人形 達磨



図 23：目録番号 25 お杉わらべ



図 24：目録番号 26 牛鬼



図 25：目録番号 27 綱付牛（闘牛）



図 26：目録番号 28 横綱牛（闘牛）



図 27：目録番号 29 おけさこけし



図 28：目録番号 30 下野人形  
宇都宮火の用心



図 29：目録番号 31 下野人形  
宇都宮おんど



図 30：目録番号 32 因幡 傘踊り



図 31：目録番号 33 陶製人形《牛》



図 32：目録番号 34 土人形  
《牛》



図 33：目録番号 35 木彫人形《牛》



図 34：目録番号 36 こけし人形



図 35：目録番号 37 こけし人形



図 36：目録番号 38 温度計《狸》



図 37：目録番号 39 郷土人形  
《藍染職人》正面



図 38：目録番号 39 郷土人形  
《藍染職人》側面

# 館蔵観光土産文化資料目録

## I 商品資料

|    | 資料名               | 受入年月日      | 受入先                        | 産地及生産者             | 個数  | 高さ<br>(cm) | 幅 (cm)<br>最大サイズ | 奥行 (cm)<br>最大サイズ | 受入価格<br>(円) | 受入種類 | 資料<br>番号 | 備考                       |
|----|-------------------|------------|----------------------------|--------------------|-----|------------|-----------------|------------------|-------------|------|----------|--------------------------|
| 1  | 子守こけし             | 1957/4/18  | 仙台市商工会議所<br>物産陳列所          | (仙台) こけし屋          | 1   | 15.3       | 7.5             | 7.5              | —           | 購入   | CB36     |                          |
| 2  | 河童こけし (緑色)        | 1957/4/18  | 仙台市商工会議所<br>物産陳列所          | こけし屋               | 1   | 12.3       | 2.9             | 2.8              | —           | 購入   | CB38     |                          |
| 3  | さつま人形             | 1958/11/25 | 三越本店                       | 鹿児島県               | 1   | 15         | 10.7            | 6.7              | 300         | 購入   | CB89     |                          |
| 4  | 雪人形               | 1959/9/28  | 新潟県新潟市古町七番町<br>952 大和新潟店   | 新潟県                | 1   | 15.8       | 6.5             | 6.3              | 200         | 購入   | NC11     |                          |
| 5  | おけさ竹人形            | 1959/9/28  | 新潟県新潟市古町七番町<br>952 大和新潟店   | 新潟県                | 1   | 33.3       | 6.8             | 1.3              | 80          | 購入   | CC92     | 一般的に認知されている「おけさ竹人形」とは異なる |
| 6  | スキーハウス            | 1959/9/28  | 新潟県新潟市古町七番町<br>952 大和新潟店   | 新潟県                | 1   | 11.4       | 10.3            | 5                | 200         | 購入   | NC13     |                          |
| 7  | 趣味のこけし            | 1959/9/28  | 新潟県新潟市古町七番町<br>952 大和新潟店   | 新潟県                | 1   | 18.8       | 6.5             | 6.3              | 200         | 購入   | CB100    |                          |
| 8  | ゴザコケシ<br>(くらしき民芸) | 1960/1/12  | 岡山市東田町 52<br>岡山貿易協会        | 倉敷市<br>(倉敷輸出 K.K.) | 1 対 | 11.3       | 3               | 3.3              | 150         | 購入   | CD18     |                          |
| 9  | ゴザコケシ<br>(くらしき民芸) | 1960/1/12  | 岡山市東田町 52<br>岡山貿易協会        | 倉敷市<br>(倉敷輸出 K.K.) |     | 11         | 3               | 3.5              |             |      |          |                          |
| 10 | 親子鶴               | 1960/1/12  | 岡山市 岡山貿易協会                 | 岡山 吉岡武雄            | 1   | 15.4       | 9.5             | 6.8              | 200         | 購入   | NC33     |                          |
| 11 | 信濃雪娘              | 1961/1/11  | 諏訪市本町駅前通<br>清水屋名産店         | 上諏訪 霧ヶ峯工芸舎         | 1   | 37         | 10              | 8.3              | 250         | 購入   | CB150    |                          |
| 12 | 郷土人形 スケート         | 1961/1/11  | 諏訪市本町駅前通<br>清水屋名産店         | —                  | 1   | 43         | 17.8            | 23.5             | 600         | 購入   | NC49     |                          |
| 13 | 郷土人形              | 1961/1/11  | 諏訪市本町駅前通<br>清水屋名産店         | —                  | 1   | 25.3       | 11.1            | 9.8              | 300         | 購入   | NC50     |                          |
| 14 | 吉備の牛              | 1961/1/12  | 岡山貿易協会<br>(岡山市東田町 52)      | —                  | 1   | 10         | 16.3            | 6.2              | 150         | 購入   | NC62     |                          |
| 15 | 平名物じやんがら人形        | 1962/1/11  | 常磐市 湯本温泉<br>小井戸商店          | 福島県                | 1   | 8.3        | 17.3            | 7.2              | 200         | 購入   | NC80     |                          |
| 16 | 石炭こけし             | 1962/1/11  | 常磐市 湯本温泉<br>小井戸商店          | 福島県                | 1   | 9.2        | 7.5             | 6.3              | 170         | 購入   | NC81     |                          |
| 17 | マリヤ人形             | 1962/5/11  | 長崎市思案橋小路 63<br>長崎らくやき 山下寿美 | 長崎県                | 1   | 21.3       | 7               | 8                | 200         | 購入   | NC85     |                          |

| 資料名                | 受入年月日      | 受入先                                            | 産地及生産者 | 個数 | 高さ<br>(cm) | 幅 (cm)<br>最大サイズ | 奥行 (cm)<br>最大サイズ | 受入価格<br>(円)       | 受入種類 | 資料<br>番号 | 備考     |
|--------------------|------------|------------------------------------------------|--------|----|------------|-----------------|------------------|-------------------|------|----------|--------|
| 18 マリヤ人形           | 1962/5/11  | 長崎市 長崎らくやき                                     | 長崎県    | 1  | 21.3       | 6               | 7                | 100               | 購入   | NC86     |        |
| 19 お子守 諏訪郷土人形      | 1963/1/11  | 長野県諏訪市本町2<br>やまふじ<br>藤森香雄 (観光みやげ三<br>協オールド特約店) | 長野県    | 1  | 25.8       | 10.5            | 8.6              | 300               | 購入   | NC102    |        |
| 20 雪娘 (しらかば製)      | 1963/1/11  | 長野県諏訪市本町2<br>やまふじ<br>藤森香雄 (観光みやげ三<br>協オールド特約店) | 長野県    | 1  | 61.4       | 14.8            | 11.5             | 650               | 購入   | CB215    |        |
| 21 琉球こけし           | 1963/7/3   | 沖縄 那覇<br>大越デパート                                | 沖縄県    | 1  | 16.5       | 4.5             | 4.4              | \$ 0.70           | 購入   | CB228    |        |
| 22 小田原人形           | 1963/8/28  | 小田原駅前<br>まると名産店                                | 神奈川県   | 1  | 14.3       | 8               | 5                | 200               | 購入   | NC123    |        |
| 23 まゆ人形 黒坊         | 1963/8/15  | 群馬県高崎駅鉄道弘済会                                    | 群馬県    | 1  | 9          | 6.7             | 2.7              | NC124か<br>ら NC126 | 購入   | NC125    |        |
| 24 まゆ人形 達磨         | 1963/8/15  | 群馬県高崎駅<br>鉄道弘済会                                | 群馬県    | 1  | 13         | 13              | 2.6              | の3点で<br>計 550     | 購入   | NC126    |        |
| 25 お杉わらべ           | 1963/10/11 | 秋田民衆駅<br>秋田ステーションデパー<br>ト K.K.                 | 秋田県    | 1  | 19.3       | 14.2            | 6.2              | 460               | 購入   | CB255    | 通産大臣受賞 |
| 26 牛鬼              | 1964/9/2   | 愛媛県松山市二番町 44<br>愛媛県物産協会                        | 愛媛県    | 1  | 19.3       | 6.3             | 4.7              | 720               | 購入   | CB272    |        |
| 27 綱付牛 (闘牛)        | 1964/9/2   | 愛媛県松山市二番町 44<br>愛媛県物産協会                        | 愛媛県    | 1  | 6.9        | 10.2            | 6.8              | 200               | 購入   | CB273    |        |
| 28 横綱牛 (闘牛)        | 1964/9/2   | 愛媛県松山市二番町 44<br>愛媛県物産協会                        | 愛媛県    | 1  | 7.5        | 11.8            | 6                | 250               | 購入   | CB274    |        |
| 29 おけさこけし          | 1964/10/1  | 新潟県新潟市西堀通五番<br>町 866 小林百貨店                     | —      | 1  | 22.7       | 7.4             | 5.7              | 150               | 購入   | CB279    |        |
| 30 下野人形<br>宇都宮火の用心 | 1965/2/23  | 栃木県宇都宮市川向町<br>3525 宇都宮駅デパート                    | 栃木県    | 1  | 15.4       | 7.3             | 6                | —                 | 購入   | NC154    |        |
| 31 下野人形<br>宇都宮おんど  | 1965/2/23  | 栃木県宇都宮市川向町<br>3525 宇都宮駅デパート                    | 栃木県    | 1  | 12.4       | 5               | 3.6              | —                 | 購入   | NC157    |        |
| 32 因幡 傘踊り          | 1965/8/16  | 鳥取県物産館                                         | 鳥取県    | 1  | 6.8        | 25.1            | 4                | 650               | 購入   | CC137    |        |

※資料名・受入先・産地及生産者は当時の資料台帳の記載をそのまま抜き出している。

※台帳上未記載の情報は「—」で示した。



## Ⅱ 時田昌瑞ことわざコレクション

|    | 資料名        | 年代     | 受入先 | 産地及生産者 | 個数 | 高さ<br>(cm) | 幅 (cm)<br>最大サイズ | 奥行 (cm)<br>最大サイズ | 受入価格 | 受入種類 | 資料番号        | 備考                           |
|----|------------|--------|-----|--------|----|------------|-----------------|------------------|------|------|-------------|------------------------------|
| 33 | 陶製人形《牛》    | 1960年代 | —   | 舟戸幸治商店 | 1  | 7          | 13.3            | 4.9              | —    | 寄贈   | Ⅱ-6生活資料-36  | 美濃焼に彩色したもののことわざ「牛に引かれて善光寺参り」 |
| 34 | 土人形《牛》     | —      | —   | —      | 1  | 5.8        | 10.9            | 3.5              | —    | 寄贈   | Ⅱ-6生活資料-53  | ことわざ「牛に引かれて善光寺参り」            |
| 35 | 木彫人形《牛》    | —      | —   | —      | 1  | 4.6        | 10.4            | 3.4              | —    | 寄贈   | Ⅱ-6生活資料-101 | ことわざ「牛に引かれて善光寺参り」            |
| 36 | こけし人形      | —      | —   | —      | 1  | 10.6       | 3.6             | 3.5              | —    | 寄贈   | Ⅱ-6生活資料-109 | ことわざ「七転び八起き」                 |
| 37 | こけし人形      | —      | —   | —      | 1  | 10.6       | 3.5             | 3.5              | —    | 寄贈   | Ⅱ-6生活資料-110 | ことわざ「笑う門には福来る」               |
| 38 | 温度計《狸》     | —      | —   | —      | 1  | 11.8       | 8.4             | 4.8              | —    | 寄贈   | Ⅱ-7現代商品-8   | 「京都」の表記ありことわざ「分福茶釜に毛が生えた」    |
| 39 | 郷土人形《藍染職人》 | —      | —   | —      | 1  | 12.6       | 9.8             | 9                | —    | 寄贈   | Ⅱ-7現代商品-13  | 「登録商標『鳴門大橋』」の表示ことわざ「紺屋の白袴」   |

※台帳上未記載の情報は「—」で示した。

# X 伝上野国綿貫古墳群出土の龍文金銅透彫製品

忽 那 敬 三

## はじめに

当館の考古部門では、東アジアの青銅器、古墳出土資料、化石人類・古生物レプリカを中心に資料の収集を行っている。今回は、2024 年度に購入した伝上野国綿貫古墳群出土の龍文金銅透彫製品を紹介する。なお、本稿の記述は現段階の所見の概要であり、詳細な報告は後日稿を改めて行う。

本資料は収納された箱に「伝上野国□□古墳出土金銅鞍金具」と記された紙が貼付されていた。古墳名の部分は紙の表面を削って消されているが、「綿貫」と判読が可能である。関係者によれば、採集時期は戦前であり、群馬県高崎市綿貫観音山古墳の造り出しから出土したという。しかし、綿貫観音山古墳には造り出しは存在せず、後述するように本資料は年代的にも 5 世紀代の製品と考えられるため、同古墳の出土品である可能性は低い。そのため、綿貫観音山古墳を含み、5 世紀から 6 世紀にかけて 20 基以上の古墳が築かれた同市の綿貫古墳群内のいずれかの古墳が該当する蓋然性が高いと考えられるため、当館で付した名称も同古墳群出土とした。出土古墳については、最後に検討する。

## 1. 本資料の概要

本資料は 7 点からなる金銅製の透かし彫り製品で、板状を呈する。なお、相互の破片同士に接合関係はない。表面の大半は錆で覆われているが、一部に表面の金銅が残存しており、小片を除き全点に龍の連続文の透かし彫りが施されている。各片はそれぞれの破片の形状に合わせた台におおよそ写真 1 の配列で収納されていた。

龍文の部分を抽出したものが写真 2（後述の F 片より）で、高さ 3.9 cm 幅 6.2 cm を測る。口から舌が伸び、横長の頭部に杏仁形で高さ 2 mm、幅 4 mm の目が穿たれる。口に歯は無い。角は上辺の枠に入りつつ後方へ伸びる。胴部は逆 S 字形で緩やかにカーブし、前足が前方向きに上下並列する形で 2、後ろ足は分岐が不明瞭ながら、胴下部に 1、胴後方に 1 配されているようである。尾は後ろ足の付け根部分から上部へ伸び、角と後続する 2 匹目の上前足の爪と接し、円環状をなす。表面の大半は錆に覆われて不明瞭であるが、わずかに残存する金銅部分の状況から、龍文は応神天皇陵古墳の陪塚とされる伝誉田丸山古墳（大阪府）1 号鞍の龍文と同様に、文様の外形に沿って蹴り彫りによる 2 本の線が縁取り状に描かれていたと考えられる。また、残存状態のよい破片では、目と口の間に描かれたしわ状の縦並びの 3 本の弧線の文様や、分岐部に点文が観察できる。この龍文の形状は、国内でこれまで知られている帯金具や馬具の龍文と比較すると、形状や各部位の配置、羽毛の場所に至るまで伝誉田丸山古墳 1 号鞍の龍文と酷似しており、同一の工房あるいは工人による製作の可能性も今後検討されるべきであろう。

なお、A～G 片のうち A～F 片には裏面に厚さ約 2 mm の鉄板が残存しており、A、C、D、E 片は透かし彫り側から鉄板を留めた径 2.5～3 mm の鉚が確認できる。

次に、各片について述べる。掲載した写真は方形部の A・B 片以外は、各片の龍文の頭部が上、手足が下となるように配置しており、想定される本来の上下左右方向ではない。

① A 片（方形部片。写真3、4のうち大型の破片）

縦 10.5 cm、横 10.4 cm、透かし彫り部分の厚さ 1.5 mm で全体に方形を呈し、上部左側に弧状の部品が残る。この部品は透かし彫りが施された金銅製板本体と裏面の厚さ 2 mm の長方形鉄板を上方へ折り曲げ、その表面に厚さ 0.5 mm 以下の薄い金銅製板を鋲留した襟状を呈するもの（幅 1.1 cm）である。右側上端も弧状に破損していることから、こちらにも同様の部品が存在し、方形の透かし彫り文様の中心線（幅 2 mm）の上端から両側に広がる形であったと考えられる。表面が錆で覆われているため不明瞭であるが、B、C、D 片と同じく上辺と下辺に 1.5 mm 間隔で裏面から打ち出した列点文が施されている。

一方、下端は水平方向の帯状の外枠が存在しない。透かし彫りがさらに下へ延びていた可能性もあるが、後述する裏面の鉄板の下端には折損の痕跡がないため、透かし彫り部分についても現状の残存部が下端であると思われる。

方形部の透かし彫りは、波状列点文を描く左右の外枠（幅 6 mm）内に収まっている。前述の中心線を境に、上（頭）が外枠側、下（手足）を中心線側として、下向きの龍文を左右対称に配置する。左側の龍文はほぼ全体が残存しており、下端に 1 匹目の舌があり、上方に尾と後ろ足が見えるが、後続する 2 匹目は舌から頭の半分と前足で文様が途切れている。

なお、左右の龍文どちらにも龍の目には鋲があり、裏面の鉄板を留めているほか、左の外枠にも固定用とみられる穴がある。また、外枠の外縁は内傾する面取りがなされている。これは、同じく方形部片の一部とみられる E 片も同様に、垂直に裁ち落としている他の帯状の破片（C、D、F、G 片）と異なっている。

裏面の鉄板（写真4）は、残存状況から 3 枚の長方形板とみられる。X 線撮影を行っていないため、視認できる限りでは中央の長方形板の左右に側に同大の板を重ねているようである。なお、革綴や鋲留の痕跡は確認できない。この裏面の状況ならびに襟状の部分の存在から、本資料は首付近に装着する武具の頸あかべよろい甲に龍文金銅透かし彫り板を取り付けたものである可能性が高いことが明らかになった<sup>1</sup>。頸甲とすると、この A 片は胸または背の中心を飾る装飾となるが、どちらに推定されるか

については後述する。

② B 片（襟状片。写真3、4のうち小型の破片）

襟状の部分に鋲留されていた厚さ 0.5 mm 以下の薄い金銅製板で、縦 1.5 cm、横 6 cm である。左端には鉄製の襟状片の一部が残る。また、表面には鉄片が付着している。A 片左側の襟状部と同様の弧状の破片で、全体に錆が進行しているが、中央部やや左寄りの金銅が残存している部分の下辺に、A 片などと同じく列点文が観察できるが、上辺は欠損と付着鉄片のため列点文は確認できない。

他のどの破片とも接点を持たないため位置は不明であるが、錆や他の破片との関係から A 片あるいは F 片の一部か、A 片と対称になる部位の破片と考えられる。

③ C 片（帯状片。写真5）

縦 6.5 cm、横 28.4 cm をはかる。本資料の中では最大の破片で、歪みはあるものの側面観は緩やかに弧状を描いている。写真下辺の弧状の欠損と襟状部分から、首周りに胸・肩にかけての部品と考えられる。幅 4～5 mm の外枠内に、右向きの龍が 5 匹（最後の 1 匹は頭と前足の一部のみ残存）表現され、枠も含めた文様帯の最大幅は 4.7 cm で、最も狭い部分は 3.1 cm である。中央やや右寄りの文様帯が最も狭い部分の上辺の外枠に弧の一部を欠く円形の穴が 3 か所連続して穿たれている。文様が<sup>2</sup>、あるいは隣に鋲留が 1 か所あることから、鋲を集中して固定した特殊な部位の痕跡と考えられる。

C 片の右端部は外枠ごと折損しているが、左端部は裏面の方形鉄板が本来の形状を保っていることから、透かし彫り板も残存部分が本来の端部であると思われる。この端部の透かし彫り板は本来の文様パターンとは異なり、外枠が段状に下へ伸びることから、端部のみ特別な形状である可能性がある。

下辺の右 2/3 は弧状を呈し、右端部分には上下辺に列点文を有する襟状の金銅板が残存する。この襟状片の右端付近では、透かし彫り板と裏面の鉄板との間に透かし彫り板がもう 1 枚存在している。当該部分の上面の透かし彫り板には帯状の外枠が確認できることから、折れ曲がったものが入り込んでいるわけではない。A 片ではそのような状況は見られないため、部位によって異なる組み方を行っていた可能性がある。

裏面には襟状部、左端部、中央部の 3 か所に鉄板が残

存し、錆のため鮮やかな黄褐色を呈する。A 片のような板の重なりは確認できない。左端部の鉄板は透かし彫りからはみ出しているが、残存する各辺が透かし彫りの枠線と平行していることから、固定された本来の部位を保っていると見てよいだろう。A 片と同様、方形の鉄板に鋳で透かし彫り板を固定している状況をよく示している。なお、左端部鉄板の表面の一部に織物とみられる痕跡が確認できる。

#### ④ D 片（带状片。写真 6）

縦 4.3 cm、横 8.5 cm の带状部片で上辺に外枠、下辺に襟状部分が残し、両端を欠損する。縦の長さは C 片の最も幅が狭い部分に近い点、また上辺右端に C 片の外枠で見られた連続する穿孔（こちらは半円形で 4 か所）がある点から、同一個体であると仮定すれば、C 片の連続穿孔がある部分と対称となる首周りの部位と考えられる。

D 片は比較的金銅の残りが良く、襟部金銅板の上下の列点と固定する鋳が明瞭に観察できる。龍文は向かって左向きで、破片右に位置する 1 匹は角の一部と尾のみであり、破片左の 1 匹は舌から尾まで残るが、透かし彫り文様帯の幅が狭いため下の前足と後ろ足が無い。

裏面の鉄板は襟部分で屈曲し、上端まで残存する。

#### ⑤ E 片（方形部片か？写真 7）

縦 3.2 cm、横 4.5 cm の小片で、龍文の舌、頭、角、首と幅 6 mm の透かし彫り文様帯の外枠が残る。多くが淡緑色の錆で覆われるが、龍文の目、目と舌の間のしわ状の複線や、外枠の直線文とその間に描かれる波状列点文と鋳が観察できる。裏面には鋳留された鉄片が残る。

外枠の幅が広いことから、A 片と同様の方形部の一部であるとみられる。A 片が現状の大きさでさらに下に延びないのであれば、A 片とは別にもう 1 点方形部が存在したと考えられ、それは表面の錆の状況が A 片と E 片で異なる点からも、両者が離れた位置で出土したことを窺わせる。同形の頸甲が 2 個体存在した可能性もあるが、頸甲は胸側と背側を覆う武具である点から、1 個の頸甲の前と後ろに方形部が 1 点ずつ配置されており、E 片は A 片の反対側の方形部の一部であった可能性が高い<sup>3</sup>。

#### ⑥ F 片（带状片。写真 8）

縦 5.4 cm、横 13.2 cm で幅 4～5 mm の外枠内に向かって左向きの龍文が中心に 1 匹、後に 1 匹の頭と前足の透

かし彫りが残り、左右両端は欠損する。裏面に一部鉄片が残るものの、ほとんど失われているため龍文が最も視認しやすい。

この破片で重要なのは右側の端部である。右上角部は枠線を欠くが、欠損部が径 1 cm の円形を呈しており、文様または何らかの方法で固定を行っていた痕跡とみられる。また、この欠損部から外枠が 3.2 cm の長さで斜め下方へと延びている。龍文もこの斜めの外枠に沿って変則的に構成されており、龍の部位の推測が困難である。なお、右端の文様帯は 1 cm の幅で折れ、外枠裏側へ曲がっている。C 辺の左側端部も外枠が段状になっていることから、この F 片も带状部の端部である可能性が高い。

ただし、下辺の外枠の形状は中心に向かって緩く弧を描いており、襟周りに近い部位であるかもしれない。C 片の類似部分とは異なっており、注意が必要である。

#### ⑦ G 片（带状片。写真 9）

縦 4.9 cm、横 11.3 cm で、上辺と左コーナー部、下辺の一部に幅 4～5 mm の外枠が残し、表面は錆で覆われ、ごく一部に金銅が認められる。龍文は向かって左向きで、全体が残るものが 1 匹、上半身が 1 匹である。外枠のコーナー部の存在から带状部分の端部であることが明らかであるが、残念ながら他の破片との接点はない。

## 2. 形状の復元案

以上の特徴から、本資料は国内ではこれまで類例が知られていない「龍文透彫金銅板付鉄製頸甲」であると考えられる。各片相互に接合関係は無いため、形状から本来の部位を想定してみたい。

まず、大型の A 片と C 片の関係であるが、写真 1 のように C 片の右端部と A 片の右片が接すると考えた場合、前述のように C 片右端部は透かし彫り板が既に 2 枚重なった状態であるため、外枠が残存している A 片右側がさらに重なるとは考えにくい。それに従うと、C 片左端部（方形を呈する側）が A 片の左側と接することになり、両者の直線部分の長さもほぼ合致する点からも蓋然性が高いといえる。C 片が 28 cm 余りと長いと、同一個体であるとすれば残りの带状を呈する D、F、G 片は首を挟んで反対側に並ぶと考えられ、それぞれ残存する端部と首周りの円弧の形状から、F、D、G 片の順に並



び、A片と接するのはF片となる。この位置関係であると各片の龍文の頭が下向きで全て揃う点もこの配置の妥当性を示している。

E片は錆の状況からA片と反対側の方形部と推定されるが、龍文の方向を帯状部と揃えていたと仮定すると、頭が首側を向く配置（装着した場合上向き）となる。また、B片も接点がないが、円弧と襟部の薄い金銅板の残存状況から、C片には接しないこと、また錆の状況が近いことからA・D片のいずれかに近い位置であったと考えられる。E片側にA片とほぼ同大の方形部が存在し、F、D、G各片は文様パターンからそれぞれ数mmほど離れていたと仮定すると、縦34.5 cm、横幅21 cmほどの大きさであったと推定される。

これらを踏まえて、各片が同一個体であった場合の前後方向を推定すると、A片を胸側と考えた場合、C片ほか肩部も含めて全ての龍文が下向きとなってしまう。文様の見た目を重視して龍文を昇る方向を正面としたとすれば、胸側はE片側であり、A片側は背面であった可能性があると考えられる<sup>4</sup>。

## おわりに

以上のように、本資料は国内では他に例が知られていない「龍文透彫金銅板付鉄製頸甲」という特殊な製品である。龍文の金銅透かし彫りをもつ古墳時代中期の製品としては、馬具や帯金具が知られており、特に帯金具は奈良県五条猫塚古墳などで小札甲に装着した例（初村2015）があるが、中国や朝鮮半島では同様の製品はみられないという。武具に装着したという点では共通するが、本資料は30 cmを超える大型品で、鞍を除けば国内最大級である。また関東地方における龍文透彫製品の出土は埼玉県埼玉稲荷山古墳の帯金具が知られている程度であり、極めて少数である。採集地の情報が正しいとすれば、群馬県でこうした製品を所有する有力な首長が存在したことを示している。

さらに重要な点は、前述の通り龍文の形状が伝言田丸山古墳1号鞍とほぼ一致することである。これを踏まえば、年代は5世紀の前半とみることができうえ、河内のヤマト王権との関わりも推測できよう。

そうなれば、やはり出土古墳が問題となる。前述のよ

うに、綿貫古墳群内のいずれかの古墳であると考えられるが、旧蔵者によると、「戦前」に、「造り出しから出土した」という。多くの前方後円墳が存在する群馬県内でも造り出しを有する古墳は限られる。綿貫古墳群内でも確実なものは不動山古墳（全長94mの前方後円墳）のみである。不動山古墳については1960年代に造り出しの全面発掘が行われたが、埋葬・埋納施設らしき痕跡は確認されておらず、金銅製品の出土もない。可能性としては、1935年前後に消滅した綿貫古墳群内最大の岩鼻二子山古墳（全長115mの前方後円墳）あるいは周辺の陪塚的な古墳からの出土が想定される<sup>5</sup>。

現状では出土古墳の特定は困難であるが、『日本書紀』の応神天皇・仁徳天皇の記事内にも記述がみられる上毛野氏との関係など、東国の古墳時代史を考える上でも本資料は重要な示唆を与える資料といえよう。

なお、本稿の記述は現時点の観察や知見に基づいている。構造や復元の推定など今後の分析により変更が生じる可能性がある点をご承知おきいただきたい。

## 注

- 1：塚本敏夫氏、土屋隆史氏、初村武寛氏、桃崎祐輔氏のご教示による。
- 2：土屋隆史氏のご教示による。
- 3：塚本敏夫氏、初村武寛氏のご教示による。
- 4：塚本敏夫氏、初村武寛氏によれば、頸甲であるとすればC片左端の鉄板は、角度的に胸側ではなく背側である可能性が高いとの見解であった。
- 5：東京国立博物館には調査時の資料が収蔵されているが、岩鼻周辺とされている資料群の細片中に金銅透彫らしき破片を確認している。

収集及び本稿を成すにあたり、次の方々から貴重なご教示ならびにご協力を賜りました。心より感謝申し上げます。（敬称略、50音順）

飯田浩光、梅澤重昭、河野正訓、菊池望、群馬県立歴史博物館、古美術風招、塚本敏夫、土屋隆史、角田真也、東京国立博物館、初村武寛、三浦茂三郎、宮代栄一、桃崎祐輔、山本亮、若狭徹

## 参考文献

- 高田貫太 2016 「古墳出土龍文透彫製品の分類と編年」『国立歴史民俗博物館研究報告』第178集 国立歴史民俗博物館 pp.121-141
- 初村武寛 2015 「五条猫塚古墳出土小札甲の構造と甲冑の装飾 — 小札甲と帯金具の関係性に着目して —」『五条猫塚古墳の研究 総括編』奈良国立博物館 pp.303-312



写真1 伝上野国綿貫古墳群出土龍文透彫金銅製品



写真2 龍文部分 (F片より、縮尺ほぼ等倍)



写真4 A・B片裏面(縮尺約 1/2)

←写真3 A・B片表面(縮尺ほぼ等倍)





写真5 C片（縮尺約1/2）



写真6 D片（縮尺ほぼ等倍）



写真7 E片（縮尺ほぼ等倍）



写真8 F片（縮尺ほぼ等倍）

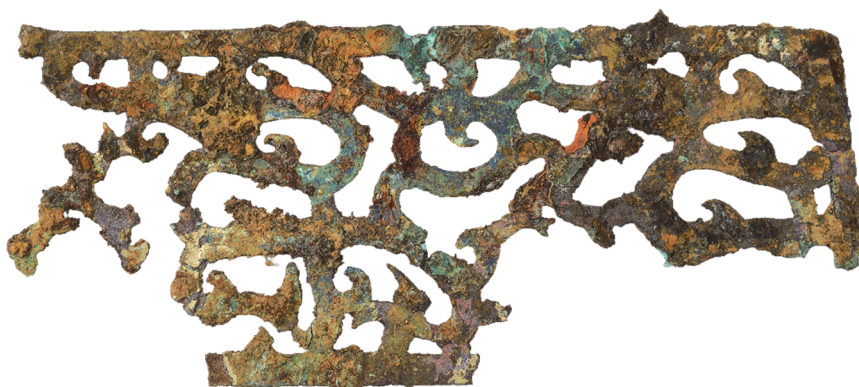


写真9 G片（縮尺ほぼ等倍）

表紙写真

商品部門の新収蔵資料（信楽焼／滋賀県）

農夫埴輪（1958 年購入）

改撰 江戸大絵図（部分）

## 明治大学博物館年報 2024 年度

---

2025 年 9 月 30 日発行

編集 忽那敬三 明治大学博物館

発行 明治大学 学術・社会連携部 博物館事務室

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1

電話 03-3296-4448 FAX 03-3296-4365

URL <http://www.meiji.ac.jp/museum/>

印刷 株式会社サンヨー

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-30

電話 03-3294-4953 FAX 03-3294-4960

---



